

Hokkaido University News

北大時報

令和6年

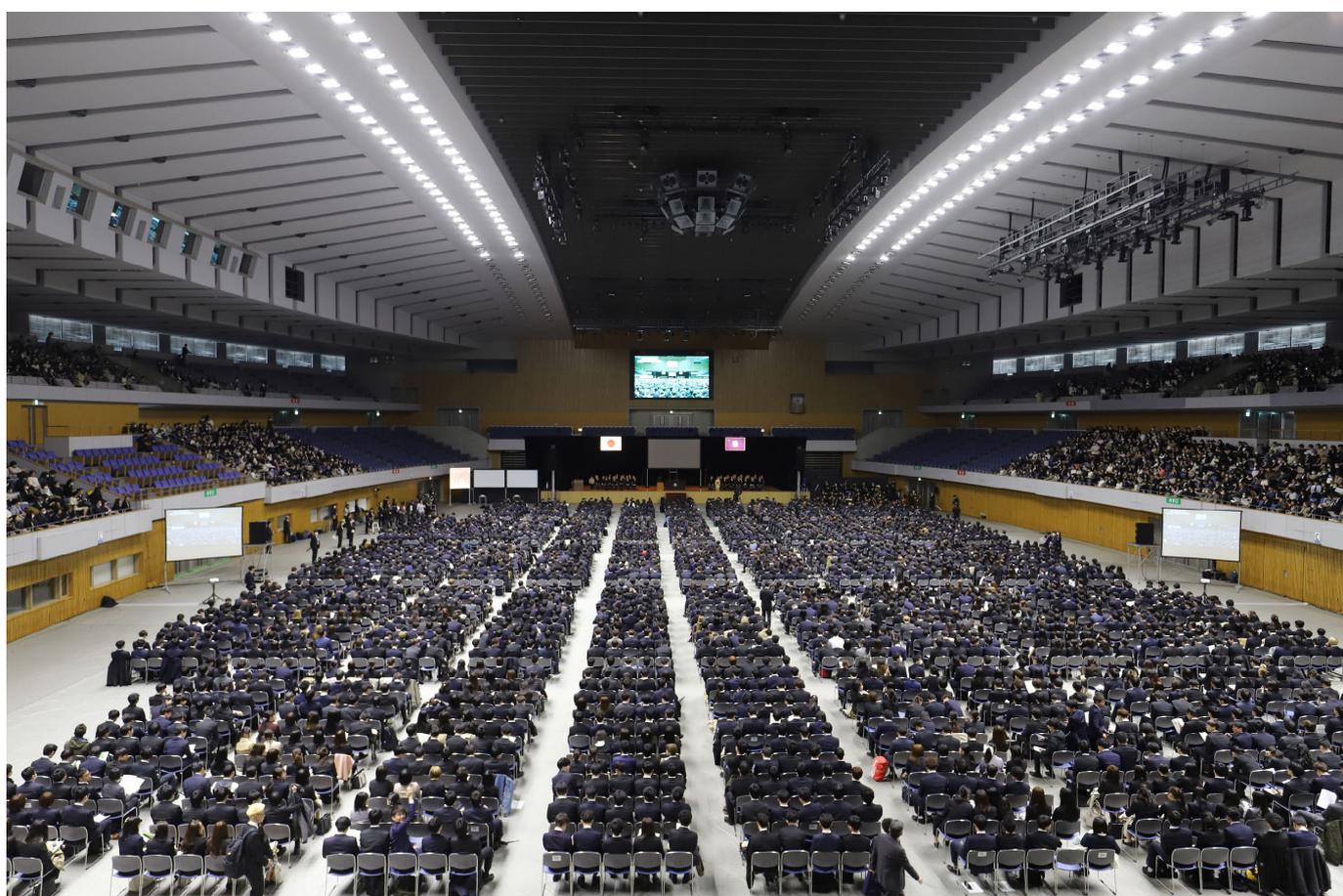
4

No. 841 April 2024

令和5年度学位記授与式の挙行

令和6年度入学式の挙行

令和5年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行





令和5年度学位記授与式の挙行



令和6年度入学式の挙行

全学ニュース

- 1 令和5年度学位記授与式の挙行
- 5 令和6年度入学式の挙行
- 8 令和5年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行
- 10 名誉教授に42氏
- 11 令和6年度北海道大学の予算
- 13 令和5年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙行
- 14 新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行
- 15 令和5年度Integrated Science Program（ISP）修了式を挙行
- 16 令和5年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
- 17 令和5年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙行
- 18 令和5年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
- 19 令和5年度北海道大学クラーク賞授与式を挙行
- 20 令和5年度北大えるむ賞授与式を挙行
- 21 「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン1」第33回FSPアジアを実施
- 22 NHK札幌放送局と包括連携協定を締結
- 23 北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）
- 25 ほくだい技術者図鑑×いいね！Hokudaiコラボに向けた講習会を開催
- 26 創成研究機構ワクチン研究開発拠点が市民公開講座を開催
- 27 「第1回北大発認定スタートアップMeet-Up」を開催
- 28 「北海道発アントレプレナーシップ教育体験ワークショップ」を開催
- 29 EDGE-PRIME Initiative 事業成果報告会「HOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催
- 30 月形町でローカル起業を目指すプログラム「TSUKI BIZ CAMP」を実施
- 31 豪メルボルン大学とのマッチングファンド2024を採択
- 32 「SDG-UP公開シンポジウム」に横田理事・副学長が登壇、「持続可能な社会構築に向けた大学運営のあり方、マネジメントの役割」について講演
- 33 横田理事・副学長らが国連大学を表敬訪問
- 34 大学院教育推進機構 繁富香織准教授が「キャタピラーSTEM賞 最優秀賞」を受賞
- 34 高校生対象の体験型科学実験教室を開催
- 35 「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 3名の研究者が講義を実施

部局ニュース

- 37 会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催
- 38 経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
- 39 「第20回数学総合若手研究集会～数学の交叉点～」を開催
- 40 2023年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第1期生修了式を開催



令和5年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行



令和5年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催



「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン1」第33回FSPアジアを実施



横田理事・副学長らが国連大学を表敬訪問

- 41 令和5年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
- 42 2024年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第4期生採用式を開催
- 43 生命科学院 博士後期課程科目 少人数討論型育成プログラム（北大帝人ブレインストーミングワークショップ）「自分の研究・アイデアをビジネスにしよう」を実施
- 44 総合博物館で第16回「卒論ポスター発表会」を開催
- 46 医学研究院が「第4回 Clinical AI アニュアルシンポジウム」を開催
- 47 医学部が令和5年度最終講義・退職記念式典を挙行
- 48 歯学研究院でURAステーションとの共同企画セミナー「国際共同研究の現実と今後のあり方」を開催
- 49 薬学研究院が「第18回薬学研究院研究発表会」を開催
- 50 北ガス×北大 地域創生シンポジウム「カーボンニュートラルと地域創生」開催
- 51 国際広報メディア・観光学院が台北にて留学生向け説明会を実施
- 52 令和5年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催
- 53 北極域研究センターが「第2回HAL-FES国際ワークショップ」を開催
- 54 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第20期修了生に修了証書授与
- 55 附属図書館にネーミングライツパートナーのSky株式会社が来訪
- 56 附属図書館で道立図書館利用登録会及びKinoDen利用説明会を開催

博士学位記授与 57

表敬訪問 78

人事 79

- 87 新任理事紹介
- 89 新任副学長紹介
- 90 新任副理事紹介
- 93 役員等（再任）紹介
- 95 新任部局長等紹介
- 98 部局長等（再任）紹介
- 99 新任部課長紹介
- 104 新任教授紹介

訃報

114 名誉教授 黒川一哉 氏

資料

- 115 令和6年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 116 令和6年度入学者の都道府県分布及び地域比率

表紙：令和6年度入学式の挙行（関連記事5頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景㊹ 正門（北8条西5丁目）

■全学ニュース

令和5年度学位記授与式の挙行

令和5年度学士学位記授与式



修了証書を受ける新渡戸カレッジ総代



札幌キャンパス会場の様子

令和5年度学士学位記授与式を3月25日（月）に、第一体育館において挙行了しました。今年度は卒業者の家族等も入場可能とし、この形式での挙行は平成30年度以来の5年ぶりとなりました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部及び現代日本学プログラム課程の卒業生2,233名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。また、新渡戸カレッジの修了者43名を代表し、総代へ修了証書が授与されました。

寶金清博総長は告辞の中で、「皆さんが北海道大学の4つの基本理念から得た知識と能力をもってすれば、必ず未来を創造するフロントランナーになれると確信している」と述べ、「クラーク先生の『Be ambitious』の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気

をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください。」との言葉を贈りました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長の杉江和男氏は祝辞の中で「皆さんにはフォロワー達と一緒に夢を実現するリーダーとなって、世界を立ち直らせて頂きたい。」と述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。

翌日3月26日（火）には、プレミアホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産学部の学位記授与式が挙行されました。

式典では、水産学部卒業生190名を代表し、各学科の総代へ、水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には、山口新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。



告辞を述べる寶金総長



祝辞を述べられる杉江会長



学位記を受ける総代（函館キャンパス）

令和5年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

令和5年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式の終了後に、第二体育館において挙行しました。

役員、研究科等の長の列席の下、水産科学院を除く16研究科等の修士課程修了者1,501名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者38名、経済学院会計情報専攻修了者21名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者26名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、19研究科等の博士課程修了者322名、論文博士13名を代表し、各研究科等の総代へ、寶金清博総長から博士学位記が授与されました。

この後、寶金総長より告辞があり、最後に北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で、式は締めくくられました。

翌日3月26日（火）には、プレミアムホテル -CABIN PRESIDENT- 函館において、水産科学院の修士課程修了者92名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者7名に対し、寶金総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号57ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）



学位記を受ける総代（札幌キャンパス）



函館キャンパス会場の様子

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	183
教育学部	62
法学部	198
経済学部	183
理学部	281
医学部	292
歯学部	51
薬学部	80
工学部	639
農学部	210
獣医学部	(78) 40
水産学部	190
現代日本学プログラム課程	14
計	(2,461) 2,423

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
法学研究科	14	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	38
水産科学院	92	経済学院会計情報専攻	21
環境科学院	133	公共政策学教育部公共政策学専攻	26
理学院	128		
農学院	157		
生命科学院	114		
教育学院	44		
国際広報メディア・観光学院	51		
保健科学院	42		
工学院	(340) 325		
総合化学院	132		
経済学院	27		
医学院	23		
医理工学院	13		
国際食資源学院	17		
文学院	95		
情報科学院・情報科学研究科	186		
計	(1,608) 1,593	計	85

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
法学研究科	7	2
水産科学院	7	
環境科学院	16	2
理学院	22	
農学院	24	1
生命科学院	24	
教育学院	5	2
国際広報メディア・観光学院	9	2
保健科学院	19	
工学院	27	1

研究科等名	課程博士	論文博士
総合化学院	20	
経済学院	6	
医学院・医学研究科	43	2
歯学院・歯学研究科	41	
獣医学院	2	
医理工学院	5	
国際感染症学院	1	1
国際食資源学院	2	
文学院・文学研究科	20	
情報科学院	29	
計	329	13

学士学位記授与式

北海道大学総長 寶金 清博

本日、本学を卒業される2,423名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北海道大学を代表して、心からお祝い申し上げます。また、慣れない異国の環境の中で、言葉で言い尽くせない努力を重ね、本学を卒業されます留学生の皆さんに対しては、深い敬意を表し、更に大きな祝意をお伝えしたいと思います。

また、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆さまに対しても、心よりお祝いと御礼を申し上げます。さらに、この間、本学へのご支援をいただいた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

本日の卒業生の中で、大学を卒業して社会人になる方、大学院に進学される方、それぞれの進路があるかと思えます。大学院に進まれる方々にとっても、大学教育から研究という新しい環境に移行することになります。従って、ここにいらっしゃる皆さんにとって、本日は、幼稚園教育、義務教育から始まった長い教育期間の大きな区切りを意味します。そう考えると、本日の学位記授与式は、これまでの人生で何度か経験した多くの卒業式とは異なり、皆さんの人生にとって、特別な意味を持つ区切りの式だと言えるのではないのでしょうか。

私も今から45年前、大学を卒業しました。その記憶はすでに曖昧なものです。しかし、その日の北大キャンパスの早春の光の眩しさ、卒業後の人生の行方に不安はありつつも胸が躍るような高揚感があったことは、今でも実に鮮明に覚えています。本日の卒業の日の記憶も、皆さんがこれからの人生においてそれぞれの時点で振り返る時、人生の大きな節目として、勇気や新鮮な決意を思い出させてくれるものに必ずなります。

ここで、皆さんが本学で学んだ時期を短く振り返ってみたいと思います。皆さんの多くは、西暦2020年の入学、あるいは、2018年の入学の方々です。振り返りますと、この期間は、COVID-19によるPandemicのため、日常生活が大きく制限された2020年の年頭から2023年5月にWHOがPandemic終結宣言を出すまでの約3年半と完全に重なっています。

皆さんを含めて、前後数年の学生が、このPandemicの影響を最も強く受けた学年です。実際、入学式や卒業式に代表されるような対面での行事がほとんど中止となりました。本来、大学における高等教育の最重要な要素である学生同士や学生と教員のコミュニケーションは著しく阻害さ

れました。

そして、この間、私たちを取り巻く世界情勢は劇的に変化しました。一つ一つを取り上げることはしませんが、やはり、気候変動により、地球環境の持続可能性に対する脅威が明確に可視化された数年であったと思います。ウクライナ情勢では、核戦争の現実味に世界が震えました。あるいは、私たちの先人が、歴史の教訓から学んできた人道主義が、パレスチナ・ガザ地区の紛争などで瓦解する現実を目撃しています。さらに、科学技術面では、生成系AIが登場し、数百万年続いてきた人類の歴史における人間の知性のあり方に対して大きな衝撃を与えられ、私たちの日常を大きく変化させつつあります。

3月29日に日本でも公開されると聞いていますが、原子爆弾の開発の中心になったロバート・オッペンハイマー博士の生涯を描いたアカデミー賞受賞の映画「オッペンハイマー」を、先日、見る機会がありました。この映画で示されたように、私たちは、今、オッペンハイマー博士らがロスアラモス国立研究所で約80年前に開発した核の時代に生きています。映画は、このオッペンハイマー博士の苦悩を描いていますが、これは、私たち、科学と先端技術に関わる、全ての者が向き合わざるを得ない重い課題でもあります。

そして、この数年間に世界を席卷している人工知能も後世必ずや、世界の在り方の根幹を大きく変えた科学技術として振り返られるはずで、それが、原子爆弾を生み出した核分裂技術と同様に厳しく評価されるか、あるいは、その後の世界の繁栄と平和に寄与したものとして高く評価されるようになるかは私たちの手に委ねられています。中でも、ここにいらっしゃる若い皆さんにかかっています。

さらに、我が国を見ると、「失われた30年」という言葉で代表されるように、世界での評価の中で、日本の順位の低下が顕著となった数年間でもありました。私たち、大学やアカデミアを見ても、日本の科学技術力は大きく低下して、世界での存在感は希薄になりました。

さらに、少子化と超高齢化社会という、明確な打開策のない困難な課題が、日本の行方に暗い影を落としています。

こうして見ると、今のこの時代に覆いかぶさっている重い空気は、先行きの見えない不透明感と不確実性です。Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) から成るVUCAの時代

です。VUCAは、世界全体で言えることですが、日本で際立っているのは、若い世代の自己肯定感の低さであり、先進国の中でも際立っています。

私は、しかし、この日本の若い世代の自己肯定感の低さは、決して、否定的なものではないと思っています。むしろ、今、私が述べたように、若い世代が、コミュニケーションを遮断されたPandemicの時代に大学で学び、世界の平和的安定や地球の持続性が大きな危機に直面している事実を冷静に捉えている証であると思います。世界や日本の行方が極めて不透明で不確実であることを考えれば、近未来社会に対して、安易に肯定的になれないのは、当然のことであり、冷静な知性と理性のなせる業だと思っています。むしろ、この世界の課題を解決し、状況を打開し、未来社会に向けて変革を進めたいというAmbitionがあれば、当然の結果だと思っています。

昨年7月、北海道大学は2030年に向けた新たなビジョン、「HU VISION 2030」を発表しました。その中心的なビジョンは、大学が、教育・研究の卓越性・Excellenceを通じて、社会展開力・Extensionの起点、すなわちイノベーションの起点となるという新しい大学像です。そして、この「HU VISION 2030」実現に向けた最も重要なアクションの一つが、社会変革力を持ったグローバル人材の育成です。

皆さんは、これまで本学で学んだ専門知識に加えて、これからの人生や仕事において必要なtransferable competenceを学んだはずで、これは、北海道大学の4つの基本理念である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」そのものです。世界の行く末が、どれほど不透明で不確実であっても、皆さんがこの4つの基本理念から得た専門知識と広範な適応能力をもってすれば、必ず、未来を創造するフロントランナーになれると確信していますし、また、そうならなければならないと思います。

本日の学位記授与式の最後に、本学の礎を築いた、北海道大学初代教頭であるW.S.クラーク博士の人生について、改めて、皆さんと一緒に確認したいと思います。なぜなら、彼の生き方は、150年の時間を経てもなお、この2024年の私たち、あなたたちの生き方に対する大きなinspiration

だからです。

クラーク先生は、今から約150年前に、アメリカ東海岸、ボストンに近い、マサチューセッツ農科大学の学長という揺るぎない高い地位にいました。そして、1876年、彼は、明治政府の依頼を引き受け、アメリカ大陸を横断し、命を懸けて太平洋を渡り、東京で英語を学んだ学生13名と共に、200年余りの鎖国により世界から遮断された極東の小国、日本、しかもその日本の最北の地、北海道にやってきます。当時の明治政府はまだ極めて不安定であり、また、当時の極東の地政学的状況は今以上に不透明でした。そんな時代に、クラーク先生がなぜ札幌農学校という小さな可能性に彼の大切な晩年を賭けたのかは、どう考えても、私には、理解することのできないものです。

札幌農学校の礎を築くというミッションを成し遂げると、彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで、心に突き刺さるメッセージを残して、札幌を去ります。その後、帰国したクラーク先生は、事業を起こすなど様々な挑戦をされています。

しかし、これらのことから私たちが明確に読み取れるのは、彼の人生が、生涯を通じて、チャレンジそのものであったという事実です。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、世界・社会を変えようとし続けたものであり、彼自身の言葉通りambitionに満ちた果敢な人生でした。

そして、クラーク先生と彼に同行した教師たちが目指したグローバル人材育成の結晶が、新渡戸稲造であり、内村鑑三であり、宮部金吾です。そして、こうした先人のDNAを受け継ぐ後継者が、ここにいる皆さん一人一人です。

皆さん、本日の学位授与式の終了後、是非、もう一度、中央ローンにある日本で最も良く知られている胸像であるクラーク像に立ち寄ってください。そして、彼の挑戦に満ちたambitiousな人生へ思いを巡らせてみてください。

皆さんは、私たちの最高のロールモデルであるクラーク先生の「Be ambitious」の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください。

卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、私の結びの言葉といたします。

令和6年度入学式の挙行

令和6年度の入学式を、4月4日（木）に北海道立総合体育センター（北海きたえーる）において執り行いました。

式は、来賓の校友会エルム会長の杉江和男氏、在札幌米国総領事館領事のボウ・ミラー氏、北海道大学第17代総長の佐伯 浩氏、第18代総長の山口佳三氏、役員、副学長及び学部長等の列席の下、新渡戸カレッジフェローの森 順子さんが司会を務め、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、寶金清博総長から新入生に対し告辞が述べられました。

総長は告辞の中で、北海道大学の歴史、現在直面している世界的な危機、北海道大学が目指す方向について述べられ、新入生の皆さんに北海道大学の研究力をスケールアップし、日本の研究力を再生させて、世界の先頭集団へ

の振り返りを果たす原動力となるように、学んで欲しいと激励しました。

続いて、初代教頭のWilliam S. Clark先生の生涯が、いかにチャレンジングなものであったかについて述べ、クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉であり、北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious」の精神を150年脈々と受け継いできた大学であると述べられました。

総長告辞に続いて、2,596名の入学者を代表して飯沼慶大さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓、本学理事、監事、副学長及び学部長等の紹介が行われ、学生団体による新入生歓迎の演舞・演奏

として、北海道大学チアリーダー部による演技、北海道大学応援団・応援吹奏団による「永遠の幸」「瓔珞みがく」の演舞・演奏、北海道大学合唱団による「Sound Celebration」の合唱、北海道大学交響楽団による「ラデツキー行進曲」の演奏の後、北海道大学交響楽団及び北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の演奏・斉唱が行われ、式は終了しました。

入学式終了後には、山本文彦理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」と題して、本学の概要や教育方針、学生支援の仕組み、ダイバーシティ&インクルージョンについての講演が行われ、全ての行事が無事に終わりました。

(学務部学務企画課)



会場の様子



告辞を述べる寶金総長



総代による入学者宣誓



北海道大学チアリーダー部による演技



北海道大学応援団・応援吹奏団による演舞・演奏



北海道大学合唱団による合唱



北海道大学交響楽団による演奏



山本理事・副学長による講演

令和6年度入学式

北海道大学総長 寶金 清博

新入生、2,596人の皆さん、本日は、北海道大学ご入学、おめでとうございます。

北海道大学の全ての役職員、在学生を代表して、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。また、本日は、ご家族、関係者の多くの方にご臨席いただきました。皆様にも、心からお祝い申し上げます。

今日の入学式では、皆さんに三つのことをお伝えしたいと思います。

最初に、北海道大学の歴史についてお話いたします。

今から150年ほど前の1876年、明治9年に、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。北海道大学の前身はこの「札幌農学校」で、日本で最も早く設立された高等教育機関の一つです。

札幌農学校では、米国流のリベラルアーツ教育が行われました。「リベラルアーツ」とは、「幅広い一般教養」のことです。設立当初の札幌農学校において、リベラルアーツ教育を大学教育の原点に置き、農学だけではなく、数学、化学、生物学から歴史学、経済学に至るまで多様な基礎教育が全て英語により実施されていたことは、本当に驚くべきことです。今日（こんにち）においても、極めて先進的なことであり、今後、北海道大学は、改めて、その国際的な教育の基盤を強化する方針ですが、その原点は、約150年前の札幌農学校にあります。

以来、北海道大学は、リベラルアーツ教育を通して、四つの基本理念を培ってきました。すなわち、未踏の学問領域を探索する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

北海道大学札幌キャンパスは、札幌市の中央にありながら、日本でも有数の多様性とスケールを有し、春夏秋冬を通して美しく、私は、世界の多くの大学を訪問してきましたが、世界でも最も美しい大学キャンパスの一つであると思います。また、函館キャンパス、多くの地方研究施設、そして、日本最大の研究林を含めると、その面積は、日本最大であり、実に、国土の570分の1が北海道大学の面積です。

さらに、この札幌キャンパスは、北海道大学が設置される以前は、アイヌの方々ที่暮らす集落があり、日々の生活の糧を得ていました。水や緑に恵まれ、とても豊かな土地

で、おそらく、アイヌの方々にとっても、非常に豊かな暮らしの場であったと想像されます。この地に学ぶ私たちは、こうした歴史を忘れてはならないと思います。

幸い、私たちは、海外の大学関係者と接する機会があります。その中には、世界の先頭を走る大学もあり、同様の歴史をしっかりと教育し、後世に繋ぎ、多様な価値観や多彩な文化として大切にしています。私たち北海道大学もそうした大学の一つでありたいと願っています。

今日は、この後、北大応援団とチアリーダー部から皆さんへ、エールが贈られます。特に、北大応援団は、100年以上の歴史を有し、いわゆる七つの旧帝国大学の応援団の中で、特に長い歴史と異色の伝統を誇っています。

北海道大学は日本でも最も歴史ある大学の一つであり、2年後の2026年に、創基150年の大きな記念の年を迎えます。歴史ある応援団と新しいチアリーダー部による応援の中に、北海道大学150年の歴史の長さとししさを両方感じていただきたいと思っています。

二番目は、今私たちが直面している世界的な三つの危機のことについてお話します。

一つ目は、私たちが予想もしていなかった新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大がもたらした、3年以上の長期に及んだパンデミックの危機です。二つ目は、ウクライナの戦火やパレスチナ・ガザ地区の紛争に象徴される世界の平和的秩序への脅威であり、そして、私たちの先人が築き上げてきた人道主義の危機です。三つ目は、産業革命以降の人類の膨大な生産活動がもたらした地球温暖化などの気候変動により、地球上の命そのものが脅かされている危機、この三つの危機です。

この三つに共通することは、全て、人間が引き起こした危機であることです。そして、北海道大学には、この三つの危機を克服するために、できることがあるということです。第一に、北海道大学は、コロナをはじめとする新しい感染症と戦うための日本のヘルスサイエンス研究の中心拠点の一つとして、総合大学の強みを発揮しています。第二に、本学は、全ての教育・研究の領域で、平和とそれに基づく世界の繁栄を追求してきました。特に、北海道大学はロシアに最も近い総合研究大学であり、スラブ・ユーラシア等の地域研究を通じて、世界の安定した平和の秩序を追い求めてきました。また、日本でも最もよく知られている寮歌であり、今日も演奏され、北大合奏団が斉唱する「都ぞ弥生」の中でも、私たち北海道大学が目指す平和を希求

する精神が、「人の世の清き国ぞと憧れぬ」という美しい歌詞の中に見事に表現されています。第三に、本学は、この自然に恵まれたキャンパスをサステイナブルなものとする歴史を持ち、エネルギー・地球環境研究に関する総合科学を発展させてきました。

私たちには、人間が引き起こしたこれらの地球的な危機に対してもできることがあります。人間が引き起こしたことで、人間が解決できないはずがありません。

三番目は、未来の話です。北海道大学の目指す方向についてお話しします。

北海道大学は、昨年、2030年に向けたビジョン、HUVISION 2030を公表しました。その中で、私たち北海道大学は、世界の共通の目標である、持続可能なWell-being社会の構築を、大きな目標に設定しました。そのために、大学の教育、研究、社会展開の仕組みを大きく改革して、新しい日本の大学すなわちNovel Japan University Modelを目指すことを約束しています。

Novel Japan University Modelは、優れた先端的研究や教育の卓越性・Excellenceと、世界・日本・地域社会と繋がる社会展開力・Extensionの二つを基軸にしています。二つのEXです。皆さんも、入学後、いろいろな場面で、この二つのEX、ExcellenceとExtensionを学んでいただくこととなります。

そのExcellenceとExtensionの一例は、SDGsへの取り組みです。本学は、150年に近い歴史の中で、創立以来、キャンパスや研究林等の広大な敷地をはじめとする環境保全、そして、飢餓・食糧問題を解決する食資源、海洋研究、健康的な生活を確保し、福祉を推進するヘルスサイエンス研究、DiversityなどSDGsの多くのテーマを取り上げてきました。SDGsは、本学が本来有している理念を言い換えたもので、北海道大学150年の伝統そのものです。

今後は、研究大学の基盤であるExcellence・研究力を格段に向上させ、その研究成果を世界と地域の課題解決に向けてExtensionすることを目標にしています。今、日本の科学研究力は、世界の先頭集団から大きく離されつつあります。確かに、21世紀だけ見ると、ノーベル賞受賞者の数において、日本には19名の受賞者がいます。北海道大学を見ても、名誉教授の鈴木章先生や、特任教授のベンジャミン・リスト先生がいらっしゃいます。しかし、日本のノーベル賞受賞者のほとんどは、1960年代から1990年代の仕事が評価されたものです。ノーベル賞だけでなく、今後、世界から注目され、世界の課題解決に資する先端的研究者が激減する危惧があります。

これに対して、私たち、北海道大学は、日本を代表する研究大学として、世界最先端研究を進めるために、多様な取り組みをしています。まさに、ここにいらっしゃる皆さん

の年代の方々が、北海道大学の研究力をスケールアップし、日本の研究力を再生させて、再び世界の先頭集団の一員となる原動力となるべく、学んでください。皆さんの中から、何人もの世界的な研究者が当たり前生まれてくることこそが、日本の科学研究力の復活をもたらします。北海道大学はその責任と実力を持った大学です。

以上、北海道大学の三つの現在地についてお話ししました。

最後に、入学式で、必ずお伝えしたいことがあります。それは、初代教頭のWilliam S. Clark先生のことです。教頭という役職は、二番目の責任者と思われがちですが、当時の制度では、クラーク先生は、実質的に札幌農学校の責任者であり、初代の本学の学長といえます。

クラーク先生は、今から約150年前に、アメリカ東海岸、マサチューセッツ州ボストンに近い、マサチューセッツ農科大学の学長という重要な地位にいました。しかし、彼は、明治政府の依頼を受け、アメリカ大陸を横断し、アメリカ西海岸から命を懸けて太平洋を越え、1876年に、東京で英語を学んだ学生13名と共に、札幌にやってきます。当時の札幌の人口は正確には分かりませんが2,000人程度であったと推定されます。どう考えても、大変な、見方によっては無謀なチャレンジのように思えます。

札幌農学校の礎を築くという大事業を成し遂げると、彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで心に突き刺さるメッセージを残して、一陣の風のごとく、日本を去ります。その後、帰国したクラーク先生は、ご自身で事業を起こしますが、不運も重なり、不遇のうちに、生涯を終えたと記録されています。

これは、彼の人生が、不断のチャレンジそのものであったことを意味します。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、今の言葉で言えば、アントレプレナーシップ、スタートアップを通して、世界・社会を変えようとし続けた実に果敢な人生でした。

クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉だと思います。

皆さん、今日の入学式が終わりましたら、是非、中央ロームにある、日本でも最も有名な胸像の一つであるクラーク像の前で、彼の挑戦に満ちた人生へ思いを巡らせてください。

北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious」の精神を150年脈々と受け継いできた大学です。皆様方も今日からこの大学の一員です。この素晴らしい北海道大学への入学、本当におめでとうございます。

以上をもちまして、私から新入生の皆さんへの告辞いたします。

令和5年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行



寶金総長からの挨拶



総長、理事、被表彰者との記念撮影

3月29日（金）、学术交流会館において、令和6年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された86氏に対する「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式が執り行われました。

関係者列席のもと、被表彰者の代表

として、遺伝子病制御研究所 教授 田中一馬氏に、寶金清博総長から表彰状及び記念品が授与された後、寶金総長から被表彰者の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
高等教育推進機構	池 田 文 人	工学研究院	明 楽 浩 史
〃	小 林 由 子	〃	佐々木 克 彦
法学研究科	城 下 裕 二	〃	萩 原 亨
水産科学研究院	佐 伯 宏 樹	〃	大 参 達 也
〃	綿 貫 豊	〃	小 篠 隆 生
〃	磯 田 豊	〃	児 玉 淳 一
理学研究院	小 田 研	〃	田地川 浩 人
〃	齋 藤 睦	〃	山 田 雅 彦
〃	坂 口 和 靖	経済学研究院	樋 渡 雅 人
〃	増 田 隆 一	医学研究院	久 住 一 郎
〃	村 上 洋 太	〃	篠 原 信 雄
〃	南 篤 志	〃	真 部 淳
〃	吉 田 郁 也	〃	森 本 裕 二
農学研究院	鈴 木 卓	〃	高 畑 雅 彦
〃	中 村 太 士	〃	中 村 秀 樹
〃	西 邑 隆 徳	歯学研究院	北 川 善 政
〃	増 田 税	〃	山 口 泰 彦
〃	山 田 孝	〃	山 本 恒 之
〃	岡 本 博 史	〃	横 山 敦 郎
〃	福 士 幸 治	〃	亀 倉 更 人
先端生命科学研究院	出 村 誠	〃	安 田 元 昭
保健科学研究院	平 野 美 千 代	〃	金 井 壮 律

所	属	氏名
獣医学研究院		昆 泰 寛
文学研究院		安 達 真由美
〃		阿 部 嘉 昭
〃		池 田 透
〃		後 藤 康 文
〃		白木沢 旭 兎
〃		中 村 三 春
情報科学研究院		小野里 雅 彦
〃		工 藤 峰 一
〃		村 山 明 宏
北海道大学病院		佐 藤 明
〃		佐 藤 千 晴
〃		白 石 秀 明
〃		秋田谷 明 弘
〃		林 みゆき
〃		岩 浅 留美子
〃		下 山 純 子
〃		海老田 理 香
〃		川 合 斐
〃		楠 引 由 優
〃		坂 牛 尚 美

所	属	氏名
北海道大学病院		西 村 雅 勝
〃		小須田 淳 子
低温科学研究所		大 島 慶一郎
〃		福 井 学
電子科学研究所		石 橋 晃
〃		笹 木 敬 司
遺伝子病制御研究所		田 中 一 馬
触媒科学研究所		朝 倉 清 高
〃		福 岡 淳
スラブ・ユーラシア研究センター		WOLFF DAVID
〃		大須賀 美 香
情報基盤センター		高 井 昌 彰
北方生物圏フィールド科学センター		藤 野 介 延
〃		宗 原 弘 幸
〃		北 條 元
総務企画部人事課		鶴 木 貞 男
財務部主計課		長谷川 尚 雄
研究推進部		原 田 直 基
附属図書館事務部		竹 鼻 敏 治
農学・食資源学事務部		佐 藤 優 子
北海道大学病院事務部		佐 藤 毅

名誉教授に42氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月14日（木）開催の教育研究評議会において、次の42氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月4日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

小林 由子	（元高等教育推進機構教授）	北川 善政	（元大学院歯学研究院教授）
城下 裕二	（元大学院法学研究科教授）	山口 泰彦	（元大学院歯学研究院教授）
佐伯 宏樹	（元大学院水産科学研究院教授）	横山 敦郎	（元大学院歯学研究院教授）
綿貫 豊	（元大学院水産科学研究院教授）	木村 和弘	（元大学院獣医学研究院教授）
小田 研	（元大学院理学研究院教授）	昆 泰寛	（元大学院獣医学研究院教授）
神保 秀一	（元大学院理学研究院教授）	安達 真由美	（元大学院文学研究院教授）
増田 隆一	（元大学院理学研究院教授）	阿部 嘉昭	（元大学院文学研究院教授）
村上 洋太	（元大学院理学研究院教授）	池田 透	（元大学院文学研究院教授）
中村 太士	（元大学院農学研究院教授）	亀田 達也	（元大学院文学研究科教授）
西邑 隆徳	（元大学院農学研究院教授）	後藤 康文	（元大学院文学研究院教授）
増田 税	（元大学院農学研究院教授）	白木沢 旭児	（元大学院文学研究院教授）
山田 孝	（元大学院農学研究院教授）	中村 三春	（元大学院文学研究院教授）
出村 誠	（元大学院先端生命科学研究院教授）	小野里 雅彦	（元大学院情報科学研究院教授）
尾崎 倫孝	（元大学院保健科学研究院教授）	工藤 峰一	（元大学院情報科学研究院教授）
境 信哉	（元大学院保健科学研究院教授）	村山 明宏	（元大学院情報科学研究院教授）
明楽 浩史	（元大学院工学研究院教授）	石橋 晃	（元電子科学研究所教授）
佐々木 克彦	（元大学院工学研究院教授）	笹木 敬司	（元電子科学研究所教授）
萩原 亨	（元大学院工学研究院教授）	田中 一馬	（元遺伝子病制御研究所教授）
松井 利仁	（元大学院工学研究院教授）	朝倉 清高	（元触媒科学研究所教授）
久住 一郎	（元大学院医学研究院教授）	福岡 淳	（元触媒科学研究所教授）
篠原 信雄	（元大学院医学研究院教授）	高井 昌彰	（元情報基盤センター教授）

令和6年度北海道大学の予算

令和6年度 北海道大学収入・支出予算書

(単位：千円)

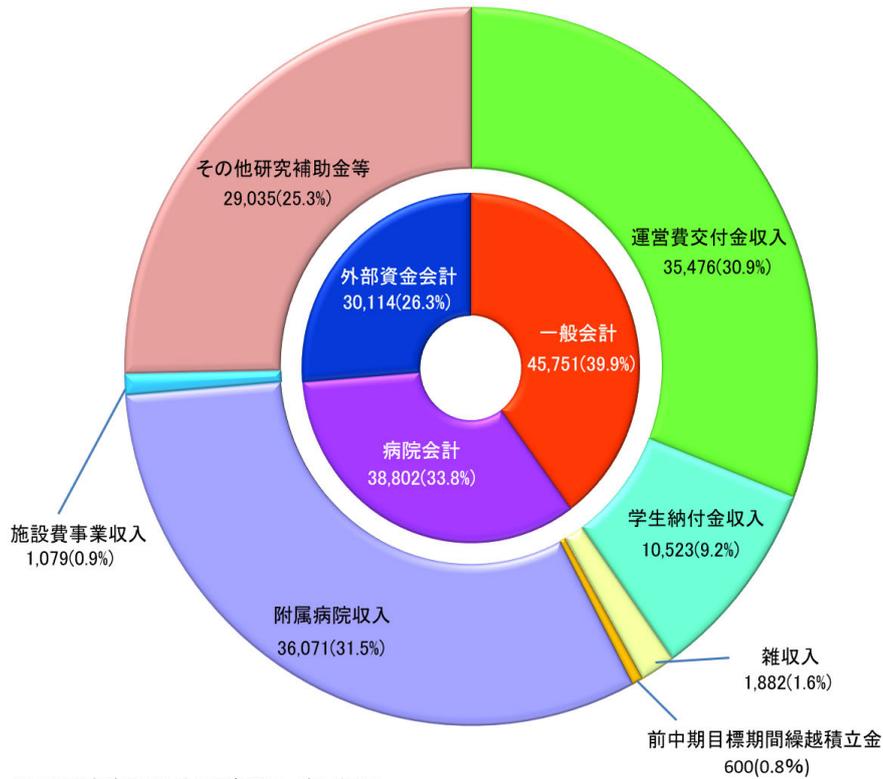
収 入				支 出			
事 項	前年度 予算額	令和6年度 予算額	増減額	事 項	前年度 予算額	令和6年度 予算額	増減額
〔一般会計〕	46,264,847	45,751,464	△513,383	〔一般会計〕	46,264,847	45,751,464	△513,383
運営費交付金収入	33,779,375	32,980,753	△798,622	人件費	27,472,028	27,620,582	148,554
学生納付金収入	10,489,151	10,523,261	34,110	教育研究組織改革分	402,921	750,437	347,516
雑収入	1,619,430	1,647,450	28,020	共通政策課題分	781,918	754,611	△27,307
前中期目標期間繰越積立金	376,891	600,000	223,109	特殊要因経費	2,630,265	2,321,241	△309,024
				退職手当	2,473,911	2,271,760	△202,151
				建物新営に伴う設備費	27,665	18,420	△9,245
				移転費	128,689	31,061	△97,628
				大学ビジョン推進経費	4,643,344	4,269,561	△373,783
				調整費	100,000	100,000	0
				特定経費	4,267,419	3,920,615	△346,804
				電子計算機借料	287,232	387,456	100,224
				電子ジャーナル経費	374,748	0	△374,748
				公租公課、保険料等	1,284,821	1,135,471	△149,350
				授業料等減免費	831,617	879,574	47,957
				収入見合経費	1,489,001	1,518,114	29,113
				基盤配分経費	5,966,952	6,014,417	47,465
〔病院会計〕	36,425,345	38,801,565	2,376,220	〔病院会計〕	36,425,345	38,801,565	2,376,220
運営費交付金収入	2,415,165	2,495,494	80,329	人件費	8,674,433	8,682,683	8,250
附属病院収入	33,824,187	36,071,092	2,246,905	病院診療経費	27,159,739	29,535,571	2,375,832
雑収入	185,993	234,979	48,986	大学ビジョン推進経費	491,328	483,466	△7,862
				基盤配分経費	99,845	99,845	0
〔外部資金会計〕	28,546,714	30,113,750	1,567,036	〔外部資金会計〕	28,546,714	30,113,750	1,567,036
施設費補助金等収入	1,978,900	1,078,700	△900,200	施設整備費	1,978,900	1,078,700	△900,200
保育園運営費補助金収入	87,676	87,287	△389	保育園運営費補助金事業費	87,676	87,287	△389
授業料等減免費交付金収入	285,319	300,831	15,512	授業料等減免費交付金事業費	285,319	300,831	15,512
寄附金収入	2,752,301	2,883,020	130,719	直接事業費	22,595,942	24,411,669	1,815,727
受託研究収入	8,878,603	9,638,923	760,320	寄附金事業費	2,707,414	2,829,052	121,638
共同研究収入	2,538,848	2,657,459	118,611	受託研究費	7,416,012	7,952,959	536,947
受託事業収入	1,119,608	1,485,289	365,681	共同研究費	2,029,230	2,122,153	92,923
大学改革補助金等収入	4,334,724	4,799,216	464,492	受託事業費	1,070,515	1,412,480	341,965
文部科学省科学研究費補助金	6,418,267	7,024,355	606,088	大学改革補助金等事業費	4,287,519	4,755,318	467,799
厚生労働省科学研究費補助金	107,244	81,030	△26,214	文部科学省科学研究費補助金	4,948,292	5,206,133	257,841
その他助成金等	45,224	77,640	32,416	厚生労働省科学研究費補助金	91,736	55,934	△35,802
				その他助成金等	45,224	77,640	32,416
				間接経費	3,598,877	4,235,263	636,386
				特定経費（電子計算機借料）	835,160	687,000	△148,160
				特定経費（燃料費）	656,241	836,654	180,413
				特定経費（電子ジャーナル経費）	255,252	650,000	394,748
				特定経費（全学共用施設等管理経費）	0	134,568	134,568
				部局配分経費	1,852,224	1,927,041	74,817
合 計	111,236,906	114,666,779	3,429,873	合 計	111,236,906	114,666,779	3,429,873

令和6年度 北海道大学収入・支出予算（グラフ）

収入予算 全体

114,667百万円

（単位：百万円）

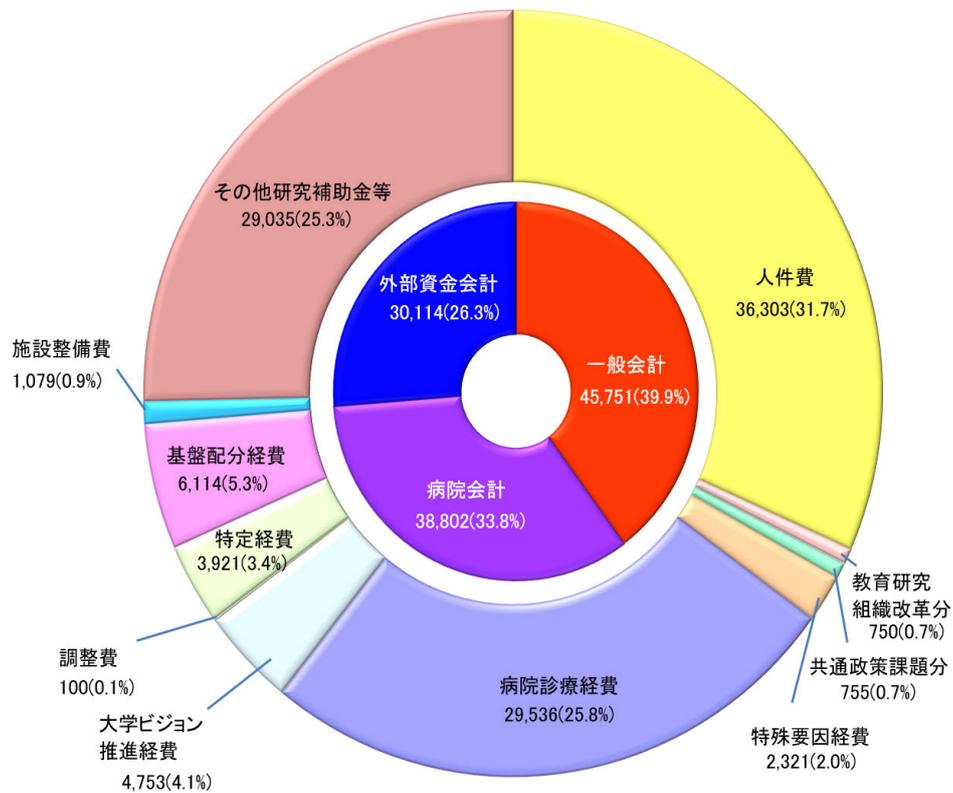


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

支出予算 全体

114,667百万円

（単位：百万円）



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を3月25日（月）に高等教育推進機構にて挙行了。修了式には修了生45名のうち18名が出席し、寶金清博校長（総長）、山口淳二校長代理（理事・副学長）、弐 和順副校長、杉江和男副校長、小田 研教頭及び新渡戸カレッジ関係教職員の祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、理学部生物科学科卒業の栗原恭子さんに寶金校長から修了証書が授与されました。

次に寶金校長が挨拶を行い、挨拶のなかで、所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、文学部人文科学科卒業の内藤 遥さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会エルク会長で新渡戸カレッジ副校長でもある杉江氏と北海道大学名誉教授で

新渡戸カレッジフェローの大塚榮子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



寶金校長の挨拶



修了生代表による挨拶



出席者による記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行

令和5年度新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を3月19日（火）に高等教育推進機構にて執り行いました。

基礎プログラムから、留学生16名を含む22名、オナーズプログラムから、留学生7名を含む14名が修了しました。はじめに、弐 和順副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。

続いて、弐副校長から挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で遅しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、基礎プログラム修了生に対しては、

「オナーズプログラム入校の上、修得した知識やスキルの応用と発展をめざしてください」との激励の言葉が贈られ、またオナーズプログラム修了生に対しては「高度な専門性とそれらを『活かす力』を存分に発揮して、グローバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表のニシムラ カルモ エイケ ユウジさんが、新渡戸カレ

ジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）

ヨウ シドウ（生命科学院）

リアウルアング シラター（理学院）

（学務部教育推進課）



修了証書の授与（基礎プログラム）



修了生代表による挨拶

令和5年度Integrated Science Program (ISP) 修了式を挙

外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program (インテグレイテッドサイエンスプログラム) (ISP)」の修了式を3月22日(金)に高等教育推進機構において行いました。平成30年10月入学の第2期生4名の門出を祝い、副プログラム長である鈴木久男教授、永井隆哉教授(理学院院长)、佐田和己教授(総合化学院長)、佐藤美洋教授(生命科学院長)が参列

し、厳粛な中にも和やかな雰囲気です式典が執り行われました。

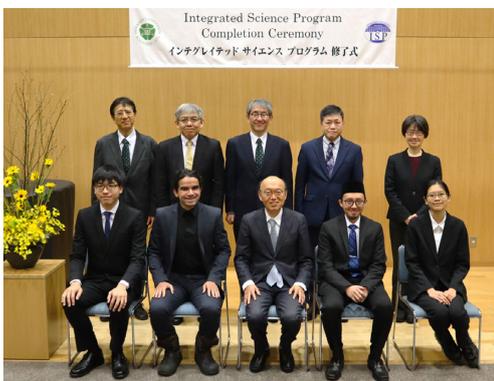
鈴木副プログラム長から修了生に修了証書が授与された後、プログラム長である山口淳二理事・副学長からの祝辞を鈴木副プログラム長が代読し、母国を遠く離れ、様々な困難を乗り越えて学業を成し遂げた修了生を称えと共に、本プログラムを通じて身につけた知識や経験を活かして、今後もグローバルに活躍することを期待する言葉

が贈られました。

続いて、修了生4名がそれぞれスピーチを行い、ISPへの思いと関係者への感謝の言葉を述べました。

最後は、式典を見守っていた先生方、ご家族、後輩学生も交えて、記念撮影が行われ、ISPを巣立つ修了生の前途を祝しました。

(学務部教育推進課)



式典参加者の記念撮影



修了生 (左からリム・ケイ・ヒアンさん、ジャモンジュリグン・ラミタさん、モード・ファリーズ・ムハンマド・アイマン・ビンさん、ラザ・ハムザさん)

令和5年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催

外国人留学生を対象とした4年間の学士課程プログラムである現代日本学プログラム課程の第6期生14名が3月25日（月）に卒業の日を迎え、高等教育推進機構において挙行された現代日本学プログラム課程学士学位記授与式に出席しました。

学位記授与式では、山口淳二理事・副学長（現代日本学プログラム課程長）、高橋 彩理事・副学長をはじめ、同課程担当教職員が参列する中、山口

理事・副学長から卒業生一人一人へ学位記が授与されました。また、現代日本学プログラム課程最優秀学生賞、現代日本学プログラム課程特別賞、及び現代日本学プログラム課程最優秀卒業論文賞の表彰が併せて行われました。

引き続き、山口理事・副学長から卒業生へ祝辞が述べられ、母国を離れ異国の地での予備課程を含む4.5年間の長く険しい留学生生活を自らの糧にできたこと、またグローバルな変容にも柔

軟に対応し、それを乗り越えてきたことに対する労いの言葉に、卒業生は感銘を受けていました。

卒業生の多くは、卒業後に国内外の企業への就職や国内の国立大学への進学を予定しており、日本の良きパートナーとして日本と世界の架け橋の一端を担ってゆくことが期待されます。

（学務部教育推進課）



山口理事・副学長と現プロ卒業生との記念写真

令和5年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式を挙

3月15日（金）、高等教育推進機構において、令和5年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式が挙

行されました。
この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式では、山口淳二高等教育推進機構長から10名の受賞者のうち2名の

欠席者を除く8名に賞状が授与され、続いて、鈴木名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育てていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしてい

(学務部学生支援課)

被表彰者

【第1学期被表彰者】

24組	佐々木	菜々穂
25組	佐藤	愛莉
29組	佐藤	輝英
29組	佐野	華

【第2学期被表彰者】

34組	諸田	小百合
34組	小島	颯太
35組	矢部	未結
36組	澤田	拓弥
46組	加藤	優奈
50組	岩本	周也



授与の様子



記念撮影

令和5年度北海道大学大塚賞授与式を挙

3月19日（火）、事務局において、北海道大学大塚賞授与式を挙

行しました。大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度

です。今回は令和5年度内の博士課程修了予定者8名及び既修了者2名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、山口淳二理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルー

ジョン推進本部副本部長、平田公明学務部長列席の下、寶金総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

(学務部学生支援課)

受賞者

法学研究科	清水紀子
環境科学院	飯塚睦
理学院	遠藤優
生命科学院	神野智世
保健科学院	曾怡
保健科学院	安田佳永
総合化学院	川向ほの香
文学院	許開軒
情報科学院	佐藤紫乃
情報科学院	孔曉涵



寶金総長の祝辞



記念撮影

令和5年度北海道大学クラーク賞授与式を挙

3月22日（金）、高等教育推進機構において、令和5年度北海道大学クラーク賞授与式を挙りました。

北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、北海道大学を卒業される学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な

学生であると推薦された1名を表彰するものです。

授与式では、山口淳二理事・副学長から、13名の受賞者のうち所属学部において表彰式を行う5名を除く8名に賞状盾が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を挙行する学部においては3月25日（月）、水産学部では3月26日（火）に表彰式が挙行されました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	鈴木 陽彦
教育学部	高松 志帆
法学部	小澤 美楓悠
経済学部	梶野 智暉
理学部	中尾 果菜
工学部	伊関 叶互
農学部	安室 美陽
獣医学部	丹羽 志萌
水産学部	佐々木 健太
医学部医学科	田中 百香
医学部保健学科	浅野 葵
歯学部	大巻 真幸
薬学部	竹中 優佳



授与の様子



記念撮影

令和5年度北大えるむ賞授与式を挙

3月19日（火）、事務局において、令和5年度北大えるむ賞の授与式を行い、寶金清博総長から表彰状が授与されました。

北大えるむ賞は、平成9年に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を

図ることを目的として創設されたものです。本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導等に優れた評価を受けたものなどに対して表彰するもの

で、今回は6件が採択されました。

寶金総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体受賞理由

◆ 団体

- LGBTQ+サークル 虹の集い
東北大学第10回澤柳記念DEI奨励賞を受賞したこと、並びに性的少数者に対する社会理解促進を目的とした啓蒙活動を繰り返していること。
- temaneki
「未踏 IT 人材発掘・育成事業」において特に卓越した能力を持つ「スーパークリエータ」として認定されたこと。
- 競技舞蹈部
第62回夏の全日本学生競技ダンス選手権大会及び第69回冬の全日本学生競技ダンス選手権大会において団体優勝し、2年連続での夏冬連覇を果たしたこと。
- 相撲部
全国七大学総合体育大会及び全国国公立大学相撲選手権において優勝したこと。
- 弓道部
第71回全日本学生弓道選手権大会において、193団体中第3位に入賞したこと。

◆ 個人

- 荒町 美希
2023年スキーオリエンテーリングワールドカップラトビア大会及びノルウェー大会へ日本代表選手として参加したこと、並びに2024年スキーオリエンテーリング北海道選手権大会エリートクラスに出場し9人中1位となったこと。



授与式での記念撮影

「一般教育演習：グローバル・キャリア・デザイン1」 第33回FSPアジアを実施

高等教育推進機構では、全学教育科目「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン1」（通称：ファースト・ステップ・プログラム [FSP]）を開講し、海外の教育機関での授業受講、学生交流、グローバルに事業を展開する企業、研究機関、国際機関等での講話や対話、プロジェクト視察等を通して、交換留学、国際インターンシップやボランティア等、具体的な行動を起こしていくことを目標としています。第33回は、学生31名が引率者とともに、2月22日（木）から3月6日（水）にかけて、シンガポール、マレーシアで研修を行いました。

大学訪問では、シンガポールマネジ

メント大学、カーティン大学シンガポールキャンパス、マネジメント&サイエンス大学、マレーシアブトラ大学において授業受講や北海道大学紹介のプレゼンテーション、マレー式の食事体験、ディスカッション等といった学生交流を実施しました。企業・機関訪問では、アジア・大洋州三井物産株式会社、日本航空株式会社シンガポール支店、Institute of Molecular and Cell Biology (IMCB)、三菱商事株式会社クアラルンプール支店、AEON CO. (M) BHD、世界銀行マレーシア事務所で活躍されている方々に業務についてやキャリア形成等についてお話をお伺いしました。

これら2週間という限られた期間で、

受講学生は、多様な業種のキャリア・デザインの状況を実感することができました。帰国後、国際インターンシップ受講や語学研修、交換留学など具体的な行動計画をまとめて、在学中にそれらの計画を実行し、セカンド・ステップに進むことが期待されています。

今回は、令和6年度2学期に、「グローバル・キャリア・デザイン」として開講します。より多くの皆さんに本プログラムを受講してもらい、留学を含む海外体験をより身近なものと感じてもらえるようさらに努めていく所存です。

（学務部国際交流課）



カーティン大学シンガポール学生交流の様子



マレーシアブトラ大学マレー式食事体験



マレーシアブトラ大学研修時



AEON CO. (M) BHD.店舗視察時

NHK札幌放送局と包括連携協定を締結

本学とNHK札幌放送局は、4月9日（火）に包括連携協定を締結しました。

本協定は、NHK札幌放送局から、2026年に本学が創基150周年を、2025年にNHKが前身の社団法人東京放送局によるラジオ放送開始から100年を迎えるに際し、北海道の社会的課題の解決、並びに地域社会の活性化を牽引し、また双方の資産を生かした教育研究の振興及び人材育成に寄与することを目的とした包括連携の締結について提案があり、協議・検討を進めてきた結果、締結に至ったものです。

具体的な連携内容は、双方の人的資

源・物的資源・ネットワーク等を有効活用し、1) 教育、人材育成・人材交流、2) 防災、減災の啓発、3) 地域の社会的課題の解決、4) 研究活動の発展、5) 情報発信、6) 教育における放送番組等の活用、7) 公共放送の理解促進など多岐にわたり、これらの取り組みについては、双方の関係者が今後協議し、具体的な計画を進めることとしています。

締結式は、NHK札幌放送局の8K公開スタジオで行われ、寶金清博総長とNHK札幌放送局の出田恵三局長が出席し、協定書を取り交わしました。寶

金総長は「本学の2030年に向けたビジョン『HU VISION 2030』に掲げる『教育・研究の卓越性：Excellence』と『教育・研究を社会に広げる展開力：Extension』の2つを基軸に、北海道から世界共通の目標である『持続可能なWell-being社会』の実現をNHKと共に目指してまいりたい」、出田局長は「北海道大学のフロンティア精神を共有し、北海道の皆さんがワクワクする学びのプロジェクトに取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

（広報・社会連携本部、社会共創部広報課）



握手を交わす出田局長と寶金総長



締結式の様子

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をする事としています。

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	(2月29日現在)	46,988件	6,962,939,114円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	(2月29日現在)	9,939件	798,170,557円

ご寄附状況

2月は247件28,067,135円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。

(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名（法人等）

界面電子化学研究室卒業生有志一同、かなや内科クリニック、社会医療法人札幌清田病院、サムワン、医療法人社団サンピアザたけだ眼科、合同会社ショコラックス、医療法人社団信和会石川泌尿器科・腎臓内科、株式会社砂子組、大和証券株式会社、たてクリニック、TOPPAN株式会社、医療法人泰和会苫小牧緑ヶ丘病院、医療法人社団ひこばえの会、有限会社笹田鋼材、株式会社北洋運輸、株式会社北海道グリーンメンテナンス、北海道厚生農業協同組合連合会、北海道セキスイハイム株式会社、湯元漁火館、医療法人社団我汝会さっぽろ病院

寄附者ご芳名（個人）

青井 良平	青木 俊介	赤平 幸郎	浅井 建基	渥海 航	阿部 雅史	荒谷 義和	在間 勇二
五十嵐三津雄	石井 哲夫	石井 伸明	石垣 隆弘	市来 雅之	市坂 有基	伊藤 大貴	伊藤 宏
伊藤 雄三	井上 文子	井上 将希	猪股 路子	井原 博	今井 晋	上田 雅敏	上田 幹人
梅本 由佳	縁記 和也	遠藤 公憲	遠藤 陽三	大原 正範	沖崎 遼	小木曾嘉文	小田原一史
小原 大和	加藤健太郎	加藤 順一	加藤 伸康	加藤 裕貴	兼古 学	鎌田 恒自	神山 誉
川瀬 紀子	川村 篤	河村 裕	菅野 彰一	菊地 竜也	衣川 暢子	木村 祐介	工藤 俊哉
倉元 祥伍	栗原 誠治	小池 充	上月 浩	後藤 勝	小林 賢人	権藤 寛	齊藤 慈円
齊藤 晋	酒井 啓祐	榊原 尚行	坂本 直哉	崎元 大志	迫田 義博	佐藤 信吾	佐藤 暢人
沢 邦彦	塩満 正哉	志済 聡子	嶋田 誠	白鳥 貴久	新宮 康栄	進藤 崇史	菅原 新也
杉江 和男	杉本 聡	鈴木 貴之	寸田 幸子	高島 侑杜	高瀬登志彦	高橋 明弘	高橋 彩
高柳 涼	田栗 和奈	武田 薫子	武田 守正	立野 靖博	伊達佳代子	田中 明彦	田淵 卓夫
常松 潔	富樫 要	飛澤由紀子	豊崎 一彦	南 璣叡	二上 英樹	庭野 陽樹	根本 叔治
長谷川就一	服部 拓哉	花田 秀一	林 倫太郎	福井 睦子	福田 正晴	福永 悟郎	藤井 義明
藤澤 裕子	藤田 正隆	古川夕里香	細井 栄治	松井 耕二	松原 謙一	松本 嶺	真屋 幹雄
三木 證永	水口 和之	南田 大朗	宮田 信幸	村瀬徳啓充	村瀬 亮太	安陵 智代	山本 晶
余湖 兼右	横山 考	吉木 咲枝	米田 功	若狭 哲	渡部 克将		

<寄附者への特典>

創基150周年を記念した銘板

創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1千万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年8～9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください <https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/>）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff>

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話 2017）

（社会共創部広報課）

ほくだい技術者図鑑×いいね！Hokudaiコラボに向けた講習会を開催

技術支援本部と大学院教育推進機構は、科学技術広報・科学技術コミュニケーションをテーマとした講習会を、2月20日（火）に開催しました。本講習会は、技術支援本部ホームページ運用専門部会の技術職員を対象にした広報力強化のため、技術支援本部ホームページ運用専門部会と大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）との共同で実施されました。両組織は、技術職員を中心として学内に蓄積された教育・研究支

援技術情報を可視化するウェブコンテンツ「ほくだい技術者図鑑」と、2012年から年間200本以上の記事で北海道大学の魅力を発信し続けるウェブマガジン「いいね！Hokudai」とのコラボレーションを軸に、今後広報活動において連携することを目指しています。

本講習会では、CoSTEPの福浦友香博士研究員が、「いいね！Hokudai」の概要及び短い情報発信における文章作成・写真の活用についてのレクチャーを行い、古澤正三特任講師が、インタビューの基礎についてのレクチャー

を行いました。その後、参加者は「科学との出会い」をテーマとして、実際に相互インタビューに挑戦しました。記事にするポイントを意識しながら、対話を通じて幼少期から現在に至るまでのライフストーリー等を聞き取ることで、所属の異なる技術職員同士が、多種多様な技術支援の経験や悩みを共有する貴重な機会となりました。

（技術支援本部・大学院教育推進機構）



福浦博士研究員によるレクチャー



二人一組で相互インタビュー



講習会参加者の集合写真

創成研究機構ワクチン研究開発拠点が市民公開講座を開催

創成研究機構ワクチン研究開発拠点は、3月2日（土）に学术交流会館において第1回市民公開講座「ワクチンで守る人類の未来」を対面で開催しました。

はじめに、ワクチン研究開発拠点長の澤 洋文教授が、「ワクチン研究開発拠点の活動」として、人獣共通感染症の概要、感染症への対策、ワクチン研究開発拠点のミッション、海外大学を含む学内外の関係機関や企業との協力・連携体制とワクチンの迅速な開発・生産に向けた研究計画について講演しました。

続いて、本学の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサー（ワクチン研究開発拠点特任教授、人獣共通感染症国際共同研究所統括）が、「次のパンデミックにどう備えるか？」という演題で、拠点が推進しているパンデミック及び季節性インフルエンザとコロナウイルス感染症に対するワクチンと治療薬の開発計画を簡明に解説しました。

最後に、松尾和浩特任教授（ワクチン研究開発拠点）による「抗酸菌感染症と新たな結核ワクチンの研究開発」の講演では、結核が過去の病気ではなく、現在でも世界人口の約4分の1が結

核菌に感染していること、BCGワクチンが唯一の小児に対する結核ワクチンであること、そして現在取り組んでいる新たな結核ワクチンの開発など、興味深い内容をわかりやすく説明しました。

悪天候にも関わらず、本市民公開講座には、33名が参加し、充実した学びの時間を提供する有意義な機会となりました。創成研究機構ワクチン研究開発拠点では、来年も市民公開講座を開催する予定です。

（創成研究機構ワクチン研究開発拠点）



熱心に講演を聞く会場の様子



講演者の記念写真

「第1回北大発認定スタートアップMeet-Up」を開催

産学・地域協働推進機構は、本学のスタートアップ・エコシステムの価値共創の一助として、共に成長し合える北大発スタートアップの各企業に「北大発認定スタートアップ企業」の称号を付与しております。その取り組みの一環として、3月8日（金）に「第1回北大発認定スタートアップMeet-Up」を札幌市中央区のディープテックコア札幌で開催しました。ハイブリッド形式で開催した本交流イベントには現地99名、オンライン23名、総勢122名の参加がありました。

はじめに、本機構スタートアップ創出本部土屋 努本部長による開会の挨拶及び本学によるスタートアップへの支援体制や活動状況についてのプレゼンテーションがあり、続くパネルディ

スカッションでは、北大発認定スタートアップ企業56社（令和6年3月現在）のうち、アゼプロ株式会社、AWL株式会社、レタラ株式会社、株式会社メカノクロスの4社の他、機関投資家や学内関係者がスタートアップにまつわる様々なテーマに関して、活発な意見や熱い議論を交わしました。その後のミートアップタイムでは、増田隆夫機構長の乾杯のご発声のあと、和やかな雰囲気の中、会場に訪れていた参加者同士が産官学金の垣根を超えた交流を深め、最後は、山口淳二理事・副学長より閉会のご挨拶をいただきました。

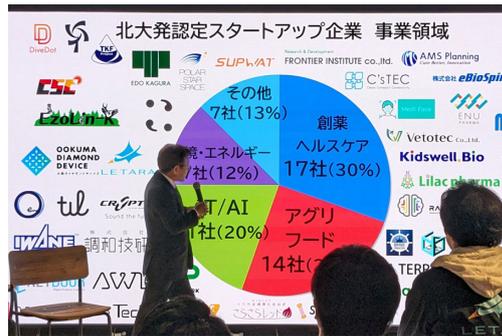
参加者からは「多種多様な北大発認定スタートアップ企業の起業家の皆さんの実体験に即した話はとても興味深く、新たな気づきや大きな刺激を受け

た」「特に同窓の起業仲間と定期的な交流することは励みになるので、継続的な開催をお願いしたい」等、非常に満足度の高い声が寄せられました。このような北大発認定スタートアップ企業を対象とした交流会の開催は、更なるスタートアップの創出や成長支援への貢献のみならず、新たな道内産業の創出及び経済の活性化にも大いに寄与し、ひいては本学全体の社会的価値向上にもつながる「三方よし」のエコシステム確立の一助になると考えることから、これからも継続的な実施を視野に入れて取り組んでいく所存です。

（産学・地域協働推進機構）



増田機構長による乾杯



土屋本部長によるプレゼンテーション



記念撮影の様子



パネルディスカッションの様子

「北海道発アントレプレナーシップ教育体験ワークショップ」を開催

産学・地域協働推進機構は、2月25日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）にて、一般社団法人ユースキャリア教育機構と協働し、「北海道発アントレプレナーシップ教育体験ワークショップ」を開催しました。

アントレプレナーシップの涵養と教育の普及を目的とした本イベントでは、本機構が学生とともに開発したアントレプレナーシップを学べるカードゲーム型教育プログラムである「チャレンジピッツァ」を実施しました。本プログラムは小中学生を対象として開発を行ったものですが、高校生・大学生に対しても実施できるよう、内容や

難易度を調整し、当日は高校生・大学生20名が参加しました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者から「アントレプレナーシップを学ぶ入門として、とても分かりやすかった」「楽しく、感覚的にビジネスやアントレについて学ぶことができたので良かった」等の感想が寄せられました。また、本プログラムを運営した本学学生からは、「高校生・大学生へ応用できる可能性を感じた」「このプログラムを今後も北海道だけではなく、東京等日本の各地や海外でも実施することにチャレンジしたい」という感想があがりました。

本イベントは、参加した高校生・大

学生にアントレプレナーシップやビジネスを身近に感じていただく機会となりました。また、運営した本学学生にとっても、新たに挑戦したい課題を見つけることができる機会となりました。今後も、産学・地域協働推進機構では、アントレプレナーシップの涵養に向けて、様々な教育を提供してまいります。

詳細に関しましては、産学・地域協働推進機構 (k-iwaki@mcip.hokudai.ac.jp) までお問い合わせください。

（産学・地域協働推進機構）



ルール説明の様子



ゲームを実施している様子



カードゲーム本体



集合写真

EDGE-PRIME Initiative 事業成果報告会 「HOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催

北海道大学が主幹機関を務めるHSFC（北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク）では、3月9日（土）に文部科学省・EDGE-PRIME Initiative事業による支援の下、令和5年度に実施した小中高生向けアントレプレナーシップ教育プログラムの成果報告会「HOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催しました。

本報告会では、アントレプレナーシップ教育プログラムに参加した小中高生を代表して8チーム27名が成果報告、アントレプレナーシップ教育に関

わる大学生・大学院生11名が活動報告を行いました。また、文部科学省起業家教育推進大使である藤本あゆみ氏（Plug and Play Japan株式会社執行役員CMO、一般社団法人スタートアップエコシステム協会代表理事）から「成長の機会を育む"アントレプレナーシップ"とは」と題して、アントレプレナーシップや挑戦することの大切さ等をご講演いただきました。

小中高生、大学生・大学院生の他にもアントレプレナーシップ教育に関心を持つ方など全道各地から102名にご

参加いただき、世代や地域、所属に関わらず交流を行い、道内のアントレプレナーシップに関わる人材のコミュニティ形成を図ることができました。参加者からは今後のアントレプレナーシップ教育プログラムの参加や、協業を希望する声が多く寄せられました。引き続き、北海道のアントレプレナーシップの涵養に資するべく継続的にこれらの活動に取り組んでまいります。

（産学・地域協働推進機構）



小中高生の成果報告の様子



大学生の活動報告の様子



ワークショップの様子



藤本氏による講演

月形町でローカル起業を目指すプログラム「TSUKI BIZ CAMP」を実施

産学・地域協働推進機構と大学院教育推進機構では、北海道樺戸郡月形町のまちづくり団体である、つきがたdesignや空知信用金庫等と協働し、TSUKI BIZ CAMP（つきがたビジネスキャンプ）を開催しました。

「TSUKI BIZ CAMP」は、月形町を舞台に新しい価値創造にチャレンジする仲間を発掘・育成するプログラムです。「明るい過疎化」をテーマに、メンター、講師、仲間たちと共に地域振興に関する事業案を深め、実際にロ

ーカルでの起業に繋げることを狙います。初開催にもかかわらず、募集数を大きく上回る応募があり、本学学生を含む高校生から社会人までの16名が参加しました。参加者は約1カ月のプログラムを経て、3月17日（日）に最終発表会と位置づけるDemodayを、月形町交流センター「つき・あえ〜る」にて実施しました。

Demodayにおいては「一部倒壊してしまった樺戸神社の木材を活用するプラン」「月形刑務所との協働を目指

すプラン」「名産品であるトマト栽培を活用したプラン」や「町民の健康を守るダンススクールや福祉ビジネスの開業案」など、様々なビジネスプランが発表されました。上坂隆一町長を含む6名が審査にあたり、伴走支援賞やオーディエンス賞などの各賞が授与されました。当日は多くの町民が訪れ、ローカルな取り組みでありながら、大きなインパクトを残しました。

（産学・地域協働推進機構）

イベント実施内容

日時：3月17日（日）10:00～15:30

内容：プログラム参加者によるビジネスプラン案の最終発表

参加者数：86名

会場：月形町交流センター「つき・あえ〜る」



田名辺健人メンターによる講義



月形町内をフィールドワーク



表彰式の様子



Day1の集合写真

豪メルボルン大学とのマッチングファンド2024を採択



本学は全学的な研究連携強化を図っている豪州メルボルン大学と、2022年にマッチングファンドを立ち上げています。初年度は、同年のキックオフイベントで知遇を得た研究者間での申請が中心となり、哲学、ナノ材料、住環境、高齢者医療、機械薬理学の5件を、翌年度は先住民研究、ユーラシア研究、畜産、ウイルス学、作物遺伝の5件を採択しました。いずれも、若手研究者と大学院生の関与が目立ち、今後の交流を約して成功裡に終了しました。

3月15日（金）には、3年度目の採択課題を選出する両校の合同審査会が開催され、北大で開催する「メルボルン大学・北海道大学での天然物探索強化」「豪州・日本の持続可能で強靱なインフラとエネルギーの未来」「北海道大学・メルボルン大学デジタルヘルス&医療AIシンポジウム」、メルボルン大で開催する「女性の健康の共創：世界の月経の健康衛生向上」「スマート材料：合成、特性評価、応用」の計5件を採択しました。今般の採択案件

は、過去2年とは異なる新規分野への両校連携のすそ野の広がりを感じさせるもので、不採択の6件にもその芽が伺えました。過去のワークショップの採択チームは、外部資金申請、共著論文執筆、博士学生の研究滞在以外に、北海道サマーインスティテュートやメルボルン大グローバルクラスルームといった、各大学の国際教育事業にも連携を広げています。

（国際連携推進本部、研究振興企画課）

「SDG-UP公開シンポジウム」に横田理事・副学長が登壇、「持続可能な社会構築に向けた大学運営のあり方、マネジメントの役割」について講演

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は、SDG大学連携プラットフォーム（以下、SDG-UP）に参加する大学とサステナビリティの取り組みについて議論する「SDG-UP公開シンポジウム」を、3月29日（金）に、ウ・タント国際会議場とオンラインを繋いで開催しました。本シンポジウムで、SDG-UPのマネジメント層分科会を代表して、横田 篤理事・副学長が、第1部「大学のサステナビリティ活動の最前線」についてのパネルディスカッションに登壇し、「トップダウンとボトムアップの好循環」と題して、講演を行いました。その中で、本学の

取組みとして、サステナビリティ推進機構及びその内部組織としてSDGs事業推進本部の設置、HU VISION 2030の策定、サステナビリティを追求する大学運営の方針を教職員に直接語りかけ、理解を促進するためのFD・SDの継続の実施、また教職員向けに「北海道大学SDGsスタートアップガイドブック」の準備を進めていることなどを紹介しました。このほか、他の3分科会からの報告がありました。

パネルディスカッションのまとめでは、村田俊一SDG-UPアドバイザーから、大学が開かれたコミュニティのハブとなり、これからの社会全体の行動

変容の中核として機能することが期待されている、と説明がありました。

さらに、本シンポジウムでは、山口しのぶUNU-IAS所長から、2023年11月29日（水）に開催され、寶金清博総長が登壇した「SDG-UP学長座談会」の開催報告がなされました。

第2部のセッションでは、SDG-UP参加大学所属学生のサステナビリティ活動について、大阪大学、慶應義塾大学、龍谷大学の学生たちから発表がありました。

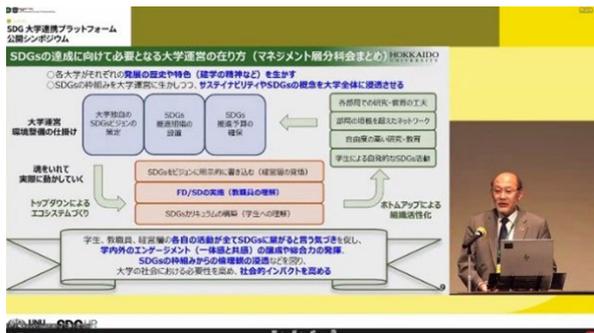
（サステナビリティ推進機構）



登壇の様子



講演の様子



講演の様子（オンライン）



会場での集合写真

横田理事・副学長らが国連大学を表敬訪問

横田 篤理事・副学長、農学研究院の岩渕和則総長補佐・教授、加藤 悟サステナビリティ推進機構教授、及び秦 絵里国際部長は、3月29日（金）に国際連合大学（以下、国連大学）を表敬訪問し、同大学チリツィ・マルワラ学長と懇談しました。

懇談では、横田理事・副学長から、今年1月25日（木）に本学学術交流会館で開催されたマルワラ学長による特別講演に対して感謝の意を伝えるとともに、国連大学SDG大学連携プラットフォーム（SDG-UP）マネジメント層分科会における日本の参加大学の議論の

状況を報告しました。さらに、マルワラ学長がアフリカのご出身ということもあり、本学が1982年から40年以上、独立行政法人国際協力機構（JICA）の複数のプロジェクトを通じて、主に獣医学の領域でザンビア大学へ教育や研究面での支援や技術支援を継続的に実施しており、1986年には獣医学部を設置したこと、近年では農学領域にも協力を拡大していることなど、教育研究面で長年にわたってアフリカで支援を行っていることを紹介しました。

マルワラ学長からは、SDGs達成に向けた大学の貢献は重要であり、国連

大学としては、自分の任期中には可能な限りすべての都道府県を訪問し、日本の大学や教育機関等との連携を進めていく旨の発言がありました。

サステナビリティ推進機構は、今後も、SDG-UPでの活動を通じた、両大学の連携や、高等教育におけるSDGsの取組みや人材育成、ステークホルダーとのパートナーシップの強化を通じて、日本と世界の持続可能な発展に貢献していきます。

（サステナビリティ推進機構）



懇談の様子（左から、マルワラ学長、横田理事・副学長）



表敬訪問時の集合写真（於：国連大学学長室）

大学院教育推進機構 繁富（栗林）香織准教授が「キャタピラーSTEM賞 最優秀賞」を受賞

この度、2023年度第6回「キャタピラーSTEM賞」一般部門において、大学院教育推進機構の繁富（栗林）香織准教授が最優秀賞を受賞され、2月23日（金・祝）にANAクラウンプラザホテル神戸において授賞式が行われました。

「キャタピラーSTEM賞」は、2018年に将来を担う若手女性研究者の国内での教育・研究機関における研究を支援するために設立されたものです。

授賞式では繁富准教授による受賞者講演が行われ、これまでの研究において、折り紙の折り畳み技術を利用したステント（ワイヤー）とグラフト（布）が一体になった折り畳み・展開が可能となる円筒状チューブ状のステントグラフトを開発し、さらに、細胞自身の牽引力を用いて二次元平面状のプレートを折り畳み、三次元立体組織構造を

作製する世界初の技術「細胞折紙」を確立した成果について紹介されました。この折紙工学を用いた技術は、今後新薬の開発や次世代の再生医療分野、細胞を使った医療器具への応用が期待されているものです。繁富准教授は、日本における合計特殊出生率が世界的に見ても最低レベルの低さにあり、将来に向けて少子高齢化が益々深刻な問題となることを挙げ、本研究では今後、不妊治療の重要なステップの

一つである胚盤胞の形成において、折紙デバイスを用いた人工胚盤胞の効率的な構築が可能となる技術を開発することによって、特に不妊治療への貢献を目指すとともに、ワークライフバランスを取りながら、仕事も子育ても両立し充実した日々を送る女性が増えていくことにもつなげていきたいと、抱負を述べられました。

（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部）



繁富准教授と審査委員長の鶴田宏樹氏（神戸大学 准教授）



受賞者講演

高校生対象の体験型科学実験教室を開催

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部（以下、DEI推進本部）と理学研究院化学部門は、公益財団法人KDDI財団との共催で、高校生対象の体験型科学実験教室「光と色で見る化学の世界」を3月2日（土）に開催し、9名が参加しました。本企画はKDDI財団の「青少年啓発・育成活動助成」を受け実施しています。

KDDI財団の阿野茂浩理事長からのご挨拶に続いて、理学研究院化学部門の鈴木孝紀教授からプログラムの流れや実験内容について説明があり、その後、3つのグループに分かれて実験に取り組みました。

実験には反応が出るまで時間がかかるものがあり、その結果を待つ間にも学びがあるようにと、講義を受けなが

ら同時に2種類の実験を交互に行うというプログラム構成で、石垣侑祐准教授や大学院生・大学生6名のサポートの下、スムーズに実験を進めることができました。実際に実験器具を操作する際には緊張した面持ちを見せながらも、綺麗に色が変化するように、参加者も実験の面白さを感じていたようでした。

参加者アンケートの結果が非常に好評だったことから、今後も各部局等の協力をいただきながら、継続的に事業を実施していきたいと考えています。

その他DEI推進本部の活動については、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/>

（ダイバーシティ・インクルージョン推進本部）



TA学生から説明を受ける参加者



実験を体験する参加者

「国民との科学・技術対話」支援事業 アカデミックファンタジスタ 3名の研究者が講義を実施

「がん薬物療法 最新の治療開発」 北海道大学病院 助教 川本泰之

川本助教は食道や胃・大腸など、体の消化器にできるがん治療を専門にしています。がん細胞は分裂のスピードが速い特徴があり、細胞の分裂自体を阻む従来の抗がん剤は、正常な細胞も区別なく攻撃してしまうため、脱毛などの副作用があったと説明しました。

一方、最新の抗がん剤である分子標的治療薬は、がん細胞を遺伝子レベルで分析し、特定の分子だけを狙い撃ちしてがん細胞の分裂を阻めることなどを解説し、新薬開発のための研究が続いていることを紹介しました。



生徒の質問に答える川本助教

日 時：2024年2月8日（木）16：00－17：30

会 場：北海道札幌北高等学校

参加生徒：1-3年生 37名

「新薬開発で動物も病気から救える時代に」 獣医学研究院 教授 今内 覚

動物の感染症やがんに関与する新薬の研究をしている今内教授は、北大獣医学部の特色や、獣医師という仕事の幅広さについて話しました。獣医師はペットだけでなく野生動物や家畜とも関わりがあることや、動物の病気の理解は

人の医学にも役立つことを解説しました。また、人のがん治療に使う「免疫チェックポイント阻害剤」が、犬のがん治療にも有効であることを確かめたという自身の研究も紹介しました。



海外での活動を説明する今内教授

日 時：2024年2月21日（水）10：40－11：20

会 場：札幌創成高等学校

参加生徒：2年生 29名

「『多文化』化する北海道の今を考える」 高等教育推進機構 准教授 平田未季

言語学を専門とする平田准教授は、「多文化」化が進む北海道において、外国人居住者の人々と共生するために私たちができることを生徒たちに問いかけました。北海道では若い特定技能の在留資格を持ち働く人が増えていますが、日本語を学び続ける人は非常に少ないといいます。私たちが「やさし

い日本語」を使うよう心がけることで、日本に労働力をもたらしてくれる彼らの生活が快適なものとなれば、結果として私たち自身の利益にもなると話した平田准教授。生徒たちに「外国人居住者との交流に関心を持ってもらえたら」と伝えました。



生徒たちに問いかけながら講義を進める平田准教授

日 時：2024年3月6日（水）14：30－16：00

会 場：札幌日本大学高等学校

参加生徒：中学生、高校1-2年生 計10名

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ (Academic Fantasista)」。

内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。2023年度は北海道の高校等を対象に31名の教員が講義を実施しました。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/>

・Facebook

@Hokkaido.univ.taiwa

(広報・社会連携本部)



リサーチタイムズ



フェイスブック

■ 部局ニュース

会計専門職大学院で日本内部監査協会と共催セミナーを開催

会計専門職大学院では、3月18日（月）～19日（火）に、学術交流会館において、一般社団法人日本内部監査協会と「〈北海道地区監査研究会議設立15周年記念〉北海道大学会計専門職大学院・日本内部監査協会共催セミナー」を開催しました（協賛：日本公認不正検査士協会、後援（順不同）：証券会員制法人札幌証券取引所、日本公認会計士協会北海道会、公益社団法人日本監査役協会、日本監査研究学会、日本ガバナンス研究学会、公益財団法人日本内部監査研究所）。

今回のセミナーは、2008年に設立されました「北海道地区監査研究会議」設立15周年を記念し、北海道内の監査関係者に加えて、全国からガバナンス・会計・監査関係者が札幌に集結し、幅広い知見を共有することによって、変化の激しい時代における北海道内企業の持続的発展の機運を高め、道内経済の躍動に資する機会になればという想いで企画いたしました。

第1日目は、伊藤美月氏（財務省北海道財務局理財部長）による記念講演「最近の金融行政を巡る動き」、平本健太氏（北海道大学大学院経済学研究

院教授、北海道旅客鉄道株式会社監査役）による特別講演「『バカナ』と『なるほど』のビジネスシステム」に続き、蟹江 章氏（青山学院大学会計プロフェッション研究科教授、元・北海道大学会計専門職大学院教授、一般社団法人日本内部監査協会名誉会員、元・日本内部監査協会北海道地区監査研究会議連携コーディネータ）をモデレータとして、金子裕子氏（公認会計士、神奈川中央交通株式会社取締役監査等委員、三菱HCキャピタル株式会社取締役監査等委員、信越化学工業株式会社監査役、株式会社日本政策投資銀行監査役、元札幌テレビ放送株式会社アナウンサー）、鈴木秀章氏（ジェイアール北海道エンジニアリング株式会社監査室室長、CIA、CFE、CISA、CCSA）、宮本伸司氏（北海道ガス株式会社執行役員・監査部長、日本内部監査協会理事）の3人をパネリストとするパネル討論が行われました。

第2日目は、岡田譲治氏（日本公認不正検査士協会理事長、日本航空株式会社社外監査役、日本電気株式会社社外取締役、CFE）による記念講演「監査役の矜持～曲突徙薪に恩沢なく～」

に続き、八田進二氏（青山学院大学名誉教授、大原大学院大学会計研究科教授、日本公認不正検査士協会評議員会会長、日本内部監査協会名誉会員）をモデレータとして、岡田氏、佐藤 玲氏（株式会社メディカルシステムネットワーク執行役員・システム本部副本部長、北海道大学会計専門職大学院特任教授、公認会計士）、吉武 一氏（太陽誘電株式会社常勤監査役、日本内部監査協会理事、Global IIA国際委員、CIA、CFSA、CCSA、CRMA、CISA、CGEIT、CFE）の3人をパネリストとする座談会が開催されました。

コロナ禍以降、対面でのセミナー実施は難しい状況にありましたが、今回は、企業で内部監査に従事されている方を中心として、道内外から約80名（オンライン参加者を含めると約400名）の参加者があり、関心の高さが伺えるセミナーとなりました。会計専門職大学院では、今後もこうした催しを通じて、地域社会における会計・監査実務の発展に貢献していきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演する平本教授



パネル討論の様子

経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催

経済学院では、令和元年度から、教育・研究の国際化及び留学生支援を促進することを目的として、優れたチューターに対して「ベスト・チューター賞」を授与してきました。令和5年度

は、最優秀賞に修士課程1年生の寺田陽人さん、優秀賞に学部4年生の葛翔さん、同じく学部4年生の林朋花さん、修士課程1年生の油井諒介さんが選出され、3月25日（月）に経済学

部において表彰状が授与されました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



表彰状授与の様子

「第20回数学総合若手研究集会～数学の交叉点～」を開催

理学院では、3月4日（月）～8日（金）に「第20回数学総合若手研究集会～数学の交叉点～」を開催しました。

この研究集会は、数学に関わる様々な分野の若手研究者が、自身の研究を発展させることはもちろん、新たな研究テーマを発見すること、人的ネットワークを広げることを目的としています。運営すべてを数学専攻の大学院生が行うという非常に特色ある集会で、今年、記念すべき第20回を迎えました。

今年度はオンラインと対面のハイブリッド形式で開催しました。全国から参加申し込みがあり、全体の講演者は過去最大の115名と大盛況でした。

講演は「シングルセッション」「パラレルセッション」「ポスターセッ

ション」の3つの形式で行われました。シングルセッションは大講堂で行われ、代数、幾何、解析、数理科学の各分野から1名ずつ選ばれた講演者が登壇し、その分野の入門的な話から最先端の研究までを詳細に解説しました。パラレルセッションでは、分野ごとに4つの部屋に分かれ、講演者が自身の最新の研究内容を披露しました。参加者は自分の関心に合わせて会場を選択し、専門的な議論に加わっていました。ポスターセッションは3日目の午後に行われ、5人の講演者が自身の研究成果についてポスター発表をし、ここでも参加者との活発な議論が交わられていました。また、4日目の夜には5年ぶりに対面の懇親会が開かれ、

105人が集まり交流を深めるなど、全体を通して大変有意義な研究集会となりました。

この研究集会開催にあたり、世話人の院生は約1年前から、会場準備やホームページ制作、広報活動など熱心に準備を重ねてきました。苦労も多々あったと思いますが、こうした大規模の集会を成功させた経験は間違いなく貴重な財産となり、これからの研究生活や社会生活において大いに役立つでしょう。今後もこの伝統が受け継がれていくことを期待しています。

（理学院）



シングルセッション講演者



シングルセッション参加者の様子



ポスターセッションの様子



最終日の全体集合写真

2023年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第1期生修了式を開催

3月12日（火）、2023年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラムの第1期生（博士後期課程3年次9名）の修了式がオープンイノベーションハブエンレイソウにて執り行われました。このプログラムは、広義の物質科学分野を専門とする大学院生に対して、専門分野の研究にとどまることなく、スマート物質科学力並びに

社会実装実現力を養成するものです。

修了証書授与の後、修了した9名がこれまでの活動を振り返って挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、武次徹也プログラムコーディネーター（理学研究院教授）が1期生にはなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）

<https://phdiscover.jp/>をご覧ください。



（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院・情報科学院）



プログラム教員と第1期生の集合写真



はなむけの言葉を贈る武次徹也コーディネーター



修了証書授与

令和5年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓する Ambitiousリーダー育成プログラム修了式を開催

3月7日（木）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）6期生2名の修了式が、理学部にて執り行われました。ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけではなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成するための大学院教育プログラムです。令和2年3月に文部科学省の補助金

事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。

会場となったのは90年以上の歴史がある理学部本館大会議室です。修了証書授与のあと、修了した2名がこれまでの活動を振り返って挨拶を述べ、会場から大きな拍手が送られました。続いて、石森浩一郎理学研究院教授（プログラムコーディネーター・副学長）が6期生にはなむけの言葉を贈りました。

詳細はPh.Discover（博士人材の未来を拓く情報発信サイト）
<https://phdiscover.jp/>をご覧ください。



（総合化学院・理学院・工学院・
環境科学院・生命科学院）



修了の挨拶を述べる岡 紗雪さん



修了の挨拶を述べる畠田永希さん



はなむけの言葉を贈る石森コーディネーター



6期生（中央）を囲んだ集合写真

2024年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラム第4期生採用式を開催

3月12日（火）、2024年度北海道大学スマート物質科学を拓くアンビシャスプログラムの第4期生（博士後期課程1年次5名）の採用式がオープンイノベーションハブエンレイソウにて執り行われました。このプログラムは、広義の物質科学分野を専門とする大学院生に対して、専門分野の研究にとどまることなく、スマート物質科学力並びに社会実装実現力を養成するものです。

武次徹也コーディネーター（理学研究院教授）が5名のプログラム生に認定証を授与しました。

第4期生として採用された5名と一足早く10月採用された4期生1名の計6名は、これから数理科学、計算化学、データ科学の実践力を学びながら異分野融合あるいは産学官連携のDXプログラムにも取り組みます。

詳細はPh.Discover（博士人材の

未来を拓く情報発信サイト）
<https://phdiscover.jp/>をご覧ください。



（総合化学院・理学院・工学院・
環境科学院・生命科学院・情報科学院）



プログラム教員と第4期生の集合写真



採用式の会場となったオープンイノベーションハブエンレイソウ第一会議室

生命科学学院 博士後期課程科目 少人数討論型育成プログラム (北大帝人ブレインストーミングワークショップ) 「自分の研究・アイデアをビジネスにしよう」を実施

博士後期課程を対象とした大学院生命科学学院選択科目及び大学院共通授業科目として、帝人株式会社と連携して少人数討論型育成プログラム（北大帝人ブレインストーミングワークショップ）「自分の研究・アイデアをビジネスにしよう」を実施しました。本講義は平成19年度に初めて開講され、今回で17年目を迎えました。今年度は令和5年11月2日（木）から令和6年3月4日（月）までの間に全10回のワークショップとして開講され、先端生命科学研究院の石原誠一郎助教が担当し、2名の博士後期課程の学生（生命科学学院1名、総合化学院1名）が受講しました。

本講義では北海道大学&帝人株式会社の産学連携プログラムとして、博士後期課程の学生を対象に、研究・アイデアをビジネスにつなげるためのワークショップを行いました。「起業に興

味があるけど具体的に何をしたらよいかわからない」「自分の研究や興味を社会に還元したい」「自分の研究が実際に社会の役に立つのかを知りたい」といった学生に対して、起業を目指している学生には実現のためのサポートを、そうでない学生には起業という選択肢を与えることを目指しました。

全10回のワークショップのうち計5回でビジネス提案の立案とプレゼンテーションのブラッシュアップを行いました。11月10日（金）には帝人株式会社からご担当者様をお迎えし、新規事業開発のご講演を行っていただきました。12月26日（火）には帝人株式会社のご担当者様から、企業におけるダイバーシティ&インクルージョンのご講演をいただきました。3月4日（月）には東京の帝人株式会社本社にて最終報告会を開催しました。受講生はテイジン

未来スタジオにて帝人株式会社の開発した商品について学ぶとともに、各自のビジネス提案について最終発表を行い、帝人株式会社のご担当者様から多くのコメントや質問をいただきました。さらに、帝人株式会社の6名のご担当者様と面談を行い、企業における研究開発の実情や受講生の将来や進路について多くのご情報、ご助言をいただきました。

本講義を進める上でお力添えいただいた帝人株式会社のご担当者様をはじめ、ご協力いただいたすべての方々に感謝します。受講生の皆様がこの経験を活かし、産学含め、どの進路に進むとしても大いに活躍いただけることを祈っています。

（生命科学学院・先端生命科学研究院）



帝人株式会社本社での最終報告会の様子

総合博物館で第16回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、2008年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、さまざまな年代の市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えます。北大生の研究を広く社会に伝えるだけでなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。

16回目を迎えた今年度は、3月2日（土）・3日（日）に博物館1階「知の交流」ホールと企画展示室の2会場にて開催されました。

ポスターとホームページで発表者を募集した結果、農学部・理学部・工学部・文学部から11名の4年生が参加し

ました。発表者は、卒業研究を市民に発表するために見直し、他学部の発表者や博物館担当教員と議論する中間発表会3回とリハーサルを通して、専門分野外の方々にも伝わるようにポスターの内容やデザイン、発表方法を学んでいきました。発表会が近づくにつれて緊張気味の学生たちでしたが、当日は来館者の鋭い質問に丁寧に答えたり、後ろの列に座った方にも視線を投げかけ説明について不明な点はないか確かめたりと柔軟に対応していました。学生たちの研究に興味を持たれ、積極的にご質問を投げかける方々の姿も数多く見られました。

発表会の運営には理学部・農学院・理学院・文学院から5名の学部生・大学院生が参加しました。運営スタッフとして発表会の広報、プログラム作成、会場運営などを進め、会場の設営

ではポスターの配置からライティングに至るまで、柔軟に対応し、発表会当日には受付や後述する各賞の授賞式の司会を担当しました。

最終日には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民5名と本学教職員5名、ミュージアムマイスター5名から成る審査員の評価による「最優秀賞」、ミュージアムマイスター5名が選定する「ミュージアムマイスター賞」が決定された他、「SDGs賞」が選定されました。11名の発表者の審査は大変拮抗し、今年度は最優秀賞を2枠設けることとなりました。発表会2日目に行われた授賞式では、受賞者へ表彰状と、発表者全員に記念品が授与されました。

（総合博物館）



発表会当日の会場風景



来館者に向けて説明する発表者たち



終了後の記念撮影

発表者と発表題目：

1. 木元友理香（工学部）
「細菌を使った鉱山廃水からの金属回収プロセス」
2. 伊藤貴洋（工学部）
「中川町・当麻町・道南地方にみる建築用地域産木材の流通」
3. 三上凌平（工学部）
「北海道の現代住宅にみる内と外のつながりかた」
4. 菅原咲紀（工学部）
「小樽市における戦前期の歴史的建造物について」
5. 上野怜也（工学部）
「建物配置と地割からみる北越殖民社による野幌開拓計画の特徴」
6. 菅 遥斗（理学部）
「鳥の骨の個性はどこから？ - 骨組織と生態の関連を探る -」
7. 杉浦寛大（理学部）
「AI が化石を見つける？ ～未知の化石の発見に挑む！世界初のアプローチ～」
8. 祖父江陽介（理学部）
「背骨の形の違いから見るカムイサウルスの生態」
9. 荒岡柊二郎（理学部）
「深海底の形成に迫る ～オマーンオフィオライトより～」
10. 石川弘晃（農学部）
「根室地方湿地群の植物相」
11. 幸 一尋（文学部）
「英語の形容詞＋過去分詞型複合形容詞の形成条件 ―結果構文との関連に着目して―」

運営担当学生：

来田祐太郎（農学院博士課程1年）・藤木卓巳（農学院博士課程1年）・佐藤 英（理学部2年）・
長峰実央（理学院修士課程2年）・三田尾有希子（文学院修士課程1年）

受賞者：

最優秀賞 木元友理香（工学部）・石川弘晃（農学部）
 マイスター賞 木元友理香（工学部）
 SDGs賞 石川弘晃（農学部）
 来館者賞 杉浦寛大（理学部）

審査員一覧**教職員審査員（敬称略）：**

坪田敏男 北海道大学総合博物館 館長 / 北海道大学大学院獣医学研究院 教授
 内田 努 北海道大学大学院工学研究院 准教授
 高橋英樹 北海道大学 名誉教授 / 北海道大学総合博物館 資料部研究員
 出村 誠 北海道大学先端生命科学研究院 / 北海道大学生命科学院 / 北海道大学理学部 教授
 山内彩加林 北海道大学低温科学研究所 助教

市民審査員（敬称略）：

浅野目祥子 NPO法人手と手 代表理事・ミュージアムカフェぼらす / ミュージアムショップぼとろ 代表
 中道洋友 北海道札幌啓成高等学校 教諭
 蛭川隆介 北海道新聞社 論説主幹
 藤田良治 愛知淑徳大学創造表現学部 准教授
 矢野ひろ NPO法人北海道遺産協議会 理事

ミュージアムマイスター審査員（敬称略）：

太田 晶 むかわ町経済恐竜ワールド戦略室
 押野祐大 北海道中標津高等学校 教諭
 大藪隼平 北海道大学理学院 博士課程1年
 佐々木悠貴 北海道大学工学院 修士課程2年
 荒川大地 北海道大学理学部 3年

担当：

北野一平・小林快次・湯浅万紀子・市来紗都子・土田江里子（総合博物館）
 発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館ホームページで公開しています。
<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/20028/>

医学研究院が「第4回 Clinical AI アニュアルシンポジウム」を開催

2月15日（木）に、医学研究院が運営している医療AI開発者養成プログラム（CLAP）に関わる「第4回 Clinical AI アニュアルシンポジウム」を開催しました。本イベントは、北海道大学医学部臨床講義棟及びオンライン（Zoom）配信のハイブリッド形式で行われ、現地から28名、オンラインから216名、計244名の方々にご参加いただき、盛況のうちに終わりました。

Clinical AI アニュアルシンポジウムは、令和2年度に東北大学（主幹校）、北海道大学、岡山大学の3大学が樹立し、文部科学省に採択された「Global×Localな医療課題解決を目指した最先端AI研究開発」人材育成教育拠点－Clinical AI－の成果を発表する場として年に1度開催されています。4年目となる令和5年度は、北海道大学が当番校として開催しました。

Opening Remarksでは、寶金清博総長、文部科学省高等教育局の俵 幸嗣医学教育課長、東北大学の張替秀郎副学長、岡山大学の豊岡伸一医学部長、並びに北海道大学の畠山鎮次医学研究院長より開会のご挨拶及び本プログラムにおける今後の抱負について語られ

ました。

過去4年間にわたり、東北大学、北海道大学、及び岡山大学は、医療AIの分野での教育と研究に深く取り組み、医療AIの教育を行ってきました。この集大成に関し、東北大学病院AI Labの園部真也助教、岡山大学学術研究院AI人材養成産学協働プロジェクトの谷岡真樹准教授、本学医学研究院の平田健司准教授が発表を行いました。

「大学院生の報告」セッションでは、東北大学、岡山大学、及び北海道大学の大学院生が、それぞれの大学での活動とAI研究の進捗を報告しました。

発表後の質疑応答セッションでは、座長である本学医学研究院の工藤興亮教授のもと、活発な議論が展開されました。

シンポジウムの後半には、「社会変革における医療情報・AIの役割」と題した特別講演が、本学保健科学研究院の小笠原克彦教授によって行われました。この講演では、現代社会における医療情報技術とAIの革新的な役割について、深い洞察が共有されました。

続いて、メディカルAI人材養成産学協働拠点から名古屋大学大学院医学

系研究科の木村 宏研究科長よりご挨拶及び拠点紹介がなされました。木村研究科長は、ご挨拶と共に、拠点の活用概要、また、医療AI分野での革新的な研究と教育への貢献について紹介されました。

本シンポジウムは、北海道大学病院の渥美達也病院長による締めくくりの言葉で幕を閉じました。渥美病院長は、シンポジウムを通じて展開された議論、発表された研究成果、そして共有された知見に感謝の意を表しました。

医療AI開発者養成プログラムでは、今後も、人脈形成、国際的視野の形成、共同研究の機会や将来のビジョン、キャリアパスの形成に繋がるようなイベントを積極的に開催していきます。学部生、大学院生、教職員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

医療AI開発者養成プログラム
<https://ai.med.hokudai.ac.jp/>

（医学研究院）



開会のご挨拶をされる寶金総長/
 文部科学省高等教育局の俵医学教育課長



開会のご挨拶をされる東北大学の張替副学長/
 岡山大学の豊岡医学部長



開会のご挨拶をされる畠山医学研究院長/
 小笠原教授による特別講演



メディカルAI人材養成産学協働拠点ご挨拶及び拠点のご紹介をされる
 名古屋大学の木村医学系研究科長/開会のご挨拶をされる渥美病院長



医学部が令和5年度最終講義・退職記念式典を挙行

医学部では、3月15日（金）、医学部学友会館「フラテ」ホールにて、最終講義・退職記念式典を挙行了しました。今年度は、コロナ禍以前と同様の「フラテ」ホールでの対面開催のみとして開催いたしました。

最終講義終了後に引き続き行われた退職記念式典では、畠山鎮次医学研究

院長、浅香正博同窓会会長、及び教授会代表者として山本有平教授から挨拶がありました。続いて、長年の功績をたたえ、感謝の意を込めて、医学部医学科学友会の畠山会長と医学部同窓会の浅香会長から記念品が、また、学友会及び所属教室からは花束が贈呈されました。

退職者

腎泌尿器外科学教室 篠原信雄 教授
最終講義題目「泌尿器がんに対する治療の進歩と課題」

精神医学教室 久住一郎 教授

最終講義題目「急がずに、休まずに」

(医学研究院)



最終講義をする篠原教授



最終講義をする久住教授



関係者による記念撮影

歯学研究院でURAステーションとの共同企画セミナー 「国際共同研究の現実と今後のあり方」を開催

歯学研究院では、URAステーションとの共同企画により、2月28日（水）に「国際共同研究の現実と今後のあり方」と題したセミナーを開催しました。

本セミナーは、国際共同研究の推進が、研究レベルの向上だけでなく学問的な視野や研究者間の信頼関係の構築など、その後の活動に有益な効果も生み出すことから、現在歯学研究院で展開されている国際共同研究の事例やその持続のための努力について紹介するとともに、海外から来日して研究を継続する上での様々な苦労など、逆の立場からの経験についても紹介し、国際的な研究活動への関心を高めてもらうために企画したものです。

セミナー当日は、網塚憲生歯学研究院長の開会挨拶の後、李 智媛助教からは、アメリカでの留学生活から国際共同研究に至った経験について、平田恵理助教からは、フランスへの留学を

契機とした、国と分野を横断する共同研究を通じての臨床歯科医としての日々の奮闘について、留学当時の苦労話などを交えながら講演が行われました。劉 雲青博士研究員からは、中国から日本へ留学し、学位取得後も継続して我が国で研究を継続する立場から、必要な資金の獲得に関しての自身の経験談をはじめ、日本での研究活動について講演がありました。

その後、URAステーションの佐藤崇URAから、歯学研究院における外部資金の獲得状況と国際共同研究に関する各種助成制度について紹介があり、各種のデータに基づいた説明は、特に若手研究者にとっては応募意欲を掻き立てられる内容でした。また、併せて「北大研究者海外派遣支援プログラム」の活用や「researchmap」への全研究業績の登録など、本学として推進すべき取組への協力依頼とともに、

今後も研究費の戦略的な応募、獲得についての支援及び情報提供に努めていく旨の話がありました。

終了後のアンケートでは、「研究内容や苦労話、お金の重要性について話を聞くことができ大変有意義だった」「国際共同研究の話はあまり聞けないので満足した」「研究費以外の、海外生活を送る上での金銭的なサポートについてより詳しく知りたかった」などの意見が寄せられました。

令和4年度から開催している歯学研究院とURAステーションとの共同企画のセミナーは今回で4回目となりましたが、今後も引き続き緊密に連携のうえ、研究支援体制を強化していくこととしています。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



網塚歯学研究院長の挨拶



セミナー風景

薬学研究院が「第18回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では、3月6日（水）に「第18回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まり、FD研修会を兼ねて、年2回実施しています。

発表会は、木原章雄薬学研究院長に

よる開会の挨拶の後、RNA生物学研究室の栗原美寿々助教による「核内構造体による遺伝子転写制御」と題する発表、及び薬物動態解析学研究室の柏木 仁講師による「プロスタノイドによる血小板の機能調節」と題する発表の2件の研究発表が行われました。

本発表会には、教員46名が参加し、様々な分野の教員から発表者への質問

があり、活発な討論が交わされました。教員の異分野への知見の拡大やプレゼンテーション能力の向上に、また共同研究の活性化に繋がる非常に良い機会であり、大変有意義な会となりました。次回は2024年8月に開催予定です。

(薬学研究院・薬学部)



発表する栗原助教



発表する柏木講師

北ガス×北大 地域創生シンポジウム 「カーボンニュートラルと地域創生」開催

工学研究院と北海道ガス株式会社との連携協定締結（令和5年3月）を記念して、北海道におけるカーボンニュートラル社会の実現と、地域課題への理解を深め、目指す姿の実現への道筋を考える機会として、3月5日（火）に共催シンポジウム「カーボンニュートラルと地域創生」を会場（本学クラーク会館）とオンラインで開催しました。

当日は、環境省の和田篤也事務次官が「再エネ・ゼロカーボンで地域創生、更にはその先へ！」と題したオンライン講演で、脱炭素は目的ではなく手段であり、地域の困りごとを再生可能エネルギー等で解決する視点が重要で

あるとの説明がありました。次に、橘川武郎国際大学学長が「カーボンニュートラル・ガス産業・北海道」と題した基調講演を行い、再エネの最大の課題は高コストなことであり、それを解決するためには技術革新とともに既存インフラの徹底的な活用がカギになるとの指摘がありました。続いて、地域全体で再エネに取り組む十勝管内上士幌町の竹中 貢町長にもご登壇いただき、本学の瀬戸口剛教授、岸 邦宏教授、北海道ガス株式会社の若松 栄氏らとともにパネル討論を行いました。竹中町長からは牛のふん尿を利用したバイオガス発電でエネルギーの地産地

消や地域の雇用を創出していることの事例紹介もありました。

シンポジウムには会場とオンラインで計約400人が参加し、カーボンニュートラル時代を切り開く先駆的地域として注目されている北海道において、今後自治体、地元企業等の、より多くの関係者を巻き込んだ具体的な取組を進めていくことの重要性が共有されるなど、大変有意義な機会となり、盛会のうちに終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



専門家や事業者によるパネル討論



左より、幅崎浩樹工学研究院長、北ガス大槻代表取締役会長、橘川国際大学学長、寶金清博総長、竹中上士幌町長、瀬戸口教授

国際広報メディア・観光学院が台北にて留学生向け説明会を実施

国際広報メディア・観光学院は、3月10日（日）、台湾輔仁大学社会科学学院の教室をお借りして、留学生向け説明会を開催しました。今回は対面とオンラインのハイブリットでの開催となり、67名（対面10名、オンライン57名）の参加がありました。加えて、在學生・修了生対面2名、オンライン2名も参加しました。

奥 聡学院長の挨拶に続き、例年通り、学院の紹介、研究生と大学院生としての学修システム、書類審査応募の注意点、研究生としての勉強、大学院修了後の進路など、留学希望者にとって必要な情報が提供されました。全体

説明終了後は分野ごとに分かれ、ハイブリットで個別相談と質疑応答の時間が設けられました。また、在學生・修了生による、自らの体験をもとにした留学や学修に関するアドバイスも行われました。

説明会後に実施した参加者アンケートでは、回答者全員が説明会を「とても役に立つ」（60.0%）「役に立つ」（40.0%）と評価しています。具体的には、「先生方の丁寧な説明」「ハイブリット形式による参加のしやすさ」「（説明会中もオンラインで）匿名での質問にも即時に回答してくれたこと」などが高く評価されました。また、

「研究計画書の作成について詳しく教えていただいたことがとても役に立った」「知りたい情報を先輩に気軽に聞くことができた」などの感想もいただきました。

説明会を通じて、参加者の北大留学への熱意を感じており、今後も対面とオンラインのそれぞれの強みを生かして、様々な地域で説明会を開催することを前向きに検討していきたいと考えています。

（国際広報メディア・観光学院）



説明会参加者と記念撮影

令和5年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修を開催

北方生物圏フィールド科学センターでは、3月14日（木）、15日（金）の2日間、本学及び道内の大学の技術職員を対象とした令和5年度北海道大学北方生物圏フィールド科学センター耕地圏・水圏ステーション技術職員専門研修（オンライン研修）を開催しました。本研修は教育研究支援業務に関する専門的知識と技術を広く習得することを目的に毎年開催しており、4年連続でオンラインでの開催となりました。今年度は30名（うち、他大学からは、北海道国立大学機構帯広畜産大学1名）の参加がありました。

14日（木）は、初めに本センターの宮下和士センター長による開会の挨拶があり、続いて宮下センター長と技術支援本部将来構想検討専門部会長の岡征子氏を講師に「センターの将来像と技術支援本部の実質化に向けた現状」と題したトークセッションを行いました。トークセッションでは地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）において当センターの教

育力・研究力をいかに高めていくか、また技術支援本部の現状と将来において現場の意見をどう具体的に反映していくかなど話題提供がなされ、参加者を交えて活発な討論が行われました。その後、獣医学研究院の坪田敏男教授による「人里に出没するヒグマの生態と対策」と題したビデオ講義が行われました。

15日（金）は、国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構及び文部科学省所轄の大学共同利用機関法人等の技術職員が、日常業務で携わっている「ものづくり」を含む「実験・実習」、「地域貢献」、「環境・安全衛生」等に関する広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する2023年度実験・実習技術研究会（今年度はオンラインで約300名の参加）に加わる形で技術職員の発表・聴講が行われました。プログラムの一部である「実験・実習技術分野（農学・水産・生物）」を本学の技術職員が担当し、座長・司会業務を務めました。同分野では、本

学の植物園および七飯淡水実験所の職員による報告を含む8件の発表と、特別企画として前日の坪田教授によるビデオ講義「人里に出没するヒグマの生態と対策」が道外の参加者に向けても行われました。

一部日程を実験・実習技術研究会と合わせるという初めての試みでしたが、進行上大きなトラブルはなく、大変貴重な研修となりました。終了後に実施した受講者アンケートでは様々な分野の発表に反響があり、「分野や手法は異なっても、色々な方の改良・改善に向けて努力された過程や結果を知ることができ、自分も頑張ろうと思えます」などの感想がありました。参加者からの意見を踏まえ、引き続き今後の研修のあり方について模索していきたいと考えています。開催にあたりご指導・ご協力・ご講演いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



研修の様子

北極域研究センターが「第2回HAI-FES国際ワークショップ」を開催

2月27日（火）、北極域研究センターは、北海道大学フューチャー・アースコンソーシアムとの共催で、「The 2nd HAI-FES International Workshop “Building Bridges between Arctic and Asia”」を開催しました。

本ワークショップでは、本学FMIフード&メディカルイノベーション国際拠点会場に、対面・オンラインのハイブリッド形式で、中緯度地域、特にアジアの研究者・機関が一堂に会し、北極圏における社会と関係する研究活動の課題や留意点について議論することを目的とし、3つの基調講演と3つのセッションを設けました。

基調講演では、米国Arizona State UniversityのIlan Chabay教授、新潟大学の本田明治教授、米国Science Diplomacy CenterのPaul Arthur Berkman教授の3名が講演し、それぞれの異なる専門分野において、急激な気候変動が起きている中での、社会変革の考え方、北極とアジアの物理学的

な繋がり、北極のガバナンスについて議論しました。

セッション1では、“より良い未来のための社会変革 - 北極圏からの教訓”をテーマに、当センター大西富士夫准教授がモデレーターとなり、Chabay教授、Berkman教授を中心に、総合地球環境学研究所（地球研）の安成哲三名誉教授やRia Lambino准教授らとパネルディスカッション形式で議論を深めました。セッション2、3では、本センターの大塚夏彦特任教授、Juha Saunavaara准教授がそれぞれモデレーターを務め、インドMinistry of Earth SciencesのVijay Kumar博士、台湾National Central UniversityのHwa Chien教授、韓国Korea Polar Research InstituteのHyoung Chul Shin博士がそれぞれの国や機関における北極域研究の取り組みについて紹介し、北極域に領土を持たないアジアの国がどのようにして北極域の研究に関わっていくかが議論されました。また、米国University of

AlaskaのNicholas Parlato研究員が先住民と協働するプロジェクトについて紹介し、これからの北極域研究の在り方についての大切な視点が提示されました。本ワークショップには、対面・オンライン合わせて約50名が参加し、活発な議論が交わされて盛会の内に終了しました。2024年度も、北極域研究センターでは、シンポジウムやワークショップを積極的に開催し、今後の北極域研究に繋げていく考えです。

*HAI-FES：北海道大学機能強化推進事業の一つであり、本センターや工学研究院、地球環境科学研究院、理学研究院、スラブ・ユーラシア研究センターの研究者が北極圏で課題解決型の学際的・超学際的研究を行い、アジアの国々で同様な研究を行う研究者・機関のネットワーク形成を目指している。

（北極域研究センター）



参加者の集合写真

脳科学研究教育センター一発達脳科学専攻第20期修了生に修了証書授与

3月25日（月）、本学修士・専門職学位・博士学位授与式後に、医学部百年記念館において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、田中真樹センター長から修了証書が授与されました。

今年度は第20期生として、修士課程7名（小林 慧：教育学院、田端 遼：生命科学学院、小西優歌、高橋香穂、金 柱亨：保健科学院、佐藤 蓮、野村左京：医学院）、博士（後期）課程1名（新井田光希：文学研究科）が所属学院の学位取得に加えて発達脳科学専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局のセンター教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

発達脳科学専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。令和5年度

からは従来のグループ制を廃止するとともに「脳科学専攻」と専攻名称を変更し、より柔軟な研究交流を加速させ、学内6学院にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳に関した分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野を持った次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程138名及び博士（後期）課程27名、計165名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）



田中センター長から修了証書の授与



今年度の修了生とセンター教員

附属図書館にネーミングライツパートナーのSky株式会社が来訪

北海道大学とSky株式会社は、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人北海道大学ネーミングライツに関する契約書」を締結しました。令和6年2月1日から3年間、附属図書館本館オープンエリアは「Sky Open Area」の愛称が命名されます。

2月20日（火）には、ネーミングライツパートナーであるSky株式会社の

多田昌弘取締役ほか3名が、Sky Open Areaの視察等を目的として附属図書館に来訪されました。附属図書館からは、山本文彦図書館長、稲葉 睦副館長が対応し、契約締結への謝意を述べるとともに、館内の見学や記念撮影を行いました。

館内見学では、各施設の紹介のほか、国の重要文化財に指定されている「ヤエンコロアイヌ文書」や、附属図

書館に所蔵されている貴重書等の解説をし、附属図書館の活動についても理解を深めていただきました。

附属図書館では、Sky Open Areaの愛称が学生に定着するよう努めてまいります。

（附属図書館）



多田取締役（右）と山本館長



貴重資料の説明

附属図書館で道立図書館利用登録会及びKinoDen利用説明会を開催

附属図書館では1月16日（火）に、北図書館において、北海道立図書館利用登録会及びKinoDen利用説明会を開催しました。

道立図書館の利用登録をすると、同図書館の電子図書館サービスも利用可能となり、どこからでも同図書館が契約しているKinoDen（紀伊國屋書店が提供する電子ブックサービス）による電子ブック約7,000点を利用できるようになります。北大でもKinoDenをはじめとする複数の電子ブックサービス*を既に提供していますが、この登録会は、江別市にある道立

図書館に向かずともキャンパス内で同図書館の利用登録を可能にすることで、北大の学生及び教職員がより簡便に、かつより幅広い電子ブックを利用できるようにすることを目的としたものです。また、KinoDenのコンテンツを購読する専用アプリbReader Cloudをはじめとした、まだまだ知られていない電子ブックの便利な使い方を紹介するため、紀伊國屋書店北海道営業部の協力のもと、KinoDen利用説明会を同時に開催しました。

当日は、札幌市に大雪警報が発令される悪天候の中、125名の利用登録が

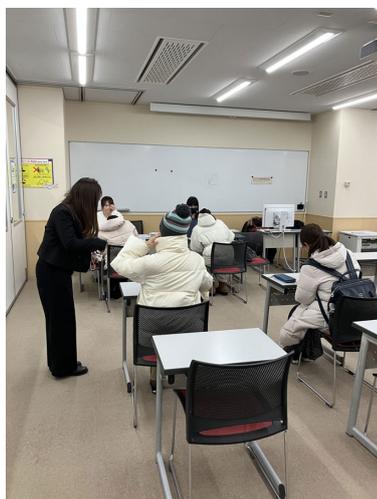
ありました。また、KinoDen説明ブースにも多くの利用者が立ち寄り、担当者に熱心に質問をする様子が見られました。

（附属図書館）

*北大で提供している電子ブックへのアクセス：

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/e-books/>
もしくは北大図書館HP

（<https://www.lib.hokudai.ac.jp/>）>
「電子ブック」のバナーをクリック



道立図書館利用登録会



紀伊國屋書店KinoDen利用説明会



会場入り口

博士学位記授与

3月25日（月）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は329人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は13人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（法学）	小棚木 公貴		性犯罪の横断的研究 - 若年者を被害者とする性犯罪の研究を中心に 主査：教授 城下 裕二
	清水 紀子		再考 医薬品の特許権存続期間延長登録制度 - 2016年以降の運用の検証 - 主査：教授 中山 一郎
	中田 翔太		共同正犯における意思連絡の要否とその内実 主査：教授 城下 裕二
	任 成禎		人保険の被保険者の自殺に関する比較法的研究——保険者免責と有責が如何に決められるかを を中心に日独保険法から中国の得られる示唆について 主査：教授 山本 哲生
	山中 仁吉		女性参政権運動の政治史 - 初期議会から「憲政の常道」まで、1890～1925 - 主査：准教授 前田 亮介
	李 光照		事務管理法の機能・位置付けの研究——日中裁判例の比較類型的考察 主査：特任教授 吉田 邦彦
	梁 小煒		環境刑法における法益保護 - 環境媒体侵害の刑法的規制を中心に - 主査：教授 小名木 明宏
博士（水産科学）	江口 剛		魚類の推進機能性と個体間の流体力学的相互作用に関する研究 主査：教授 安間 洋樹
	永谷 奈央		ウトウ雛における短期・長期飢餓に対する生理的・形態的応答 主査：教授 高津 哲也
	朴 正祐		Long-term changes in small size-class contribution to total phytoplankton biomass in the northern Chukchi to northern Bering Seas (北部チュクチ海から北部ベーリング海における小型植物プランクトンの寄与の長期変化) 主査：教授 向井 徹
	小林 哲也		低温増殖性芽胞形成菌の性状と要冷蔵加工食品の保存性を向上させる加熱殺菌条件に関する研究 主査：教授 栗原 秀幸
	駿河谷 諒平		チョウザメ類卵濾胞における排卵能獲得誘導の分子機構に関する研究 主査：教授 東藤 孝
	山口 耀		Studies on immunochemical and molecular biological characterization of novel urinary proteins of <i>Sebastes</i> rockfish and its application to aquaculture (メバル属魚類における新規雄尿タンパク質の免疫化学的及び分子生物学的性状解析並びにそ の水産増養殖への応用に関する研究) 主査：教授 東藤 孝
	李 汶釗		Study on the enhancement of anti-inflammatory effect using uronic acid-type glycation in fish protein (ウロン酸修飾を活用した魚肉タンパク質の抗炎症機能改変に関する研究) 主査：教授 栗原 秀幸
博士（環境科学）	LI Shixue		Responses of the East Asian summer monsoon to mid-latitude forcings: effects of Indian summer monsoon heating and Tibetan Plateau land surface processes (中緯度の強制に対する東アジア夏季モンスーンの応答：インド夏季モンスーンの対流加熱と チベット高原の陸面過程の効果) 主査：准教授 佐藤 友徳

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（環境科学）	ファイサル ビーエム FAISAL B.M レファト Refat	Geospatial analysis on multiscale geomorphic processes and sediment connectivity in the Brahmaputra River basin (ブラマプトラ川流域における地形プロセスと土砂接続性の地理空間情報解析) 主査：准教授 早川 裕一
	くろきき ゆたか 黒崎 豊	高時間分解能アイスコアに記録された海洋生物活動由来の硫黄化合物に関する研究 主査：教授 西岡 純
	いとう しょうへい 伊藤 陽平	The evolutionary process of masting behavior in a perennial herb, <i>Veratrum album</i> : its ecological significance and the physiological mechanism (多年生植物バイケイソウにおける一斉開花結実現象の進化プロセス：その生態的意義と生理的メカニズム) 主査：准教授 工藤 岳
	しおたに ゆうき 塩谷 悠希	Intraspecific polyploidization and its ecological significance in perennial plants: variations in morphological traits and life-history traits, distribution patterns, and the evolution of vegetative reproduction (多年生植物における種内倍体化とその生態的重要性：形態形質と生活史形質の変異、分布パターン、ならびに無性生殖の進化) 主査：准教授 工藤 岳
	にいだ たくま 丹伊田 拓磨	Degeneration of vision in trechine beetles colonizing subterranean environments (地下環境へ進出したチビゴミムシ類における視覚の退化に関する研究) 主査：教授 越川 滋行
	なかがわ さとし 中川 哲	哺乳類の冬眠に関与する時間計測システムの解析 主査：教授 山口 良文
	はせがわ りょうた 長谷川 稜太	Mechanisms underlying the correlation of parasite infection and host body condition: a case study in parasitic copepods of the genus <i>Salmincola</i> and their host salmonids (寄生虫感染と宿主のボディコンディションの相関に見られるメカニズム：寄生性カイアシ類サルミンコーラ属とその宿主サケ科魚類における実証研究) 主査：准教授 小泉 逸郎
	ふるさわ ちはる 古澤 千春	Sleep ecology of the brown trout: applying behavioral approach to a wild population (ブラウントラウトの睡眠生態学：野外個体群への行動アプローチの適用) 主査：准教授 小泉 逸郎
	あおき ひなこ 青木 日向子	Relationship between actin plate formation and cytokinesis progression in apical cells of the brown alga <i>Sphacelaria rigidula</i> (褐藻ワイジガタクロガシラ頂端細胞におけるアクチンプレート形成と細胞質分裂進行の関係性について) 主査：教授 長里 千香子
	ささき けい 佐々木 系	海洋環境変動下における岩手県サケの資源と生態に関する研究 主査：教授 宮下 和士
	ふたむら りょう 二村 凌	Ecological studies on size-dependent growth tactics before migration in masu salmon (<i>Oncorhynchus masou</i>) (サクラマスにおける回遊前のサイズ依存成長戦略に関する生態学的研究) 主査：准教授 岸田 治
	ふじた りょうへい 藤田 凌平	Changes in carotenoid levels of novel berries produced by interspecific hybridization between <i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i> (miyama-uguisukagura) and <i>Lonicera caerulea</i> ssp. <i>edulis</i> (haskap) (ミヤマウグイスカグラ (<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glandulosa</i>) とハスカップ (<i>Lonicera caerulea</i> ssp. <i>edulis</i>) の種間交雑によって作出された新規果実におけるカロテノイドの成分の変化に関する研究) 主査：教授 星野 洋一郎
	おか さゆき 岡 紗雪	ホモステイン修飾Au(111)単結晶電極におけるキラル分子のエナンチオ選択的吸着と電子移動反応の活性化 主査：教授 八木 一三

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（環境科学）	チョウ カンシユン 趙 韓俊	Development of stable and biocompatible sensitizers and sensors for singlet oxygen generation and detection (一重項酸素の生成および検出のために安定性と生体適合性を付与した増感剤およびセンサーの開発) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai
	チョウ トウ 張 冬	Crystal size, photoluminescence and electroluminescence optimization of MAPbBr ₃ perovskite microcrystals (MAPbBr ₃ ペロブスカイト微結晶の結晶サイズ、フォトルミネッセンスおよびエレクトロルミネッセンスの最適化) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai
博士（理学）	あびこ けいすけ 安孫子 啓介	Various maximum principles for elliptic equations on unbounded domains (非有界領域上の楕円型方程式に対する種々の最大値原理) 主査：准教授 浜向 直
	かわもと のゑ 河本 野恵	Critical points for the spread-out models of self-avoiding walk, lattice trees and lattice animals (有限記憶自己回避歩行、格子木、格子動物の臨界点について) 主査：教授 坂井 哲
	きよはら ひろたか 清原 悠貴	Geometry of timelike minimal surfaces in the three-dimensional Heisenberg group (3次元ハイゼンベルグ群における時間的極小曲面の幾何) 主査：教授 古畑 仁
	たかだ ゆうた 高田 佑太	Characteristic polynomials of isometries of even unimodular lattices and dynamical degrees of automorphisms of K3 surfaces (偶ユニモジュラー格子の等長変換の固有多項式とK3曲面の自己同型の力学的次数) 主査：特任教授 岩崎 克則
	たじま ゆう 田嶋 優	Discrete Morse theory on magnitude homotopy types of finite graphs (有限グラフのマグニチュードホモトピー型上の離散モース理論) 主査：教授 秋田 利之
	はせがわ あおい 長谷川 蒼	Associated groups of involutive quandles and their second quandle homology (対合的カンドルの付随群とその2次カンドルホモロジー) 主査：教授 秋田 利之
	ふじえ かつのり 藤江 克徳	Limit theorems on random matrices and finite free probability (ランダム行列と有限自由確率論に関する極限定理) 主査：准教授 長谷部 高広
	みす くにやす 三栖 邦康	Asymptotic analysis of mean curvature flow equations via games (ゲームを用いた平均曲率流方程式の漸近解析) 主査：准教授 浜向 直
	ワンズーシュエン WANG Zixuan	Free multiarrangements and integral expressions of their derivations (自由多重超平面配置とその導分の積分表示) 主査：教授 齋藤 睦
	かわたに ゆい 川谷 維摩	Dielectric α relaxation of supercooled sugar alcohols (過冷却糖アルコールの誘電 α 緩和) 主査：准教授 三品 具文
	こん ふうこ 今 布咲子	Study of 5f Electronic States in Uranium Systems with CaBe ₂ Ge ₂ -Type Crystal Structure Lacking Local-Inversion Symmetry (局所空間反転対称性の破れたCaBe ₂ Ge ₂ 型構造を有するU化合物における5f電子状態の研究) 主査：教授 網塚 浩
	チャン フォック TRAN PHUOC トョアン TOAN	Study on Uniaxially Oriented Films of Lanthanum Hexaboride, Cerium Hexaboride, and Nickel Aluminum Superalloy for Thermophotonics Applications (光熱変換素子応用のための六ホウ化ランタン、六ホウ化セリウムおよびニッケルアルミニウム超合金による一軸配向膜の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（理学）	きくち しょうた 菊地 渉太	The flavor structures on magnetized orbifold models and 4D modular symmetric models (磁化オービフォルドモデルと4次元モジュラー対称モデルにおけるフレーバー構造) 主査：教授 小林 達夫	
	とまる たくと 都丸 琢斗	超高真空低温原子間力顕微鏡によるアモルファス氷の表面形状と表面電位分布に関する研究 主査：教授 渡部 直樹	
	ほりえ しゅう 堀江 秀	Galactic Star Formation Triggered by Cloud-Cloud Collisions: A Numerical Study (分子雲衝突と銀河の星形成に関する数値的研究) 主査：教授 岡本 崇	
	えんどう ゆう 遠藤 優	The long-term effect of sex-biased dispersal on the population demographic history of the brown bear <i>Ursus arctos</i> in Hokkaido, Japan, and around areas based on genome sequencing analysis (ゲノム解析に基づく北海道を中心としたヒグマ個体群における雌雄の分散様式の違いが長期にわたって集団史に与えた影響) 主査：准教授 加藤 徹	
	おおにし けい 大西 慶	小規模博物館で活用可能な来館者基礎情報調査ツールの開発に関する実証的な研究～文学館を事例として～ 主査：教授 湯浅 万紀子	
	くぼ こうた 久保 孝太	FUNCTIONAL MORPHOLOGY, DEVELOPMENTAL BIOLOGY, AND EVOLUTION OF FOOT MUSCULOSKELETAL SYSTEM IN THE THEROPOD DINOSAUR-BIRD TRANSITION (機能形態と進化発生学から探る獣脚類から鳥類への進化的移行における足部筋骨格系の進化) 主査：教授 小林 快次	
	つげ あゆた 柘植 鮎太	しかべ間歇泉の観測と数値実験から示唆される間歇泉の噴出と周期性のダイナミクス 主査：教授 青山 裕	
	ディ マイケル DY Michael ジェイコブ クレト Jacob Cleto	Taxonomic and molecular phylogenetic studies of the genus <i>Colpomenia</i> (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) (褐藻フクロノリ属 (カヤモノリ科) の分類学および分子系統学的研究) 主査：教授 小亀 一弘	
	はせがわ なおひろ 長谷川 尚弘	Systematic and Evolutionary Studies of Ascidians (Chordata: Tunicata) (海鞘類 (脊索動物門・被囊動物亜門) の体系学・進化的研究) 主査：教授 柘原 宏	
	リンダ ニタ Rinda Nita ラトナサリ Ratnasari	Development of Early Warning System for Volcanic Sector Collapse Tsunamis (火山性山体崩壊による津波に対する即時警報システムの開発) 主査：特任教授 谷岡 勇市郎	
博士（農学）	おかわ りえ 小川 理恵	J A 女性組織における公益的活動の展開プロセスとその意義 主査：教授 板橋 衛	
	のぐち ひろき 野口 洋樹	トウモロコシタンパク質由来 GLP-1 分泌誘導成分の同定および有効性に関する研究 主査：准教授 比良 徹	
	ツァオ ティエンジ 曹 天智	Estimation of root crop yield: Integration of computer vision for quantity counting, quality assessment, and geospatial data mapping in Chinese Yam harvesting (根菜類の収量推定：長芋の収穫における数量カウント、品質評価、および地理空間データマッピングのためのコンピュータビジョンの統合) 主査：准教授 岡本 博史	
	いまい りょうたろう 今井 遼太郎	農産物および農業労働市場におけるオンラインプラットフォームの機能と限界に関する研究 主査：教授 坂爪 浩史	
	かわくぼ しゅうすけ 川久保 修佑	系統樹駆動型研究アプローチの確立による植物ウイルス進化機構の解明 主査：教授 増田 税	
	シム ジュチヨル 沈 載哲	Modification of soybean yield components using genome editing technology (ダイズのゲノム編集技術を活用した収量構成要素の改変) 主査：教授 金澤 章	
チェン シジン 陳 思汎	Development of a Remote Safety System for Agricultural Robot (ロボット農機遠隔安全システムの開発) 主査：教授 野口 伸		

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（農学）	ナリス 那日蘇	Studies on pretreatment and process stabilization in anaerobic digestion (メタン発酵における前処理とプロセス安定化に関する研究) 主査：教授 岩淵 和則
	まつおか 松岡 かずき 和輝	ブルーベリー栽培高度化のためのマシンビジョンによるモニタリング自動化に関する研究 主査：准教授 岡本 博史
	ムハマド MUHAMAD シヤイフディン SYAIFUDIN	Strontium behavior from soil to plants (土壌から植物へのストロンチウムの動態) 主査：教授 信濃 卓郎
	もりた 森田 つよし 豪	高速移動通信技術を活用したロボット農機の遠隔監視・遠隔操作に関する研究 主査：教授 野口 伸
	やまき 山崎 よしとも 歆友	Research on Autonomous Driving Control of Electric Vehicle for Orchard Application (果樹園用ロボット車両の自律走行制御に関する研究) 主査：教授 野口 伸
	いまみち 今道 ともや 朋哉	真核生物における翻訳アレストに関する研究－植物の小胞体ストレス応答に関与する翻訳アレストの解析および翻訳アレストの定量的解析－ 主査：教授 尾之内 均
	いわさき 岩崎 わかな 若菜	マウスにおける肝脂質蓄積とステロール代謝変動に及ぼす12水酸化胆汁酸の役割 主査：教授 石塚 敏
	おおた 太田 ともや 智也	Function and structure of β 1-3-glucan-degrading enzymes from the pink snow mold fungus, <i>Microdochium nivale</i> (紅色雪腐病菌 <i>Microdochium nivale</i> 由来 β 1-3-グルカン分解酵素の機能と構造に関する研究) 主査：教授 森 春英
	きど 城戸 ゆうすけ 悠輔	Functions of inulosucrase and novel fructosyltransferase from the inulin-producing bacterium <i>Neobacillus drentensis</i> 57N (イヌリン合成細菌 <i>Neobacillus drentensis</i> 57N 由来イヌロスクラーゼおよび新規フルクトシル転移酵素の機能に関する研究) 主査：教授 森 春英
	なかにし 中西 としき 登志紀	Elucidation of the upstream gene regulatory network to activate the Polyhedrin promoter in <i>Bombyx mori</i> nucleopolyhedrovirus (カイコ核多角体ウイルスのポリヘドリンプロモーター活性化上流遺伝子の制御ネットワークの解明) 主査：准教授 佐藤 昌直
	はやし 林 よしひろ 芳弘	マウス初期胚発生においてミトコンドリアの形態的リモデリングが果たす意義 主査：准教授 川原 学
	バンコ ペトラ BANKO Petra スザンナ Zsuzsanna	<i>In vitro</i> co-expression chromatin assembly and remodeling platform for plant histone variants (植物変種ヒストンを用いた <i>in vitro</i> 共発現系によるクロマチン構造およびリモデリング機能再構築法の確立) 主査：教授 尾之内 均
	ひらこおり 平郡 ゆうた 雄太	シロイヌナズナの非AUG開始型uORFを介した翻訳制御の機構および生理学的役割に関する研究 主査：教授 尾之内 均
	イアン ニエール ブロール Ian Niel Bulor デラ クルツ dela Cruz	Taxonomic revision of the subfamily Histerinae in the Philippine Archipelago and the genus <i>Atholus</i> in Far Eastern Asia and Oriental region(Coleoptera, Histeridae) (フィリピン産エンマムシ亜科および極東・東洋区産ムナクボエンマムシ属の分類学的再検討) 主査：教授 大原 昌宏
きくち 菊地 ともき 那樹	Taxonomic reassessment of the Japanese Histeroidea (Coleoptera) and phylogenetic reconstruction based on female genitalia characters (日本産エンマムシ上科(昆虫綱鞘翅目)の分類学的再検討と雌生殖器形質に基づく系統構築) 主査：教授 大原 昌宏	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	まつなが たかまさ 松永 隆正	Development of Early Warning Method for Snowmelt-Induced Landslides Based on Mesoscale Meteorological Data (メソスケール気象データに基づく融雪地すべり早期警戒手法の提案) 主査：教授 山田 孝	
	やつやなぎ てつ 八柳 哲	Understanding mechanisms of formation and maintenance of fish biodiversity using environmental DNA (環境DNAに基づく魚類の生物多様性形成・維持機構に関する研究) 主査：教授 荒木 仁志	
博士（生命科学）	やまもと たかひろ 山本 隆博	Characterizing the cell division machinery in human somatic tetraploid cells (四倍体ヒト体細胞における細胞分裂装置の性質) 主査：准教授 上原 亮太	
	リン ルンゴ 林 潤澤	Study of Phenylazothiazoles as Visible-Light Photoswitches (可視光分子スイッチとしてのフェニルアゾチアゾール類の研究) 主査：教授 玉置 信之	
	レ ボイ タオ LE Bui Thao グエン Nguyen	The impact of complex formation and size of guanine quadruplex structure-based CpG oligodeoxynucleotides on immunomodulatory responses (グアニン四重鎖構造形成CpGオリゴデオキシヌクレオチドの免疫活性化機能に対する複合体の構成とサイズの影響に関する研究) 主査：客員准教授 山崎 智彦	
	じんの ちよ 神野 智世	Investigation of Novel Factors of Plasmodesmata Formation That Is Crucial for Multicellularity in Land Plants (陸上植物の多細胞化の鍵を握る原形質連絡を作り出す新奇因子の発見とその分子機構の解明) 主査：教授 藤田 知道	
博士（薬科学）	アティナ リスキヤ Atina Rizkiya ホイルニサ Choirunnisa	Studies on natural products containing nitrogen-nitrogen bond (窒素-窒素結合を含む天然物に関する研究) 主査：教授 脇本 敏幸	
	あんらく ゆうき 安楽 佑樹	HIV-2およびSARS-CoV-2表面糖蛋白質の立体構造解析 主査：教授 前仲 勝実	
	おおはざま さき 大峽 咲希	低分子化合物を用いた核内構造体の形成メカニズムに関する研究 主査：教授 中川 真一	
	きのした しょういち 木下 祥一	p3-A1c β の神経炎症に対する治療効果及び作用機構の解明 主査：特任教授 鈴木 利治	
	こばやし まさかず 小林 雅和	非リボソームペプチド環化酵素を利用した環状ペプチドの効率的な化学-酵素合成法の開発 主査：教授 脇本 敏幸	
	じょうじま けいすけ 城島 啓佑	スフィンガジエンの代謝およびスフィンガジエン産生酵素FADS3の同定と酵素的解析 主査：教授 木原 章雄	
	つちや こうき 土屋 光輝	光音響イメージング剤としてのシアニン色素の構造活性相関とがん細胞イメージングへの応用 主査：教授 小川 美香子	
	とみた えいき 富田 永希	新規高原子価Cp金属錯体の創生とC-H官能基化反応への応用 主査：准教授 吉野 達彦	
博士（生命科学）	もうり けいすけ 毛利 圭佑	脂肪酸 α 酸化と奇数鎖脂肪酸産生の分子機構の解明 主査：教授 木原 章雄	
博士（薬科学）	わたなべ ひろし 渡邊 紘士	HLA-G2によるLILR受容体群を介した免疫調節の分子基盤解明 主査：教授 前仲 勝実	
博士（ソフトマター科学）	えちご や しゅん 越後谷 駿	Transition and selection of behaviours influenced by extracellular geometrical cues in the ciliate, <i>Stentor coeruleus</i> (繊毛虫ソライロラップムシの行動遷移と細胞外幾何形状に応じた固着場所の選択) 主査：教授 中垣 俊之	
	おおにし かつや 大西 克弥	Study on nuclear localization of myosin regulatory light chain in response to substrate stiffness (基質の硬さに依存したミオシン調節軽鎖の核局在についての研究) 主査：教授 芳賀 永	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（ソフトマター科学）	かみやま ゆうじ 上山 祐史	Study on functional soft materials based on ultra-high molecular weight polymers (超高分子量ポリマーからなる機能性ソフトマテリアルに関する研究) 主査：客員准教授 上木 岳士
	せきざわ ゆう 関澤 祐佑	Dynamic Orientation Control of Gold Nanorods on Polymer Brush Substrates (ポリマーブラシ基板における金ナノロッドの動的配向制御) 主査：教授 居城 邦治
	ちば たくや 千葉 拓也	<i>Caenorhabditis elegans</i> transfers across a gap under an electric field as dispersal behavior (線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> の電場を利用した分散行動に関する研究) 主査：教授 中垣 俊之
	にしむら たくや 西村 拓哉	Establishment of a Method for Measuring the Heterogeneous Internal Structure of Polyelectrolyte Hydrogels Using Microelectrode Technique (微小電極法を用いた電解質ハイドロゲルの不均質内部構造測定法の構築) 主査：教授 黒川 孝幸
	ハン ヤン 韓 陽	Study on Synthesis and Properties of Thermo-Responsive Lamellar Hydrogels (熱応答性層状ハイドロゲルの合成と特性に関する研究) 主査：教授 グン チェンビン
	リン ハン 林 皓	Control of Plasmonic Chiroptical Properties by the Design of Gold Nanostructures (金ナノ粒子の構造設計によるプラズモンキラリティの制御) 主査：教授 居城 邦治
博士（臨床薬学）	とよや ひかる 戸谷 ひかる	The long noncoding RNA Neat1 regulates beige cell differentiation upon cold stimulation (長鎖ノンコーディングRNA Neat1によるベージュ細胞分化制御機構に関する研究) 主査：教授 中川 真一
	ひらの きょうすけ 平野 匡佑	記憶に関連する神経集団活動の動態 主査：教授 南 雅文
博士（教育学）	オウ テイ 王 婷	公立小中学校の非正規教員の量的推移と助教諭増加の要因に関する実証的研究—2000年代以降の複数の県の事例分析を通して— 主査：教授 横井 敏郎
	くまがい りょうすけ 熊谷 良介	母子家庭における就労とケアの捉えなおし—母親と子ども双方の視点から理解する 主査：特任教授 松本 伊智朗
	はたの けい 波多野 慶	呼吸制御と運動制御の連関に関する研究—呼吸介入が下腿三頭筋収縮に及ぼす影響— 主査：教授 柚木 孝敬
	リ 李 李 晋寧	中国における文化大革命期の体育思想とサッカー—持続と変容をめぐって— 主査：教授 池田 恵子
博士（国際広報メディア）	リュウ ミンス 柳 民秀	自閉スペクトラム症の感覚処理傾向と発話聴き取りの特徴について 主査：教授 安達 潤
	かみや かずひろ 神谷 和宏	テレビ特撮史における『ウルトラマン』シリーズの研究—文化的位相と表象性を中心に— 主査：教授 西村 龍一
博士（学術）	PELLICANO' ELIERE SAIVAFERNA Elisa Ivana	Representing Race: The Body and Racialization in Japanese Women's Media, 1960s-1980s (戦後日本の女性メディアにおける「身体」の表象—「人種」を中心に—) 主査：教授 浜井 祐三子
博士（観光学）	かんだ たつや 神田 達哉	リアル店舗での旅行相談サービスに関するマーケティング戦略の最適化—価値共創に至る顧客関与に着目して— 主査：特任教授 伊藤 直哉
博士（学術）	さとう じゅんこ 佐藤 淳子	発話時の「気づき明確化支援」が発話に与える影響—中級日本語学習者での実践を例に— 主査：准教授 平田 未季
	シユウ カン 周 涵	The Influence of Cognitive Absorption During the Interaction with Short-Form Travel Video on Tourists' Subsequent Behavioral Intentions (短編観光動画の認知的没入体験が観光客のその後の行動意図に及ぼす影響) 主査：特任教授 伊藤 直哉
博士（観光学）	シユウ ケンコウ 周 建紅	Representations from Miao people in ethnic tourism (民族観光におけるミャオ族の自己表象) 主査：准教授 岡田 真弓

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士 (国際広報メディア)	タン スイレイ 譚 翠玲		Group-Level Self-Regulation in Self-Directed Learning (自己主導型学習におけるグループ・レベル自己調整) 主査：准教授 山田 悦子
博士 (学術)	チョウ フントウ 趙 文騰		相互行為としてのほめ行動の様相と収束の構造－会話分析の手法とフェイスの概念を用いて－ 主査：准教授 阿部 真
博士 (国際広報メディア)	ひろせ やすひこ 廣瀬 安彦		信頼性訴求型コンテンツによるレピュテーション醸成プロセスのアクションリサーチ－大手ITサービス企業の事例より－ 主査：准教授 張 ジュヒョク
博士 (保健科学)	いの たくみ 井野 拓実		姿勢推定人工知能の応用による動作解析の妥当性検証と臨床応用 主査：准教授 杉森 博行
	チョウ コウケン 張 洪健		Study of Transfer Learning on medical information processing by explainable artificial intelligence (説明可能な人工知能による医療情報の転移学習に関する研究) 主査：准教授 高島 弘幸
	すずき まこと 鈴木 信		膝前十字靭帯再建術後のスポーツ復帰に向けた心理的準備に関する研究 主査：教授 遠山 晴一
	わたなべ けんたろう 渡邊 謙太郎		慢性足関節不安定症におけるkinesiophobiaの役割 主査：准教授 寒川 美奈
	いちかわ しょうた 市川 翔太		深層学習を用いた医用画像データからの患者体重推定に関する研究 主査：教授 神島 保
	おいかわ じょうま 及川 青亮		CdTe半導体検出器を用いた散乱線エネルギースペクトルの測定および深層学習を用いた脳血流SPECT画像の予測に関する研究 主査：教授 澤村 大輔
	おおうら だいすけ 大浦 大輔		The Research on MRI Sequence Development and AI Assisted Diagnosis for Acute Ischemic Stroke (急性虚血性脳卒中に対するMRIシーケンスの開発とAIによる診断支援に関する研究) 主査：教授 小笠原 克彦
	おの ようへい 小野 陽平		Deep Learning Classification and Grad-CAM-based Visualization for Osteoporotic Lumbar Vertebral Fractures on Radiographs (単純X線写真における骨粗鬆性腰椎椎体骨折の深層学習分類とGrad-CAMに基づく分類根拠に関する検討) 主査：教授 石津 明洋
	ゴ くんち 呉 訓智		Novel functions of flazin against lipid metabolic disorder and mitochondrial dysfunction (脂質代謝異常およびミトコンドリア機能不全に対するフラジンの新たな機能に関する研究) 主査：教授 池田 敦子
	コウ リンキョウ 江 林京		Research on knee joint function in standing posture control and its application in rehabilitation exercise therapy (立位姿勢制御の膝関節機能と運動療法への応用についての研究) 主査：准教授 寒川 美奈
	ジャオ ジェユイ 趙 捷宇		Analysis of Chinese Healthcare Resources Allocation's Equality (中国の医療資源配分の平等性に関する研究) 主査：教授 池田 敦子
	しらいし ゆうた 白石 祐太		超高線量率放射線照射後の細胞生存率予測モデル 主査：教授 神島 保
せい りょうすけ 清野 良輔		X線照射後の細胞遊走と細胞周期依存性 主査：教授 神島 保	
ソウ イ 曾 怡		Exposure to Organophosphate Flame Retardants and its Associations with Allergies among School-aged Children (学童期におけるリン系難燃剤曝露とアレルギーとの関連) 主査：教授 惠 淑萍	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（保健科学）	マハムド MAHMUD アディティヤ ADITYA リフキ RIFI	The Impact of Water, Sanitation, Hygiene and Nutrition on Children's Health Outcomes in an Urban Slum in Bandung, Indonesia (インドネシア・バンドンの都市スラムにおける水、衛生、栄養が子どもの健康に及ぼす影響) 主査：教授 小笠原 克彦
	三木 貴弘 みき たかひろ	Factors associated with disability for low back pain based on the biopsychosocial model. (生物心理社会モデルに基づく腰痛の障害に関連する因子の検討) 主査：教授 遠山 晴一
博士（看護学）	やまぐち しんや 山口 真弥	看護師の離職リスクの予測における職業性疲労・回復尺度と唾液cortisolの有用性 主査：教授 石津 明洋
	やすだ かえ 安田 佳永	高齢患者の末梢静脈留置針挿入部位における温罨法の安全性と静脈拡張効果 主査：教授 鷺見 尚己
	こんや いっせい 紺谷 一生	Effectiveness of weak wiping pressure during bed baths and prediction model for skin barrier dysfunction in hospitalized older adults (高齢患者における弱圧清拭の有効性と皮膚バリア機能障害予測モデルの開発) 主査：教授 結城 美智子
博士（工学）	きたがわ ゆうま 北川 雄真	単原子層間スピン流の対称性操作による制御の理論的研究 主査：教授 明楽 浩史
	ささき あきひろ 佐々木 章宏	2バンド超伝導体における奇周波数Cooper対の物理 主査：准教授 浅野 泰寛
	さとう たくみ 佐藤 匠	Discontinuous Transition to Superconducting Phase (超伝導相への不連続転移) 主査：准教授 浅野 泰寛
	すずき ゆうた 鈴木 雄太	局所的に空間反転対称性が破れた系において電流および熱流が誘起する反平行スピン偏極とスピン流の理論的研究 主査：教授 明楽 浩史
	たかはし これきよ 高橋 是清	Bose Glass and Fermi Glass (ボーズグラスとフェルミグラス) 主査：特任教授 丹田 聡
	たけだ はやと 武田 颯	媒質境界および共振構造における局在現象による固体音響波の制御 主査：教授 松田 理
	かわぐち たかひろ 川口 貴大	Study on Zn-Al Alloy as Phase Change Material (相変化物質としてのZn-Al合金に関する研究) 主査：准教授 能村 貴宏
	きぬがさ じゅんいちろう 衣笠 潤一郎	自動車での実使用を考慮した高強度鋼板の水素脆化評価に関する研究 主査：准教授 坂入 正敏
	たなはし けいた 棚橋 慧太	Study on Ca ₂ AlMnO _{5+δ} as an oxygen storage material for oxygen separation process (酸素分離プロセス用酸素貯蔵材料としてのCa ₂ AlMnO _{5+δ} の研究) 主査：准教授 能村 貴宏
	ぬのむら じゅんじ 布村 順司	塩化アルミニウム系イオン液体を用いたアルミニウムスクラップの電解精製 主査：教授 上田 幹人
	ふるがき たかし 古垣 孝志	廃棄物発電ボイラ過熱管耐熱鋼の高温腐食に関する研究 主査：教授 林 重成
	ふるさわ こういちろう 古澤 宏一朗	Study on Hydrogen Isotope Separation using Fuel Cell and Electrolysis with Polymer Electrolyte Membrane (固体高分子膜を用いた燃料電池と水電解による水素同位体分離の研究) 主査：准教授 松島 永佳
	かなはま とうや 金浜 瞳也	植物形態に潜む構造力学的学理の学際的探究 主査：教授 佐藤 太裕
おおいえ こうへい 大家 広平	Study on multi-timescale rheology of heterogeneous fluids by advancement of velocity-profiling-based rheometry (流動計測型レオメトリによる不均質流体のマルチタイムスケールレオロジーに関する研究) 主査：准教授 田坂 裕司	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	キム チョロン KIM Chorong	Experimental and theoretical studies for the structure of copper single-atom catalyst (銅単原子触媒の構造に関する実験的および理論的研究) 主査：教授 朝倉 清高	
	はまな ゆうき 濱名 優輝	プラズマと相互作用する液体金属からの液滴放出メカニズムに関する研究 主査：教授 佐々木 浩一	
	ルバリイ サルマ Rupali Sarmah	Experimental study on the effect of suffusion on mechanical properties of densely compacted pumice sand in Satozuka District, Sapporo, Japan (札幌市里塚地区火山灰質砂の密な締固め状態における内部侵食が力学特性に及ぼす影響に関する実験的研究) 主査：教授 渡部 要一	
	タン エイギョウ TAN Yingyao	Evaluation of transport properties of cement-based materials subjected to water attack using non-destructive integrated CT-XRD method (非破壊CT-XRD連成法を用いた水の作用を受けたセメント系材料の輸送特性の評価) 主査：教授 杉山 隆文	
	みやもと まき 宮本 真希	日本周辺域における前線の出現特性及び降雨の地域特性に関する研究 主査：教授 山田 朋人	
	チェア ブンヤ CHEA Bunya	Study on Corrosive Resistance of Bare, Painted, and Hot-Dip Galvanized Structural Steel in Thailand (タイにおける塗装および溶融亜鉛めっき構造用鋼材の腐食抵抗性に関する研究) 主査：教授 松本 高志	
	やぎ まさひろ 八木 雅大	道路空間モニタリングのための骨格動作分析に基づくエッジコンピューティングに関する研究 主査：准教授 高橋 翔	
	ヨウ コンネイ YANG Kunning	Design and performance evaluation methodology of thermal piles with large diameter and heat capacity (熱容量を持つ大口径基礎杭利用地中熱交換器の設計・性能評価手法に関する研究) 主査：准教授 葛 隆生	
	ヨウ ミンシ YE Minzhi	Design and control optimization of an open-type radiant ceiling panel system for thermal comfort and energy saving (オープンタイプ凹型天井放射パネルシステムの設計と制御の最適化に関する研究) 主査：教授 長野 克則	
	ゾレッタ ZOLETA ジョシュア ブラボ Joshua Bravo	Selective Cementaion of Gold Uisng an Iron Oxide and Zero-Valent Aluminum Galvanic System from Gold-Copper Ammoniacal Thiosulfate Solutions (酸化鉄と0価アルミニウムを用いた金-銅含有アンモニウムチオ硫酸溶液からの金の選択還元析出) 主査：教授 廣吉 直樹	
	ハイロン Chaerun ラウダトゥル イスラム Raudhatul Islam	Application of Alkali-Activated Materials to Solidification of the Wastes Generated from On-site and Off-site of Fukushima Dai-Ichi Nuclear Power Station (福島第一原子力発電所のオンサイトとオフサイトで発生している廃棄物固化へのアルカリ刺激材の応用) 主査：教授 佐藤 努	
	はしもと あやか 橋本 綾佳	建設発生土から溶出する砒素の不溶化対策に利用される人工資材の寿命予測 主査：准教授 原田 周作	
	ムハンドゥ Mhandu タクンダ ジョセフ Takunda Joseph	Ammonium thiosulfate leaching of arsenic-bearing refractory gold ores (ヒ素含有難処理金鉱石のチオ硫酸アンモニウム浸出) 主査：教授 廣吉 直樹	
博士（理学）	イトウ たくま 伊藤 琢磨	Reaction Path Search and Kinetic Analysis for Chemical Reactions Including Dynamical Bifurcations (動的経路分岐を含む化学反応に対する反応経路探索と速度論解析) 主査：教授 小松崎 民樹	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士 (理学)	おかだ ひろあき 岡田 拓明	Development of a Method to Reduce the Number of Synthetic Experiments by Combining Bayesian Optimization and Reaction Barrier Calculations (ベイズ最適化と反応障壁計算を組み合わせた合成実験数削減法の開発) 主査：教授 武次 徹也
	かわむかい ほのか 川向 ほの香	Regulation and Disruption of Molecular Assembly in Intrinsically Disordered Protein by Molecular Chaperon (分子シャペロンによる天然変性タンパク質の分子集合制御メカニズムとその破綻) 主査：教授 坂口 和靖
	さかくち しゅうや 坂口 周弥	Effects of Evolutionary Changes and Mutations on Tetramer Formation and Function in Tumor Suppressor Protein p53 (癌抑制タンパク質p53における四量体化ドメインの進化による変化および変異が四量体形成と機能に及ぼす影響) 主査：教授 村上 洋太
	ニルバマシート Nirupama Sheet	Studies on Catalytic Conversion of Biomass-derived C6-Furanics for Polymer Applications (高分子材料への応用を志向したバイオマス由来C6 フラン化合物の触媒変換に関する研究) 主査：教授 長谷川 淳也
	たしろ けいすけ 田代 啓介	Theoretical Study on Amorphous Oligomerization of Organic Molecules and Conformation Determination of Length-controlled Organic Oligomers (有機分子の不定形多量化反応と長さが制御された有機多量体のコンフォメーション決定に関する理論的研究) 主査：教授 前田 理
	スバスリ SUBHASHRI チャッタージー CHATTERJEE	Synthesis and Surface Engineering of InSb Colloidal Quantum Dot for Short Wave Infrared Photodiodes (アンチモン化インジウムコロイダル量子ドットの合成と表面工学及び短波赤外光フォトダイオードへの応用) 主査：教授 松井 雅樹
	てい すぎ 鄭 樹基	Studies on Synthesis of Novel Organic Cations and Exploration of Their Functions by an Effective Incorporation of Main-Group Elements (効果的な典型元素導入による新規有機カチオン種の合成および機能開拓に関する研究) 主査：教授 谷野 圭持
	なばた ひとし 名畑 竜志	Establishment and Application of an Automated Reaction Path Search Method on Oxide Surfaces Using the Artificial Force (人工力を用いた酸化物表面上における反応経路自動探索法の確立と応用) 主査：教授 長谷川 淳也
	にしだ あきひろ 西田 章浩	Study on Atomic Layer Deposition (ALD) of Dielectric Films Using Novel Liquid Homoleptic Precursors for Advanced CMOS Devices (次世代のCMOSデバイス向けの新規な液体ホモレプティック前駆体を用いた原子層堆積法による高誘電膜に関する研究) 主査：教授 上野 貢生
	はやし ひろあき 林 浩章	Magnetism and Hall Effect in Intermetallic Compounds with Noncollinear Spin Textures (非共線磁気構造を持つ金属間化合物の磁性とホール効果) 主査：教授 上野 貢生
	はりもと たかし 張本 尚	Studies on Unique Redox Systems Based on Multiply Aligned <i>Para</i> -Quinodimethane Units (<i>p</i> -キノジメタンの集積化を基軸とした特異なレドックス応答系に関する研究) 主査：教授 永木 愛一郎
	わだ さとしい 和田 諒	Exploring Non-adiabatic Molecular Dynamics: Insights into the Dependence on Diabatic and Adiabatic Potential Energy Surfaces and Applications to Excited-State Reaction Dynamics (非断熱分子動力学研究：透熱および断熱ポテンシャルエネルギー曲面への依存性への洞察と励起状態反応動力学への応用) 主査：教授 長谷川 淳也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（工学）	稲葉 佑哉 <small>いなば ゆうや</small>	Synthesis and Properties of Calix[3]pyrrole and Its Derivatives (Calix[3]pyrroleとその類縁体の合成および物性) 主査：教授 伊藤 肇	
	久語 佑希 <small>くご ゆうき</small>	Study on the Changes in Cellulose Crystal Structures Through Low-Concentration Alkali Treatments and Its Application for Controlling Mechanical Properties (希アルカリ処理におけるセルロースの結晶構造変化と物性制御への応用に関する研究) 主査：教授 佐藤 敏文	
	黄 夢雯 <small>ワウ ムベン</small>	Gallium-hydrides in Zeolites for Catalytic Dehydrogenative Transformation of Alkanes (ゼオライト中のガリウム水素化物を用いたアルカン脱水素反応) 主査：教授 福岡 淳	
	白鳥 友方 <small>しらとり ゆうま</small>	Development of Borylation Methods for Allenes and Arynes (アレン及びアラインの新規ホウ素化反応の開発) 主査：教授 大熊 毅	
	申 宁 <small>シン ネイ</small>	Development of <i>Escherichia coli</i> Platform for Tyrosine-derivative Production Using Aromatic Amino Acid Hydroxylases (芳香族アミノ酸水酸化酵素を用いたチロシン関連化合物生産のための大腸菌の構築) 主査：教授 松本 謙一郎	
	鶴井 真 <small>つるい まこと</small>	Study on Circularly Polarized Luminescence and Electronic Structure of Chiral Lanthanide Complexes (キラル希土類錯体の円偏光発光と電子構造に関する研究) 主査：教授 島田 敏宏	
	藤村 諒大 <small>ふじむら あきひろ</small>	Study on Function of Alloying Elements for Passivity and Corrosion of Steel by In-situ Electrode Analysis (その場電極解析による鉄鋼材料の不働態および腐食反応に及ぼす合金元素の機能に関する研究) 主査：教授 忠永 清治	
博士（経済学）	奥 科 湊 <small>オウ カソン</small>	The Reality of Money, Banking, and Societal Production: Lessons from Ludwig von Mises and Frank William Taussig (貨幣、銀行、社会的生産の現実：ルートヴィヒ・フォン・ミーゼスとフランク・ウィリアム・タウシグの教訓) 主査：准教授 斉藤 尚	
	奥 思 琦 <small>オウ シキ</small>	Essays on Optimal Income Taxation and Tax Compliance (最適所得課税論と税務コンプライアンスに関する研究) 主査：教授 須賀 宣仁	
博士（経営学）	沈 立 <small>シン リツ</small>	Research on the Antecedents and Outcomes of Followership: Focusing on Enterprise Social Media and Job Performance from a Social Exchange Perspective (フォロワーシップの先行要因と結果要因に関する研究：社会交換的視点から企業ソーシャル・メディアとジョブ・パフォーマンスに焦点を当てて) 主査：教授 坂川 裕司	
博士（経済学）	曾 小 強 <small>ソ ショウキョウ</small>	Asymptotic Properties of Estimators in Some Nonnegative Integer-Valued Time Series Models (非負整数値時系列モデルにおける推定量の漸近的性質) 主査：教授 高木 真吾	
博士（経営学）	山口 久 瑠 実 <small>やまぐち くるとみ</small>	組織不祥事の発生プロセスの探求－従業員の非倫理的行動に関する定量的研究－ 主査：教授 平本 健太	
	横井 康 博 <small>よこい やすひろ</small>	スポーツ庁設置の政策形成－新・政策の窓モデルによる実証分析－ 主査：教授 岩田 智	
博士（医学）	石川 蓉 子 <small>いしかわ ようこ</small>	脊柱側弯症に対する非侵襲診断支援機器と低侵襲治療機器の開発 主査：教授 矢部 一郎	
	大場 光 信 <small>おおば みつのぶ</small>	肝外胆管癌におけるケモカインレセプター（CCR7）の悪性度への関与と治療応用に関する検討 主査：教授 園下 将大	
	岡田 和 史 <small>おかだ かずふみ</small>	臨床試験において既存対照データを利用するための検定併合法の研究 主査：教授 玉腰 暁子	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士 (医学)	かが 春日 ゆうすけ 優介	MHC class IIの発現制御機構に関する研究 主査：教授 村上 正晃
	かなざわ 亮 りょう 亮	マウス皮膚移植モデルを用いた移植後早期に流入するグラフト浸潤細胞の免疫学的挙動に関する研究 主査：教授 清野 研一郎
	きし 法磨 かず ま 磨	十二指腸液中のメタボローム解析に基づいた膵胆道疾患の診断に関する研究 主査：教授 久住 一郎
	きりやま 琴衣 こと え 衣	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術に対する遠隔シミュレーショントレーニングの有用性に関する検討 主査：教授 的場 光太郎
	くさか 直久 な お ひ さ 直久	Lipopolysaccharide誘発間質性膀胱炎モデルラットに対する低出力体外衝撃波治療の有効性 主査：教授 神谷 温之
	さいいん 康平 こう へ い 康平	COVID-19流行下における札幌市ACSネットワークの診療実態調査 主査：教授 藤村 幹
	さかもと 聡大 そう だ い 聡大	Expanded Criteria Donor 肝グラフトに対する機械灌流法の至適条件の検討 主査：教授 坂本 直哉
	さとう 逸美 いつ み 美	デュシェンヌ型筋ジストロフィー骨格筋・心筋細胞に対するミトコンドリア標的とした進行遅延療法についての研究 主査：教授 大場 雄介
	しのはら 尚子 な お こ 子	The epidemiological studies of the association between life satisfaction and health among older adults (地域在住高齢者における生活満足度と健康に関する疫学研究) 主査：准教授 倉島 庸
	しらishi 真大 ま さ ひ ろ 真大	ミトコンドリア活性化ヒト心筋前駆細胞を用いた細胞移植療法の確立 主査：教授 安斉 俊久
	スン シン SUN Xin	Studies of roles of <i>NLR5</i> expression in cancers on antigen presentation and host anti-cancer immunity (癌の抗原提示とホストの抗癌免疫における <i>NLR5</i> 発現の役割の研究) 主査：教授 園下 将大
	せきや 翔 しょう 翔	膵がん遺伝子型モデルショウジョウバエを用いたスクリーニングによるMEKとAURKBを標的とする膵がんの新規組み合わせ療法の同定 主査：教授 谷口 浩二
	たかほし 勇樹 ゆう き 樹	経カテーテル的大動脈弁置換術におけるバルーン拡張型弁および自己拡張型弁の血流動態の相違に関する検討 主査：教授 森本 裕二
	たかほし 由華 ゆ か 華	2型糖尿病患者におけるリラグルチドまたはデュラグルチドからセマグルチド皮下投与への切り替えによる血糖コントロールと治療満足度の改善：多施設共同前向き無作為化非盲検並行群間比較試験 主査：教授 伊藤 陽一
	たけなか 淳規 じゅん き 規	褐色細胞腫および傍神経節腫に対する ¹³¹ I metaiodobenzylguanidineを用いた核医学治療におけるFDG-PETの有用性に関する研究 主査：教授 久住 一郎
	たち 弘之 ひろ 之 之	高生体適合性インプラントを用いた脊柱側弯症手術の有限要素解析を用いた矯正予測に関する研究 主査：教授 向野 雅彦
	たてざわ 諒大 りょう だ 大	新規人工酸素運搬体 stroma-free hemoglobin nanoparticle による脳虚血再灌流傷害に対する神経保護効果に関する研究 主査：教授 藤山 文乃
たまき 陽生 よう じ 生	心エコーによる左室充満圧推定スコアの呼吸困難患者における急性心不全診断への適用 主査：教授 今野 哲	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士(医学)	チョウ シ セン ZHANG Zixuan		Exploration of Maximizing the Graft-Versus-Leukemia Effect Following Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation Utilizing Novel Agents (新規薬剤による同種造血細胞移植後の移植片対白血病効果最大化の検討) 主査:教授 真部 淳
	とうこう み お 東郷 未緒		パーキンソン病モデル動物を用いた下部尿路機能障害に関する研究 主査:教授 神谷 温之
	ないとう せいいちろう 内藤 正一郎		DEAD-Box helicase 6分子による炎症誘導の分子機構 主査:教授 小林 弘一
	なかわら ゆういち 中村 雄一		出生前のマンガン、カドミウム、鉛、水銀およびセレン曝露が胎児の形態異常発生に及ぼす影響に関する研究 主査:教授 荒戸 照世
	なつい ひろゆき 夏井 宏征		心臓血管手術後の心房細動(POAF)における心外膜脂肪組織の質的变化が及ぼす影響の検討 主査:教授 小林 弘一
	にしお たくや 西尾 卓哉		頭頸部原発皮膚悪性腫瘍における原発部位とリンパドレナージパターンに関する検討 主査:教授 高橋 将人
	はせがわ ゆういち 長谷川 裕一		腰椎椎体間固定術後に生じる椎体骨髄浮腫の臨床的意義に関する研究 主査:教授 近藤 英司
	ひらた ゆりえ 平田 由里絵		SRY遺伝子に依存しない性決定様式をもつ哺乳類種を用いた、新たな性分化疾患メカニズムの探索 主査:教授 渡利 英道
	ふくしま しんや 福島 新弥		Crohn病の予後予測における体外式超音波検査の有用性についての検討 主査:教授 武富 紹信
	ほそだ しゅんいち 細田 峻一		切除不能肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ペバシズマブ併用療法の治療効果予測因子についての検討 主査:教授 平野 聡
	ほんじょう りょうた 本庄 遼太		小児期発症SP-C異常症の特徴に関する研究 主査:教授 南須原 康行
	まつやま しいな 松山 詩菜		GM-CSFは痛み刺激で誘発されるEAE再燃症状に関係する末梢由来骨髄系細胞を中枢神経領域に維持する働きがある 主査:教授 石田 晋
	むらかみ かおる 村上 薫		炎症性疾患の予防、治療に関する研究 主査:教授 石田 晋
	やえがし あきのり 八重樫 昭徳		Studies on association between carbohydrate and fat intake as exposure factors and the incidence risk of type 2 diabetes (炭水化物と脂質の摂取に関する曝露因子と糖尿病発症との関連に関する研究) 主査:教授 伊藤 陽一
	よこしき さき 横式 沙紀		希少疾病用医薬品の開発における薬効薬理試験の位置づけに関する研究 主査:教授 伊藤 陽一
	よしだ そのえ 吉田 苑永		慢性肝疾患における腎機能の過大評価の特性やサルコペニアおよび予後との関連についての検討 主査:准教授 七戸 俊明
	うちやま ゆうこ 内山 裕子		甲状腺分化癌に対する放射性ヨード内用療法前のFDG-PET/CTの予後予測能に関する検討 主査:教授 青山 英史
	すぎもと あやこ 杉本 絢子		肺高血圧症の肺血管病変に関する病理組織学および臨床生理学的研究 主査:教授 若狭 哲
	トウ シン シン DOU Shenshen		Functional analysis of MAPI7 in glioblastoma-initiating cells (膠芽腫幹細胞におけるMAPI7の機能解析) 主査:教授 園下 将大
	ひろせ かずゆき 廣瀬 和幸		一般外科医に最適化された外傷トレーニングプログラム開発に向けた一般外科医の外傷診療スキルに関する研究 主査:教授 荒戸 照世
みなと まさし 湊 雅嗣		肝芽腫におけるOCIAD2の機能解析 主査:教授 谷口 浩二	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名	
	氏 名		
博士 (医学)	みやぎ だい 宮崎 大	消化器外科高度侵襲手術周術期の中心静脈血酸素飽和度と術後合併症の関連に関する研究 主査：教授 本間 明宏	
	たかぎ こうた 高木 康多	生活歯髄切断材料における抗酸化アミノ酸の応用 主査：教授 八若 保孝	
	たて えみり 楯 えみり	片側遊離端欠損におけるインプラントに支持を求めた部分床義歯の有限要素解析 主査：教授 横山 敦郎	
	チョウ ケイミ 趙 継美	小児がんに対する光免疫療法の有効性について 主査：教授 八若 保孝	
	ワン アンゼン 王 安然	Human adenovirus oncolytic properties and the inhibitory role of E4 orf4 and E4 orf6/7 on endogenously activated NF- κ B (ヒトアデノウイルス E4 orf4 および E4 orf6/7 のNF- κ B 抑制作用と腫瘍溶解性) 主査：教授 長谷部 晃	
	いいだ あいり 飯田 愛理	自閉スペクトラム症患者における口腔内および腸内細菌叢解析 主査：教授 長谷部 晃	
	おおさわ きょうこ 大澤 香子	Morphological Study for the Osteocytes in Podoplanin-Conditional Knockout Mice (ポドプラニンコンディショナルノックアウトマウスにおける骨細胞の形態学的研究) 主査：教授 佐藤 嘉晃	
	かさい まちこ 笠井 満知子	RAW264.7細胞におけるcalcitriolの影響に関する研究 主査：教授 長谷部 晃	
	しゆんどう あやか 春藤 彩花	温度刺激で接着力が低下する新規歯科矯正用解離性接着材の開発 主査：教授 佐藤 嘉晃	
	すずき しょうと 鈴木 翔斗	亜鉛ガラス含有グラスアイオノマーセメントの小児歯科臨床における有用性の検討 主査：教授 八若 保孝	
	博士 (歯学)	ほし めまはた 星 (沼端) まりえ 麻里絵	Evaluation of cortical bone remodeling in canines treated with daily and weekly administrations of teriparatide by establishing AI-driven morphometric analyses and GIS-based spatial mapping (AI 駆動型形態計測とGIS を用いた空間マッピング法の確立によるテリパラチドを連日または週1 回投与したイヌ皮質骨リモデリングの評価) 主査：教授 飯村 忠浩
		あべ みき 阿部 未来	Histological assessment on the biological function of vascular endothelial cells in the initial process of cortical porosity in mice with PTH administration (PTH投与マウスの皮質骨多孔化初期過程における血管内皮細胞の生物学的作用に関する組織学的検索) 主査：教授 網塚 憲生
		アルクウェイキビ ALKUWAYKIBI アハメット サウヂ AHMED SOUD エイチ H	Influence of gap width and distance between electrodes on eliminating organic material of the isthmus by high frequency electric current (高周波電流によるイスマスの有機質除去に対するイスマス幅と電極間の距離の影響) 主査：特任教授 菅谷 勉
		アルルワイリ ALRUWAILI アブドゥルラフ ファハン Abdullatif Farhan エス S	Effects of sealer and root canal filling method on root canal sealing ability after high-frequency current conduction (シーラーと根管充填方法が高周波電流通電後の根管封鎖性におよぼす影響) 主査：特任教授 菅谷 勉
イスラム エムディ ISLAM M d リファット リアドゥル Refat Readul		Biological evaluation of novel phosphorylated pullulan-based calcium hydroxide formulations as direct pulp capping materials リン酸化プルラン含有新規水酸化カルシウム直接覆髄材の生物学的評価 主査：教授 友清 淳	
インタジャック INTAJAK パピチャヤ Papichaya	Effect of Silver Diamine Fluoride on Bonding Performance and Ultra-morphological Characteristics to Sound Dentin (フッ化銀ジアミンの健全象牙質に対する接着性と超微細形態特性への影響について) 主査：教授 友清 淳		

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	
	氏名	博士論文名
博士（歯学）	ウー ディー 呉 迪	Long-term dentin bonding performance of HEMA-free and HEMA-containing universal adhesives restored with resins loaded or not with bioactive particles (生体活性粒子添加型および非添加型レジンとHEMA含有および非含有ユニバーサル接着材における長期象牙質接着性能について) 主査：教授 友清 淳
	エン エン 袁 媛	Effect of sodium hypochlorite on bonding performance of universal adhesives to pulp chamber dentin (各種ユニバーサルアドヒージブの髓腔内象牙質接着に対する3%次亜塩素酸ナトリウムの影響) 主査：教授 友清 淳
	かわむら みどり 川村 碧	Influence of Novel Experimental Light-Cured Resin Cement on Microtensile Bond Strength (新規光重合型レジンセメントの接着性能に関する研究) 主査：教授 友清 淳
	くにい りえこ 國井 理恵子	CPC配合製剤使用後における経時的口腔内CPC濃度変化の解析 主査：教授 友清 淳
	たにくち あきひろ 谷口 昭博	インプラントの形状と連結様式がインプラント頸部の骨吸収に与える影響に関する後ろ向き観察研究 主査：特任教授 菅谷 勉
	チヨウ コウ 張 紅	Durability for mechanical property and bonding performance of resin materials bonded to CAD/CAM resin block CAD/CAMレジンプロックに対するレジン系材料の機械的性質および接着力における耐久性について 主査：教授 友清 淳
	とのおま あんり 遠山 晏梨	天然歯の色調定量化に関する研究 - 臨床応用に向けての予備的検討 - 主査：教授 友清 淳
	ヤオ イ 姚 曄	Comprehensive evaluation of water sorption, solubility, degree of conversion, and long-term dentin bond strength of self-adhesive resin composites (自己接着性レジンコンポジットの吸水性、溶解性、転化度、長期象牙質への接着強さの総合的評価解析) 主査：教授 友清 淳
	リ ヤクトウ 李 奕彤	Effect of simulated dental pulpal pressure using fetal bovine serum for the bonding performance of contemporary adhesive to dentin (胎児牛血清を応用した模擬歯髓圧が歯科接着材料の象牙質接着力に及ぼす影響について) 主査：教授 友清 淳
	いなもと かおる 稲本 香織	介護保険施設入所要介護高齢者に対する歯科衛生士による口腔健康管理と食形態の維持または改善との関連：1年間の多施設縦断研究 主査：教授 山崎 裕
	きむら ちづる 木村 千鶴	地域在住高齢者におけるオーラルフレイルと口腔細菌叢内のプレボテラ属の割合との関連 主査：教授 山崎 裕
	コウ ソウカイ 黄 宗楷	The Influence of Electrode Positioning and Duration during High-Frequency Current Application on Improvement of Apical Periodontitis with Inaccessible Root Canal (高周波通電時の電極位置と時間が到達不可根管による根尖性歯周炎の改善におよぼす影響) 主査：特任教授 菅谷 勉
	たけなか ひろき 竹中 裕喜	リン酸化プルランと塩基性線維芽細胞増殖因子のOnlay Graftによる骨増生 主査：特任教授 菅谷 勉
	なかがわ さゆり 中川 紗百合	後期高齢者におけるオーラルフレイルと食欲、食品摂取の多様性に関する横断研究 主査：教授 山崎 裕
	いとう わたる 伊藤 航	SARS-CoV-2感染による血管内皮細胞のITGB3発現誘導と血栓形成への関与 主査：教授 樋田 京子
	ジャ スズ 賈 梓	Targeting tumor endothelial cells by EGCG causes anti-inflammatory and anti-thrombotic effects (腫瘍血管内皮細胞を標的としたEGCG投与による抗炎症・抗血栓効果) 主査：教授 樋田 京子

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（歯学）	てしろぎ なたかひと 手代木 孝仁		SARS-CoV-2感染重症化マウスモデルにおけるCelastrol の効果検討 主査：教授 樋田 京子
	なかの しんたろう 中野 晋太郎		Epithelial-mesenchymal transition in oral cancer cells induced by chronic <i>Fusobacterium nucleatum</i> infection (<i>Fusobacterium nucleatum</i> の慢性感染による口腔癌細胞の上皮間葉転換) 主査：教授 長谷部 晃
	なかみち よしゆき 中道 祥之		成長期における液状飼料摂取がラット歯根膜およびセメント質に与える影響 主査：教授 山本 恒之
	なかむら けいすけ 中村 圭佑		北海道における <i>Candida albicans</i> 臨床分離株の抗真菌薬感受性についての検討～難治性、再発性口腔カンジダ症との関連性～ 主査：教授 長谷部 晃
	やまね ひろし 山根 宏志		Establishment and molecular pathophysiological evaluation of a non-human primate model of neuropathic pain (サル神経障害性疼痛モデルの確立と分子病態評価) 主査：教授 飯村 忠浩
	わたなべ はるひき 渡辺 陽久		A study on the differentiation potential of human bone marrow-derived mesenchymal stem cells under Xeno-free culture condition (動物由来成分を含まない培養条件による骨髄由来間葉系幹細胞の分化能に関する研究) 主査：教授 飯村 忠浩
	いしかわ えみ 石川 恵美		全身麻酔下口腔外科手術後の悪心重症度に対するアロマオイル吸入効果の検討：単盲検ランダム化比較試験 主査：教授 城戸 幹太
	おかだ まい 岡田 真依		低亜鉛血症を伴うBurning Mouth Syndrome 患者の臨床的検討 主査：教授 北川 善政
	ミー ドーンシアーン 密 東祥		The effect of Oropharyngeal Exercises / Myofunctional Therapy on Orofacial Function and Corticomotor Excitability in healthy individuals - Exploring the possibility of the treatment use for Obstructive Sleep Apnea - (口咽頭運動/筋機能療法が口腔顔面機能および皮質運動興奮性に与える影響- 閉塞性睡眠時無呼吸症治療応用可能性の探求 -) 主査：教授 山口 泰彦
やすなが よしゆみ 安永 賢史		ラット頭蓋骨欠損部に埋入したウシ脱灰象牙質由来コラーゲン移植材周囲における骨形成の検討 主査：教授 横山 敦郎	
博士（獣医学）	おおわき りょう 大脇 稜		Analysis of tumor evasion mechanisms contributing to tumor radio-resistance and the radio-sensitizing effects of Janus kinase inhibitor oclacitinib in canine tumor cell lines (イヌ腫瘍細胞における放射線治療抵抗性に関わる免疫回避機構の解析およびJanus kinase阻害薬オクラシニブの放射線増感効果に関する基礎的研究) 主査：教授 滝口 満喜
	もりもと こうへい 森本 康平		Studies on behavioral abnormalities and proinflammatory cytokine upregulation under neuroinflammation: Focus on glial cells (神経炎症下における行動異常と炎症性サイトカイン発現亢進に関する研究—グリア細胞に焦点を当てて) 主査：教授 木村 享史
博士（医理工学）	さいとう ゆうき 齊藤 祐輝		強度変調放射線治療計画の品質を予測する新たな幾何学パラメータに関する研究 主査：教授 合川 正幸
	みやざき こういち 宮崎 康一		即時適応陽子線治療に向けた治療計画法に関する研究 主査：准教授 高尾 聖心
	オパデレ OPADELE アバヨミ Abayomi エマニュエル Emmanuel		Delivering Functional Cargos by Extracellular Vesicles Engineered with a Lipid-binding Domain (脂質結合ドメインを用いた人工改変細胞外小胞による機能的カーゴの送達) 主査：准教授 小野寺 康仁

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (医理工学)	かわうち けいすけ 川内 敬介	FDG-PETを用いた脳ブドウ糖代謝率測定における人工知能を活用した非侵襲的測定方法に関する研究	主査：教授 加藤 千恵次
	はまぐち ひろゆき 濱口 裕行	最新MRI法を用いた脳及び椎間板の定量評価	主査：准教授 タ キンキン
博士 (獣医学)	はやし なおき 林 直樹	Analysis of population genetic structure of <i>Echinococcus multilocularis</i> in Hokkaido (北海道における多包条虫 <i>Echinococcus multilocularis</i> の集団遺伝構造の解析)	主査：特任教授 大橋 和彦
博士 (文学)	いちむら しゅんたろう 市村 俊太郎	中國中古時期における姓氏と譜牒に関する研究	主査：教授 弮 和順
	かた た りょう 堅田 諒	俳優たちの映画－ジョン・カサヴェテス作品における俳優演技の理論と実践	主査：教授 阿部 嘉昭
	キョ カイケン 許 開軒	近世日本のニワトリ利用に関する動物考古学的研究	主査：教授 江田 真毅
	コウ ナイジュン 侯 乃禎	後期西田幾多郎の宗教論における自己と絶対者の関係	主査：教授 田口 茂
	なかむら たける 中村 建	有島武郎の研究	主査：教授 中村 三春
	ロ ショウナン 路 勝楠	元弘相傳本『五行大義』引『説文解字』考	主査：教授 近藤 浩之
博士 (人間科学)	オウ コウケン 翁 康健	グローバル社会における異民族間の共生と民族宗教のダイナミズム－東アジア社会の華人ネットワークの再編成－	主査：教授 櫻井 義秀
	サ エン 左 治	音声の自己認識とマスクの有無などの外部要因が音響特性と魅力評価に与える影響	主査：教授 川端 康弘
	たんだ ともゆき 反田 智之	The Characteristics of Attentional Templates for Rejection in Visual Search (視覚探索における注意の抑制テンプレートの特性)	主査：教授 河原 純一郎
	はる き ゆうすけ 晴木 祐助	Perceptual Mechanism of Interoception: On Roles of Attention in Modulating Uncertain Interoceptive Signals (内受容感覚の知覚メカニズム：不確実な信号を調節する注意の役割に着目して)	主査：准教授 小川 健二
	ほんま しょうご 本間 祥吾	進化・学習・規範：強化学習の計算論モデルによる検討	主査：教授 竹澤 正哲
	まえだ ゆうご 前田 友吾	自己意識の感情の社会生態学的基盤－関係流動性の役割－	主査：教授 結城 雅樹
	ロ ヒエン 芦 非煙	北海道道央地域における外来種ニホンテンと在来種エゾクロテンの競合に関する保全生態学的研究	主査：教授 池田 透
博士 (文学)	いの はら じろう 猪ノ原 次郎	西田幾多郎の自覚の哲学－知識論と行為論におけるその展開－	主査：教授 田口 茂
	ほんま そういちろう 本間 宗一郎	考慮の前提である余地と決定論の両立性	主査：准教授 近藤 智彦
	きむら ゆみ 木村 由美	樺太からの引揚者と戦後北海道	主査：教授 白木沢 旭児
	エン カシ 袁 嘉孜	多和田葉子研究	主査：教授 中村 三春
	たかはし つちや 高橋 (土屋) さゆり 小百合	表象としての <木戸孝允>－イメージの一五〇年史－	主査：教授 押野 武志
	ヒツ アリ 畢 亜莉	近代日中における「発」を含む二次漢語の成立と交流について	主査：教授 佐藤 知己

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	にいだ みつき 新井田 光希		時間情報処理における刺激規則性と知覚および運動タイミングの関係とその脳内基盤の検討 主査：准教授 小川 健二
博士（情報科学）	チョイ ミョングン 崔 明根		視線インタフェースにおける誤選択を低減する手法に関する研究 主査：准教授 坂本 大介
	チョウ インギ ZHAO Yingqi		A Study on Mixed Precision Iterative Refinement using Low Precision Krylov Methods (低精度クリロフ部分空間法を用いた混合精度反復改良法に関する研究) 主査：准教授 深谷 猛
	てらお はやと 寺尾 颯人		Reducing Annotation and Computation Costs for Efficient Compressed Video Action Recognition (効率的な圧縮動画分類に向けたアノテーションコストと計算コストの削減手法) 主査：教授 山本 雅人
	ほり のりあき 堀 紀章		Enhancing Recognition and Improved Processing Speed for Isolated Sign Language Recognition (手話単語認識における認識率の向上と処理速度の改善) 主査：教授 山本 雅人
	ボ ジャチイ BAO Jiaqi		On the Reliability and Robustness of Linear Generalized Regression Algorithms for Classification (識別のための線形一般化回帰アルゴリズムの信頼度とロバストネスに関する研究) 主査：教授 工藤 峰一
	よしだ たくみ 吉田 拓海		ユーザの意思決定における有用なテキスト情報の生成に関する研究 主査：教授 川村 秀憲
博士（工学）	おち りょうた 越智 亮太		AlGaIn/GaNヘテロ構造における表面・界面の評価および制御とトランジスタ応用 主査：教授 本久 順一
	ゴン リチクン Gong Lizhikun		Synthesis and Functionality of Freestanding Perovskite Oxide Sheets Using Amorphous Oxide Protection Layer (アモルファス酸化物保護層を用いた自立型ペロブスカイト酸化物シートの合成と機能性) 主査：教授 本久 順一
	さとう しの 佐藤 紫乃		Electron spin dynamics of dilute nitride GaNAs quantum well - InAs quantum dots tunnel-coupled nanostructures (希薄窒化GaInAs量子井戸-InAs量子ドットトンネル結合ナノ構造の電子スピンドYNAMICS) 主査：准教授 樋浦 論志
博士（情報科学）	シン タクウ 沈 澤宇		空間分割多重通信に向けた空間モード補償技術に関する研究 主査：教授 富田 章久
博士（工学）	つばき けいじ 椿 啓司		Ca ₂ RuO ₄ エピタキシャル薄膜が示す量子相転移型非線形伝導現象の研究 主査：教授 植村 哲也
博士（情報科学）	はぎわら なるき 萩原 成基		脳の形態学・計算論に基づく柔らかな導電性ポリマーネットワークの構成論に関する研究 主査：教授 浅井 哲也
博士（工学）	いがらし りょう 五十嵐 稜		オール光ネットワークに基づく広域光アクセスの伝送距離拡大に関する研究 主査：客員教授 吉田 智暁
博士（情報科学）	オウ カン 王 皓		Study on Selective Mode Multiplexer for Mode Division Multiplexing Transmission (モード分割多重伝送のための選択型モード合成分波器に関する研究) 主査：教授 齊藤 晋聖
	おげき こうせい 尾関 剛成		機械学習を用いた超音波通信システムに関する研究 主査：教授 土橋 宜典
	ジャン ジャファン 張 加煥		A study on deep learning-based adversarial defense by introducing robust features (ロバスト特徴の導入による深層学習ベースの敵対的防御に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	チョウ テツウ 趙 哲宇		A Study on Uncoupled Heterogenous Multimode Multicore Fiber of Two-Ring Core Layout with 125 μm Cladding Diameter (125 μmクラッド径を有する2リングコア配置非結合型異種マルチモードマルチコアファイバに関する研究) 主査：教授 齊藤 晋聖

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（工学）	なかむら 中村	こうだい 航大	大容量マルチモード伝送システム実現のためのシリコンフォトニクスデバイスに関する研究 主査：教授 齊藤 晋聖
博士（情報科学）	もろと 諸戸	ゆうや 祐哉	A study on machine learning for personalized prediction of human perception toward visual stimuli (視覚刺激に対する人間の知覚を個別予測するための機械学習に関する研究) 主査：教授 長谷山 美紀
	やなぎ 柳	りんたろう 凜太郎	深層生成モデルに基づく対話型マルチメディア情報検索に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
	あかさか 赤坂	りく 莉空	再生可能エネルギー電源が大量導入された配電系統における新しい計測情報を用いた状態推定 主査：准教授 原 亮一
	えびな 海老名	こうき 光希	Development of machine learning-based skill assessment system for laparoscopic surgery using motion-capture (モーションキャプチャを用いた腹腔鏡手術のための機械学習による技量評価システムの開発) 主査：教授 近野 敦
博士（工学）	かわしま 川島	のぶあき 伸明	スマートインバータ群を含む放射状系統の縮約手法 主査：准教授 原 亮一
博士（情報科学）	きだ 喜田	ゆうし 勇志	脱炭素社会実現に向けた CO ₂ フリー水素と次世代電力ネットワークの融合 主査：准教授 原 亮一
	さとう 佐藤	はやほ 駿輔	トポロジー最適化と人工知能技術を融合したモータ設計の高度化に関する研究 主査：教授 五十嵐 一
博士（工学）	なかむら 中村	あやか 綾花	再生可能エネルギー電源の導入拡大に貢献する高電圧直流送電システムの制御方式に関する研究 主査：准教授 原 亮一
	はやし 林	しょうご 翔吾	永久磁石モータのパラメータ・トポロジー同時最適化および多材料最適化に関する研究 主査：教授 五十嵐 一
	まとう 間藤	たかのぶ 昂允	超高磁場生成を指向した無絶縁高温超電導磁石の熱的安定性評価・向上に関する研究 主査：教授 野口 聡
	リュウ 劉	キョウ 橋	Analysis of high-frequency electromagnetic devices based on equivalent circuit and homogenization method (等価回路と均質化法による高周波電磁デバイスの解析) 主査：教授 五十嵐 一
博士（食資源学）	おおのがし 大東	たかみつ 孝充	Impacts of anthropogenic disturbances on the community structures and functions of soil microorganisms (人為的攪乱が土壤微生物群集の組成や機能に及ぼす影響) 主査：准教授 内田 義崇
	ミーアナン MEEANAN チョンラダー Chonlada		Real-time spatial management using surveillance information: A case study of short mackerel purse seine fishery (監視情報を利用したリアルタイム禁漁区管理：グルクマ属魚類 <i>Rastrelliger brachysoma</i> を対象としたまき網漁業の事例研究) 主査：教授 松石 隆

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（法学）	いまい たくよし 今井 猛嘉	自動運転技術の利用と刑法の解釈・立法に関する研究 主査：教授 城下 裕二
	たきもと きょうたろう 瀧本 京太郎	自招防衛論の再構成 主査：教授 小名木 明宏
博士（環境科学）	こばやし ゆうすけ 小林 勇介	Long-term three-dimensional analyses of trail degradation and proposal for a new partnership management framework in Daisetsuzan National Park, Japan （大雪山国立公園における登山道荒廃の長期3次元解析と新たなパートナーシップ管理フレームワークの提言） 主査：教授 渡邊 悌二
	バ タ ラ イ BHATTARAI ナビン Nabin	Studies on addressing challenges and enhancing community engagement in REDD+ implementation in Nepal and India （ネパールおよびインドにおけるREDD+実施に関わる課題への取り組みとコミュニティ参画の強化に関する研究） 主査：教授 渡邊 悌二
博士（農学）	いとう ともひろ 伊藤 知洋	北海道産アスパラガス未利用資源の有効利用に関する研究 主査：教授 松浦 英幸
博士（教育学）	あなみず ゆかり 穴水 ゆかり	児童生徒の自傷行為の発生要因と保健室を中心とした学校対応 主査：准教授 加藤 弘通
	やまぐち せいけい 山口 晴敬	開放制教職課程出身教師の抱えさせられている「困難」とその要因—北海道における初任期の高校教師のサバイバル・ストラテジーの多様性の検討を中心に— 主査：特任教授 浅川 和幸
博士（国際広報メディア）	ちば みちこ 千葉 美千子	公共的記憶に内在する格差とその克服に関する研究—戦後ドイツにおける2つの「警鐘碑論争」の場合— 主査：特任教授 鈴木 純一
	いしい まさる 石井 克	アスリート言説の言説空間:新たなくスポーツする主体>の登場 主査：教授 西村 龍一
博士（工学）	なかい よしよ 中井 由枝	機械攪拌式脱硫酸法による溶銑脱硫反応の高効率化に関する研究 主査：教授 大野 宗一
博士（医学）	つしま なゆた 対馬 那由多	鼻副鼻腔粘膜悪性黒色腫における局所治療の妥当性評価と次世代シークエンサーによる遺伝子変異に関する研究 主査：教授 加藤 達哉
	はしもと しょうご 橋本 省吾	小児期のいじめは、神経症傾向と仕事のストレスを介して、成人期のプレゼンティズムに影響を及ぼす 主査：教授 高橋 誠
博士（感染症学）	たにくち けいいち 谷口 恵一	Studies on the efficacy of anti-influenza drug baloxavir marboxil against animal-derived influenza viruses （動物由来インフルエンザウイルスに対する抗インフルエンザ薬バロキサビルマルボキシルの有効性に関する研究） 主査：教授 迫田 義博

表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
6.3.7	リトアニア共和国 Vytenis Tomkus 農業副大臣	今後の交流に関する懇談
6.3.11	在札幌大韓民国総領事館 延賢植 総領事	今後の交流に関する懇談



Vytenis Tomkus リトアニア共和国農業副大臣（左から6人目）



延賢植 在札幌大韓民国総領事館総領事（左から4人目）

（国際部国際連携課）

人事

令和6年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	城 下 裕 二	大学院法学研究科教授
	佐 伯 宏 樹	大学院水産科学研究院教授
	綿 貫 豊	大学院水産科学研究院教授
	小 田 研	大学院理学研究院教授
	齋 藤 睦	大学院理学研究院教授
	坂 口 和 靖	大学院理学研究院教授
	増 田 隆 一	大学院理学研究院教授
	村 上 洋 太	大学院理学研究院教授
	鈴 木 卓	大学院農学研究院教授
	中 村 太 士	大学院農学研究院教授
	西 邑 隆 徳	大学院農学研究院教授
	増 田 税	大学院農学研究院教授
	山 田 孝	大学院農学研究院教授
	出 村 誠	大学院先端生命科学研究院教授
	明 楽 浩 史	大学院工学研究院教授
	佐々木 克 彦	大学院工学研究院教授
	萩 原 亨	大学院工学研究院教授
	久 住 一 郎	大学院医学研究院教授
	篠 原 信 雄	大学院医学研究院教授
	森 本 裕 二	大学院医学研究院教授
	真 部 淳	大学院医学研究院教授
	北 川 善 政	大学院歯学研究院教授
	山 口 泰 彦	大学院歯学研究院教授
	山 本 恒 之	大学院歯学研究院教授
	横 山 敦 郎	大学院歯学研究院教授
	昆 泰 寛	大学院獣医学研究院教授
	安 達 真由美	大学院文学研究院教授
	阿 部 嘉 昭	大学院文学研究院教授
	池 田 透	大学院文学研究院教授
	後 藤 康 文	大学院文学研究院教授
	白木沢 旭 兎	大学院文学研究院教授
	中 村 三 春	大学院文学研究院教授
	小野里 雅 彦	大学院情報科学研究院教授
	工 藤 峰 一	大学院情報科学研究院教授
	村 山 明 宏	大学院情報科学研究院教授
	大 島 慶一郎	低温科学研究所教授
	福 井 学	低温科学研究所教授
	石 橋 晃	電子科学研究所教授
	笹 木 敬 司	電子科学研究所教授
	田 中 一 馬	遺伝子病制御研究所教授
	朝 倉 清 高	触媒科学研究所教授
	福 岡 淳	触媒科学研究所教授
	WOLFF DAVID	スラブ・ユーラシア研究センター教授
	高 井 昌 彰	情報基盤センター教授
	藤 野 介 延	北方生物圏フィールド科学センター教授
	宗 原 弘 幸	北方生物圏フィールド科学センター教授
	小 林 由 子	高等教育推進機構教授
(任期満了)	黒 木 英 充	スラブ・ユーラシア研究センター教授

(辞職)	大 林 明 彦 寺 内 伊久郎 西 村 裕 一 松 井 利 仁 池 田 文 人	産学・地域協働推進機構教授 産学・地域協働推進機構教授 大学院法学研究科教授 大学院工学研究院教授 高等教育推進機構教授
【准教授】 (定年)	磯 田 豊 福 士 幸 治 大 参 達 也 小 篠 隆 生 田地川 浩 人 山 田 雅 彦 亀 倉 更 人 安 田 元 昭	大学院水産科学研究院准教授 大学院農学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院工学研究院准教授 大学院歯学研究院准教授 大学院歯学研究院准教授
【講師】 (定年)	佐 藤 明 佐 藤 千 晴	北海道大学病院講師 北海道大学病院講師
【助教】 (定年)	吉 田 郁 也 金 井 壮 律	大学院理学研究院助教 大学院歯学研究院助教
【助手】 (定年)	中 村 秀 樹 大須賀 美 香	大学院医学研究院助手 スラブ・ユーラシア研究センター助手
【部長等】 (役職定年) (辞職)	桃 山 光 樹 入 澤 秀 次 原 田 直 基 濱 田 智 鈴 木 秀 樹	企画調整役(兼) 監事支援室長 医学系事務部長 研究推進部長 施設部長 附属図書館事務部長
【課長・事務長・室長】 (役職定年)	菊 池 洋 美 奴 賀 修 鴨志田 敏 則	社会共創部広報課長(兼) 社会共創部広報課卒業生・基金室長 薬学事務部事務長 農学・食資源学事務部事務長

令和6年4月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 理事 (副学長) (期間：令和8年3月31日まで)	山 口 淳 二	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：令和8年3月31日まで)	横 田 篤	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：令和8年3月31日まで)	山 本 文 彦	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：令和8年3月31日まで)	高 橋 彩	理事 (副学長)
理事 (副学長) (期間：令和8年3月31日まで)	瀬戸口 剛	大学院工学研究院教授
理事 (期間：令和8年3月31日まで)	行 松 泰 弘	理事

理事 (期間：令和8年3月31日まで)	甲 田 彰	科学技術振興機構・副理事
理事 (期間：令和8年3月31日まで)	CHRISTINA AHMADJIAN	一橋大学・名誉教授
【副学長】		
副学長 (期間：令和7年3月31日まで)	渥 美 達 也	副学長
副学長 (期間：令和7年3月31日まで)	舩 和 順	副学長
副学長 (期間：令和8年3月31日まで)	石 森 浩一郎	副学長
副学長 (期間：令和8年3月31日まで)	長谷山 美 紀	副学長
副学長 (期間：令和7年3月31日まで)	西 邑 隆 徳	創成研究機構・特任教授
副学長 (期間：令和6年9月30日まで)	清 水 聖 幸	副学長
【副理事】		
副理事 (期間：令和8年3月31日まで)	矢 野 理 香	大学院保健科学研究院教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	長谷川 康 弘	産学・地域協働推進機構・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	阿 部 弘	統合URA本部・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	村 山 明 宏	大学院情報科学研究院・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	寺 内 伊久郎	産学・地域協働推進機構・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	吉 野 正 則	産学・地域協働推進機構・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	土 屋 努	産学・地域協働推進機構・特任教授
副理事 (期間：令和7年3月31日まで)	佐 藤 典 宏	北海道大学病院教授
副理事 (期間：令和8年3月31日まで)	門 出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
副理事 (期間：令和8年3月31日まで)	棟 朝 雅 晴	情報基盤センター教授
【総長補佐】		
(期間：令和8年3月31日まで)	岡 田 美弥子	大学院経済学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	南 雅 文	大学院薬学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	松 王 政 浩	大学院理学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	富 岡 智	大学院工学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	LA FAY MICHELLE KAY	大学院文学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	石 塚 真由美	大学院獣医学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	谷 本 晃 久	国際連携研究教育局・大学院文学研究院教授
(期間：令和6年7月31日まで)	工 藤 興 亮	大学院医学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	大 沼 進	大学院文学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	永 田 晴 紀	大学院工学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	小 川 美香子	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院薬学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	長谷川 淳 也	触媒科学研究所教授
(期間：令和8年3月31日まで)	齊 藤 大 地	大学院工学研究院准教授
(期間：令和7年3月31日まで)	小 澤 丈 夫	大学院工学研究院教授

(期間：令和8年3月31日まで)	愛 甲 哲 也	大学院農学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	岩 瀨 和 則	大学院農学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	石 井 一 英	大学院工学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	山 内 太 郎	国際連携研究教育局・大学院保健科学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	黒 岩 麻 里	大学院理学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	杉 浦 真由美	大学院教育推進機構准教授
(期間：令和8年3月31日まで)	石 黒 侑 介	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
(期間：令和8年3月31日まで)	秋 田 利 之	大学院理学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	村 松 正 隆	大学院文学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	江 本 理 恵	高等教育推進機構教授
(期間：令和8年3月31日まで)	葛 西 誠 也	量子集積エレクトロニクス研究センター教授
【経営協議会委員】		
(期間：令和8年3月31日まで)	小 坂 達 朗	中外製薬株式会社特別顧問
(期間：令和8年3月31日まで)	ウスビ サ コ	京都精華大学教授
(期間：令和8年3月31日まで)	空 閑 良 壽	室蘭工業大学学長
(期間：令和8年3月31日まで)	三 輪 敦 子	一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク (SDGsジャパン) 共同代表理事
(期間：令和8年3月31日まで)	小 高 咲	地方独立行政法人北海道立総合研究機構理事長
【部局長・施設長等】		
大学院水産科学研究院長	都 木 靖 彰	大学院水産科学研究院教授
大学院水産科学院長		
水産学部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院教育学研究院長	辻 智 子	大学院教育学研究院教授
大学院教育学院長		
教育学部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院総合化学院長	忠 永 清 治	大学院工学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院経済学研究院長	久 保 淳 司	大学院経済学研究院教授
大学院経済学院長		
経済学部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院歯学研究院長	網 塚 憲 生	大学院歯学研究院教授
大学院歯学院長		
歯学部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院文学研究院長	川 端 康 弘	大学院文学研究院教授
大学院文学院長		
文学部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院情報科学研究院長	近 野 敦	大学院情報科学研究院教授
大学院情報科学院長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
大学院公共政策学連携研究部長	山 崎 幹 根	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院公共政策学教育部長		
(期間：令和8年3月31日まで)		
低温科学研究所長	渡 部 直 樹	低温科学研究所教授
(期間：令和8年3月31日まで)		
遺伝子病制御研究所長	村 上 正 晃	遺伝子病制御研究所教授
(期間：令和8年3月31日まで)		
触媒科学研究所長	清 水 研 一	触媒科学研究所教授
(期間：令和8年3月31日まで)		

スラブ・ユーラシア研究センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

量子集積エレクトロニクス研究センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

北方生物圏フィールド科学センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

アイヌ・先住民研究センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

環境健康科学研究教育センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

広域複合災害研究センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

脳科学研究教育センター長
(期間：令和8年3月31日まで)

大学文書館長
(期間：令和8年3月31日まで)

技術支援本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

情報環境推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

アドミッション本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

創成研究機構長
(期間：令和8年3月31日まで)

高等教育推進機構長
(期間：令和8年3月31日まで)

安全衛生本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

産学・地域協働推進機構長
(期間：令和8年3月31日まで)

総合IR本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

国際連携推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

サステイナビリティ推進機構長
(期間：令和8年3月31日まで)

アイヌ共生推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

大学院教育推進機構長
(期間：令和8年3月31日まで)

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

広報・社会連携本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

質保証推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

半導体拠点形成推進本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

統合URA本部長
(期間：令和8年3月31日まで)

創成研究機構化学反応創成研究拠点長
(期間：令和8年3月31日まで)

創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点長
(期間：令和8年3月31日まで)

長 縄 宣 博 スラブ・ユーラシア研究センター教授

本 久 順 一 大学院情報科学研究院教授

宮 下 和 士 北方生物圏フィールド科学センター教授

山 崎 幸 治 国際連携研究教育局・アイヌ・先住民研究センター教授

山 内 太 郎 国際連携研究教育局・大学院保健科学研究院教授

佐々木 貴 信 大学院農学研究院教授

南 雅 文 大学院薬学研究院教授

山 本 文 彦 理事 (副学長)

行 松 泰 弘 理事

甲 田 彰 理事

山 本 文 彦 理事 (副学長)

瀬戸口 剛 理事 (副学長)

山 本 文 彦 理事 (副学長)

行 松 泰 弘 理事

瀬戸口 剛 理事 (副学長)

長谷山 美 紀 副学長

高 橋 彩 理事 (副学長)

横 田 篤 理事 (副学長)

山 本 文 彦 理事 (副学長)

山 本 文 彦 理事 (副学長)

山 口 淳 二 理事 (副学長)

行 松 泰 弘 理事

山 口 淳 二 理事 (副学長)

山 口 淳 二 理事 (副学長)

瀬戸口 剛 理事 (副学長)

前 田 理 創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院理学研究院教授

長谷山 美 紀 大学院情報科学研究院教授

創成研究機構ワクチン研究開発拠点長 (期間：令和8年3月31日まで)	澤 洋 文	人獣共通感染症国際共同研究所教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター長 (期間：令和8年3月31日まで)	高 橋 浩 晃	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：令和7年3月31日まで)	松 田 康 子	大学院教育学研究院教授
薬学部附属薬用植物園長 (期間：令和8年3月31日まで)	脇 本 敏 幸	大学院薬学研究院教授
水産学部附属練習船おしよろ丸船長 (期間：令和8年3月31日まで)	亀 井 佳 彦	水産学部附属練習船おしよろ丸准教授
低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター長 (期間：令和8年3月31日まで)	西 岡 純	低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター教授
遺伝子病制御研究所附属動物実験施設長 (期間：令和8年3月31日まで)	清 野 研一郎	遺伝子病制御研究所教授
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター長 (期間：令和8年3月31日まで)	園 下 将 大	遺伝子病制御研究所教授
触媒科学研究所附属触媒連携研究センター長 (期間：令和8年3月31日まで)	中 野 環	触媒科学研究所教授
附属図書館長 (期間：令和8年3月31日まで)	山 本 文 彦	理事(副学長)
附属図書館北図書館長 (期間：令和7年3月31日まで)	稲 葉 陸	大学院獣医学研究院教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院法学研究科副研究科長 (期間：令和8年3月31日まで)	野 田 耕 志	大学院法学研究科教授
大学院水産科学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	細 川 雅 史	大学院水産科学研究院教授
大学院水産科学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	向 井 徹	大学院水産科学研究院教授
大学院教育学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	近 藤 健一郎	大学院教育学研究院教授
大学院経済学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	高 木 真 吾	大学院経済学研究院教授
大学院歯学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	宮 治 裕 史	大学院歯学研究院教授
大学院文学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	加 藤 重 広	大学院文学研究院教授
大学院文学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	谷 本 晃 久	国際連携研究教育局・大学院文学研究院教授
大学院情報科学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	浅 井 哲 也	大学院情報科学研究院教授
大学院情報科学研究院副研究院長 (期間：令和8年3月31日まで)	田 中 章	大学院情報科学研究院教授
低温科学研究所副所長 (期間：令和8年3月31日まで)	山 口 良 文	低温科学研究所教授
遺伝子病制御研究所副所長 (期間：令和8年3月31日まで)	茂 木 文 夫	遺伝子病制御研究所教授
触媒科学研究所副所長 (期間：令和8年3月31日まで)	浦 口 大 輔	触媒科学研究所教授
【教育研究評議会評議員】		
(期間：令和8年3月31日まで)	藤 森 康 澄	大学院水産科学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	近 藤 健一郎	大学院教育学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	高 木 真 吾	大学院経済学研究院教授

(期間：令和8年3月31日まで)	宮 治 裕 史	大学院歯学研究院教授
(期間：令和8年3月31日まで)	加 藤 重 広	大学院文学研究院教授
【教授】		
大学院法学研究科教授	徐 行	大学院法学研究科准教授
大学院法学研究科教授	空 井 護	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院水産科学研究院教授	笠 井 久 会	大学院水産科学研究院准教授
大学院水産科学研究院教授	上 野 洋 路	大学院水産科学研究院准教授
大学院水産科学研究院教授	藤 本 貴 史	大学院水産科学研究院准教授
大学院地球環境科学研究院教授	三 輪 京 子	大学院地球環境科学研究院准教授
大学院理学研究院教授	阿 部 一 啓	名古屋大学准教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授	大 園 真 子	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授
大学院理学研究院教授	小 林 真 平	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院教授	千 葉 由 佳 子	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院教授	相 馬 雅 代	大学院理学研究院准教授
大学院薬学研究院教授	黒 木 喜 美 子	大学院薬学研究院准教授
大学院農学研究院教授	森 本 淳 子	大学院農学研究院准教授
大学院農学研究院教授	笠 井 美 青	大学院農学研究院准教授
大学院農学研究院教授	加 藤 知 道	大学院農学研究院准教授
大学院農学研究院教授	崎 浜 靖 子	大学院農学研究院講師
大学院農学研究院教授	志 村 華 子	大学院農学研究院講師
大学院農学研究院教授	若 松 純 一	大学院農学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	阿 部 匡 樹	大学院教育学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	駒 川 智 子	大学院教育学研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	齋 藤 拓 也	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	原 由 理 枝	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	PAICHADZE SVETLANA	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	藤 野 陽 平	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院保健科学研究院教授	寒 川 美 奈	大学院保健科学研究院准教授
大学院工学研究院教授	浅 野 泰 寛	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	中 島 一 紀	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	濱 幸 雄	(採用) (室蘭工業大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)
大学院工学研究院教授	猿 渡 亜 由 未	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	藤 村 奈 央	大学院工学研究院助教
大学院工学研究院教授	吉 井 稔 雄	愛媛大学教授
大学院経済学研究院教授	阿 部 智 和	大学院経済学研究院准教授
大学院経済学研究院教授	齋 藤 久 光	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院経済学研究院教授	松 村 史 穂	大学院経済学研究院准教授
大学院歯学研究院教授	黒 嶋 伸 一 郎	長崎大学准教授
大学院歯学研究院教授	坂 口 究	大学院歯学研究院准教授
大学院歯学研究院教授	高 橋 茂	大学院歯学研究院准教授
大学院歯学研究院教授	宮 本 郁 也	(採用)
大学院獣医学研究院教授	市 居 修	大学院獣医学研究院准教授
大学院文学研究院教授	佐 野 勝 彦	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	樋 口 麻 里	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	山 口 未 花 子	大学院文学研究院准教授
大学院情報科学研究院教授	松 原 崇	大阪大学准教授
大学院情報科学研究院教授	丸 亀 孝 生	(採用)
大学院公共政策学連携研究部教授	池 炫 周	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院公共政策学連携研究部教授	村 上 裕 一	大学院法学研究科准教授
大学院公共政策学連携研究部教授	米 田 雅 宏	大学院法学研究科教授
北海道大学病院教授	小 野 尚 子	北海道大学病院准教授
北海道大学病院教授	神 原 純	北海道大学病院講師
北海道大学病院教授	田 中 佐 織	北海道大学病院講師

北海道大学病院教授 北海道大学病院教授 低温科学研究所教授 電子科学研究所教授 触媒科学研究所教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授 スラブ・ユーラシア研究センター教授	長 祐 子 西 尾 妙 織 青 木 茂 小 林 夏 野 村 山 徹 青 島 陽 子 野 田 仁	北海道大学病院助教 北海道大学病院講師 低温科学研究所准教授 岡山大学准教授 (採用) スラブ・ユーラシア研究センター准教授 (採用) (東京外国語大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用) (採用)
人間知・脳・AI研究教育センター教授 高等教育推進機構教授 安全衛生本部教授 国際連携推進本部教授	吉 田 正 俊 青 木 麻衣子 小 島 康 明 三代川 典 史	高等教育推進機構准教授 名古屋大学准教授 国際連携機構教授
【部長・次長】 企画調整役(兼) 監査室長(兼) 監事支援室長 総務企画部長 研究推進部長 施設部長 社会共創部長 社会共創部次長(兼) 社会共創部産学連携課長 附属図書館事務部長 医学系事務部長 (転出) 北見工業大学学長補佐(兼) 事務部長	羽 澤 明 文 平 松 亨 辻 山 隆 平 野 正 幸 辻 賢 司 松 橋 和 哉 久保田 壮 活 眞 野 茂 樹 奥 山 敏 之	獣医学系事務部事務長 総務企画部次長(兼) 総務企画部総務課長 横浜国立大学研究・学術情報部長 九州大学施設部長 社会共創部社会連携課長 工学系事務部経理課長 東京大学附属図書館総務課長 財務部経理課長 総務企画部長
【課長・事務長・室長】 総務企画部総務課長(兼) 総務企画部秘書室長 財務部経理課長 学務部国際交流課長 学務部学務企画課大学院教育改革推進室長 研究推進部研究支援課長 施設部環境配慮促進課長 施設部施設整備課長 社会共創部社会連携課長 社会共創部広報課長 社会共創部広報課卒業生・基金室長 法学研究科・法学部事務長 函館キャンパス事務部事務長 環境科学事務部事務長 薬学事務部事務長 農学・食資源学事務部事務長 工学系事務部総務課長 工学系事務部経理課長 医学系事務部会計課長 獣医学系事務部事務長 北海道大学病院管理課長 北海道大学病院新病院デザイン課長 (転出) 北見工業大学事務部研究協力課長	乾 優紀子 佐 藤 哲 生 川 崎 直 芳 岡 洋 石 田 出 空 橋 博 幸 押 田 聡 浅 野 智 裕 野 口 明 広 笹 原 聡 岡 野 賢 小笠原 美 勝 原 田 由 美 菅 原 暢 廣 吉 田 年 克 岡 村 康 司 長 南 敏 幸 吉 田 茂 横 岡 政 紀 今 田 有 治 小 泉 雅 也 八木澤 学	総務企画部秘書室長 函館キャンパス事務部事務長 学務部学務企画課大学院教育改革推進室長 学務部教育推進課課長補佐 財務部主計課課長補佐 施設部環境配慮促進課長(兼) 施設部施設整備課長 室蘭工業大学施設課長 社会共創部産学連携課長 社会共創部社会連携課課長補佐 社会共創部広報課卒業生・基金室室長補佐 環境科学事務部事務長 医学系事務部会計課長 工学系事務部総務課長 学務部国際交流課長 研究推進部研究支援課長 工学系事務部総務課課長補佐 財務部調達課課長補佐 監査室長 法学研究科・法学部事務長 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室管理調整係長 北海道大学病院管理課長

新任役員紹介

令和6年4月1日付



理事・副学長に

瀬戸口 剛 氏

瀬戸口剛氏は、令和6年4月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

担当

最高研究責任者、研究統括、産学連携統括、アントレプレナーシップ、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）統括

兼務する職

研究戦略室長、創成研究機構長、産学・地域協働推進機構長、統合URA本部長

略歴

生年月日 昭和37年10月18日
 昭和61年 3月 早稲田大学工学部卒業
 昭和63年 3月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
 平成 3年 3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士課程単位取得修了
 平成 6年 3月 博士（工学）（早稲田大学）
 平成 2年 4月 早稲田大学工学部 助手
 平成 3年 4月 北海道大学工学部 助手
 平成 7年 4月 北海道大学工学部 助教授
 平成 9年 4月 北海道大学大学院工学研究科 助教授
 平成13年 9月 } カリフォルニア大学バークレイ校 客員研究員
 平成14年 8月 }
 平成19年 4月 北海道大学大学院工学研究科 准教授
 平成22年 5月 北海道大学大学院工学研究院 教授
 平成29年 4月 } 北海道大学大学院工学研究院 副工学研究院長 教授
 平成31年 3月 }
 平成31年 4月 } 北海道大学大学院工学研究院
 令和 5年 3月 } 工学研究院長・工学院院长・工学部長 教授
 令和 6年 4月 } 北海道大学理事・副学長



理事に

甲田 彰 氏

甲田 彰氏は、令和6年4月1日付で理事に発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

担当

最高財務責任者、財務統括、情報統括（DX、サイバーセキュリティを含む）、資産・寄附金運用、Venture Capital、病院再開発支援

兼務する職

情報環境推進本部長

略歴

昭和60年 3月 東京大学工学部卒業
 昭和60年 4月 東京海上火災保険株式会社
 平成11年 4月 東京海上火災保険株式会社個人商品業務部積立保険第2課課長
 平成14年 7月 科学技術振興事業団
 平成16年 1月 科学技術振興機構特別プロジェクト推進室調査役
 平成21年 4月 科学技術振興機構経営企画部調査役（戦略企画担当）
 平成23年 4月 科学技術振興機構人財部長
 平成27年10月 科学技術振興機構理事
 令和 5年 4月 科学技術振興機構副理事
 令和 6年 4月 北海道大学理事



理事（非常勤）に

クリスティーナ アメージャン
Christina Ahmadjian 氏

Christina Ahmadjian氏は、令和6年4月1日付で理事（非常勤）に発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

担当

大学ビジョン、経営改革

略歴

昭和56年 6月 ハーバード大学東アジア研究学部卒業
 平成 6年12月 カリフォルニア大学バークレイ校博士課程修了
 平成 7年12月 Ph.D.（経営学）（カリフォルニア大学）
 昭和57年11月 } 三菱電機株式会社
 昭和59年 2月 }
 昭和60年 1月 } Shearson Lehman Brothers, Tokyo, Japan.
 昭和60年 6月 } Research Associate.
 昭和62年 9月 } Bain & Company, San Francisco, CA. Consultant.
 昭和64年 1月 }
 平成 7年 1月 } Columbia University, Graduate School of Business.
 平成13年10月 } Assistant Professor.
 平成12年 9月 } 東京大学 客員研究員
 平成13年 9月 }
 平成13年10月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科助教授
 平成16年 3月 }
 平成16年 4月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授
 平成24年 3月 }
 平成21年 6月 } エーザイ株式会社 社外取締役
 平成25年 6月 }
 平成22年 4月 } 一橋大学大学院国際企業戦略研究科研究科長
 平成24年 3月 }
 平成24年 4月 } 一橋大学大学院商学研究科教授
 平成30年 3月 }
 平成24年 6月 } 三菱重工業株式会社 社外取締役
 令和 3年 6月 }
 平成26年 6月 } 株式会社日本取引所グループ 社外取締役
 令和 4年 6月 }
 平成30年 4月 } 一橋大学大学院経営管理研究科教授
 令和 4年 4月 }
 平成30年 6月 住友電気工業株式会社 社外取締役
 令和元年 6月 アサヒグループホールディングス 社外取締役
 令和 2年 4月 } 東京理科大学 非常勤講師
 令和 5年 3月 }
 令和 3年 6月 日本電気株式会社 社外取締役
 令和 4年 4月 一橋大学 名誉教授
 令和 4年 4月 } 立教大学経営学部国際経営学科 特任教授
 令和 5年 3月 }
 令和 4年 6月 日本特殊陶業株式会社 社外取締役
 令和 5年 1月 株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ 社外取締役
 令和 6年 4月 北海道大学理事（非常勤）

新任副学長紹介

令和6年4月1日付



副学長に

にしむら たかのり
西邑 隆徳 氏

副学長に西邑隆徳氏が発令されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

担 当

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)

略 歴

生 年 月 日 昭和33年11月22日
昭和58年 3月 北海道大学農学部卒業
昭和59年 4月 } 北海道立新得畜産試験場技術吏員
平成 3年 3月 }
平成 3年 4月 北海道大学農学部助手
平成 7年 9月 博士 (農学) (北海道大学)
平成 9年 4月 北海道大学農学部助教授
平成11年 4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
平成18年 4月 北海道大学大学院農学研究院助教授
平成19年 4月 北海道大学大学院農学研究院准教授
平成22年 4月 北海道大学大学院農学研究院教授
平成31年 4月 } 北海道大学大学院農学研究院長・農学院院长・農学部長
令和 5年 3月 }
令和 6年 4月 北海道大学創成研究機構特任教授
令和 6年 4月 北海道大学副学長

新任副理事紹介

令和6年4月1日付



副理事に

寺内 伊久郎 氏

副理事に寺内伊久郎氏が発令されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年7月15日
 昭和54年 3月 大阪府立天王寺高等学校卒業
 昭和59年 3月 早稲田大学理工学部卒業
 昭和59年 4月 松下電器産業株式会社
 平成17年 1月 弁理士登録
 平成26年 2月 パナソニック株式会社（現パナソニックHD）退職
 平成26年 3月 北海道大学 産学連携本部 創造的知財創出部門長(兼)産学連携法務室長
 平成27年 4月 北海道大学 産学連携本部 戦略企画部門長
 平成30年 4月 北海道大学 産学・地域協働推進機構 産学連携本部本部長
 平成31年 4月 北海道大学 産学・地域協働推進機構 産学連携推進本部本部長
 令和 2年12月 北海道大学 経済学研究院 博士後期課程卒業、博士(経営学)(北海道大学)
 令和 3年 8月 北海道大学 産学・地域協働推進機構副機構長(兼)産学連携推進本部本部長
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

吉野 正則 氏

副理事に吉野正則氏が発令されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

略 歴

昭和55年 4月 株式会社日立製作所
 平成 5年 株式会社日立製作所 主任技師（部長代理）
 平成12年 株式会社日立製作所デジタルメディアグループ統括営業本部部長
 平成18年 株式会社日立製作所ユビキタスプラットフォームグループ
 マーケティング本部 担当本部長
 平成23年 日立コンシューマエレクトロニクス株式会社社会インフラ事業
 推進本部（現 生活インフラ事業推進本部）本部長
 平成27年 株式会社日立製作所 基礎研究センタ シニアプロジェクト
 マネージャー、北海道大学COI拠点長・客員教授
 平成28年 株式会社 日立製作所 基礎研究センタ 日立北大ラボ ラボ長
 令和 4年 北海道大学産学・地域協働推進機構社会・地域創発本部長・特任教授
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

佐藤 典宏 氏

副理事に佐藤典宏氏が発令されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和35年3月18日
 昭和60年 3月 北海道大学医学部卒業
 昭和60年 4月 北海道大学医学部第二内科学講座研究従事
 昭和60年 6月 北海道大学医学部付属病院医員（研修医）
 昭和60年10月 滝川市立病院
 昭和61年10月 北海道大学医学部付属病院医員（研修医）
 平成 2年 4月 釧路赤十字病院第一内科部長
 平成 3年 5月 釧路赤十字病院医師（非常勤）
 平成 3年 5月 北海道大学医学部付属病院医員
 平成 7年10月 北海道赤十字血液センター研究員
 平成14年11月 北海道大学医学部付属病院講師
 平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部付属病院講師
 平成16年 4月 北海道大学病院講師
 平成21年 7月 北海道大学病院教授
 平成23年 4月 } 探索医療教育研究センター
 平成26年10月 }
 平成30年 1月 } 北海道大学国際連携教育研究局
 令和 3年 4月 }
 令和 2年10月 } 北海道大学総長補佐
 令和 6年 3月 }
 令和 4年10月 } 北海道大学創成研究機構ワクチン研究開発拠点副拠点長・
 現 在 } 創成研究機構ワクチン研究開発拠点臨床開発部門長
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

門出 健次 氏

副理事に門出健次氏が発令されました。
任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和36年7月30日
 昭和59年 3月 北海道大学理学部卒業
 昭和63年 3月 北海道大学大学院理学研究科博士課程中退
 平成 5年 3月 博士（理学）（北海道大学）
 昭和63年 4月 北海道大学理学部助手
 平成 6年 3月 米国コロンビア大学博士研究員
 平成 8年 7月 東北大学反応科学研究所助手
 平成13年 4月 東北大学多元物質科学研究所助手
 平成13年 7月 北海道大学理学部助教授
 平成18年 4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院准教授
 平成22年 4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
 平成25年 4月 } 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 平成28年 3月 } 附属次世代ポストゲノム研究センター長
 平成28年 4月 } 北海道大学大学院先端生命科学研究院
 現 在 } 附属次世代物質生命科学センター長
 平成25年 4月 } 北海道大学大学院先端生命科学研究院副研究院長
 平成31年 3月 }
 平成31年 4月 } 北海道大学大学院先端生命科学研究院長
 令和 5年 3月 }
 令和 5年 4月 } 総長補佐
 令和 6年 3月 }
 令和 6年 4月 内閣府上席科学技術政策フェロー
 令和 6年 4月 北海道大学副理事



副理事に

むねとも まさはる
棟朝 雅晴 氏

副理事に棟朝雅晴氏が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和43年9月10日
平成 3年 3月 北海道大学工学部卒業
平成 5年 3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
平成 5年 3月 修士（工学）（北海道大学）
平成 8年 3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
平成 8年 3月 博士（工学）（北海道大学）
平成 8年 4月 北海道大学工学部助手
平成 9年 4月 北海道大学大学院工学研究科助手
平成10年 6月 } イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校客員研究員
平成11年 3月 }
平成11年10月 北海道大学情報メディア教育研究総合センター助教授
平成15年 4月 北海道大学情報基盤センター助教授
平成19年 4月 北海道大学情報基盤センター准教授
平成24年 8月 北海道大学情報基盤センター教授
平成25年 4月 } 北海道大学情報基盤センター副センター長
平成31年 3月 }
平成27年 4月～北海道大学情報環境推進本部情報化統括責任者補佐役
平成31年 4月～北海道大学情報環境推進本部情報化推進室長
平成31年 4月～北海道大学教育研究評議会評議員
平成31年 4月～北海道大学情報基盤センター長
令和 6年 4月 北海道大学副理事

役員（再任）紹介

令和6年4月1日付

理事・副学長に

山口 淳二 氏

山口淳二氏は、令和4年4月1日から理事・副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当

統括理事（プロボスト）

中期目標・中期計画、教員人事（全学運用教員を含む）、運営組織・教育研究組織、大学質保証、大学連携、半導体拠点形成統括、ダイバーシティ・インクルージョン、障害者差別解消

兼務する職

経営戦略室長、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部長、質保証推進本部長、半導体拠点形成推進本部長

理事・副学長に

横田 篤 氏

横田 篤氏は、令和4年4月1日から理事・副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当

最高サステイナビリティ責任者

サステイナビリティ・SDGs、ゼロカーボン・再生エネルギー、施設・環境管理統括、同窓会・校友会、フロンティア基金、150周年事業、GI-CoRE、国際オフィス、財務基盤強化

兼務する職

施設・環境計画室長、サステイナビリティ推進機構長、東京オフィス所長

理事・副学長に

山本 文彦 氏

山本文彦氏は、令和4年4月1日から理事・副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当

最高教育責任者

教育統括（入試、高大連携、大学院・学部改革、リカレント等）、コンプライアンス、アイヌ関係統括

兼務する職

教育改革室長、高等教育推進機構長、大学院教育推進機構長、アドミッション本部長、アイヌ共生推進本部長、附属図書館長、大学文書館長

理事・副学長に

高橋 彩 氏

高橋 彩氏は、令和5年4月1日から理事・副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当

最高国際責任者

国際統括、広報統括、学生支援統括（奨学厚生、キャリア支援、国際交流）、ハラスメント対応

兼務する職

国際連携推進本部長

理事に

行松 泰弘 氏

行松泰弘氏は、令和4年4月1日から理事を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当

事務統括

職員人事・労務管理・業務改善（事務DXを含む）、社会連携統括、リスク管理統括、安全衛生、病院経営支援

兼務する職

技術支援本部長、安全衛生本部長、広報・社会連携本部長

副学長等（再任）紹介

令和6年4月1日付

副学長に

あつみ たつや
渥美 達也 氏

渥美達也氏は、令和4年4月1日から副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和7年3月31日までです。

担当は病院経営、病院再開発です。

副学長に

ゆはず かずより
弼 和順 氏

弼 和順氏は、令和4年4月1日から副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和7年3月31日までです。

担当は新渡戸カレッジ、同窓会・校友会支援です。

副学長に

いしもり こういちろう
石森 浩一郎 氏

石森浩一郎氏は、令和4年4月1日から副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当は化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）、大学院生フェロースhip（SPRING）事業です。

副学長、総合IR本部長に

はせやま みき
長谷山 美紀 氏

長谷山美紀氏は、令和4年4月1日から副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和8年3月31日までです。

担当はIR、データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）、数理データサイエンスです。

副学長に

しみず きよゆき
清水 聖幸 氏

清水聖幸氏は、令和5年10月1日から副学長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。任期は令和6年9月30日までです。

担当は半導体拠点形成です。

新任部局長等紹介

令和6年4月1日付

教育学研究院長・教育学院長・教育学部長に



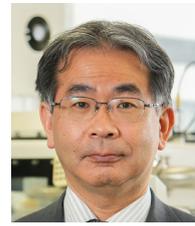
つじ ともこ 教授

令和6年3月31日限りで横井敏郎教育学研究院長・教育学院長・教育学部長が任期満了となり、その後任として辻智子教授が発令されました。
任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和46年2月14日
 平成 5年 3月 お茶の水女子大学教育学部卒業
 平成 7年 3月 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程修了
 平成12年 3月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位修得退学
 平成22年 9月 博士（学術）（お茶の水女子大学）
 平成12年 4月 } 首都圏の大学（早稲田大学、東京家政学院大学、千葉大学、
 平成23年 3月 } 神奈川大学、東洋大学ほか）において非常勤講師
 平成23年 4月 } 東海大学課程資格教育センター特任講師
 平成25年 3月 }
 平成25年 4月 北海道大学大学院教育学研究院准教授
 令和 5年 4月 北海道大学大学院教育学研究院教授
 令和 6年 4月 北海道大学大学院教育学研究院長・教育学院長・教育学部長

総合化学院長に



ただなが きよはる 教授

令和6年3月31日限りで佐田和己総合化学院長が任期満了となり、その後任として忠永清治教授が発令されました。
任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和42年7月25日
 平成 2年 3月 大阪府立大学工学部卒業
 平成 4年 3月 京都大学大学院工学研究科分子工学専攻修士課程修了
 平成 8年10月 博士（工学）（大阪府立大学）
 平成 4年 4月 大阪府立大学工学部学部助手
 平成12年 4月 大阪府立大学大学院工学研究科講師
 平成12年 7月 大阪府立大学大学院工学研究科助教
 平成19年 4月 大阪府立大学大学院工学研究科准教授
 平成25年 4月 北海道大学大学院工学研究院教授
 令和 6年 4月 北海道大学大学院総合化学院長

経済学研究院長・経済学院長・経済学部長に



くぼ じゅんじ 教授

令和6年3月31日限りで久保田肇経済学研究院長・経済学院長・経済学部長が任期満了となり、その後任として久保淳司教授が発令されました。
任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和47年11月4日
 平成 7年 3月 北海道大学経済学部卒業
 平成 9年 3月 小樽商科大学大学院商学研究科修士課程修了
 平成12年 3月 北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程修了
 平成12年 3月 博士（経営学）（北海道大学）
 平成12年 4月 北海道大学大学院経済学研究科講師
 平成14年 4月 北海道大学大学院経済学研究科助教
 平成19年 4月 北海道大学大学院経済学研究科准教授
 平成29年 4月 北海道大学大学院経済学研究院准教授
 令和 2年 4月 北海道大学大学院経済学研究院教授
 令和 4年 4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 令和 6年 3月 }
 令和 4年 4月 } 北海道大学大学院経済学研究院副研究院長
 令和 6年 3月 }
 令和 6年 4月 北海道大学大学院経済学研究院長・経済学院長・経済学部長

文学研究院長・文学院長・文学部長に



かわばた やすひろ 教授

令和6年3月31日限りで藤田 健文学研究院長・文学院長・文学部長が任期満了となり、その後任として川端康弘教授が発令されました。
任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和36年4月30日
 昭和60年 3月 北海道大学文学部卒業
 昭和63年 3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
 平成 5年10月 北海道大学大学院文学研究科修士後期課程単位修得退学
 平成 5年11月 北海道大学文学部助手
 平成 6年 3月 文学博士（北海道大学）
 平成 8年 4月 立命館大学文学部助教授
 平成11年 4月 北海道大学文学部助教授
 平成12年 4月 北海道大学大学院文学研究科助教
 平成19年 4月 北海道大学大学院文学研究科准教授
 平成22年 4月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成31年 4月 北海道大学大学院文学研究院教授
 令和 2年 4月 } 北海道大学大学院文学研究院副研究院長
 令和 6年 3月 }
 令和 4年 4月 } 教育研究評議会評議員
 令和 6年 3月 }
 令和 6年 4月 北海道大学大学院文学研究院長・文学院長・文学部長

情報科学研究院長・情報科学院長に



近野 敦 教授

令和6年3月31日限りで長谷山美紀情報科学研究院長・情報科学院長が任期満了となり、その後任として近野 敦教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和41年1月4日
 昭和63年 3月 東北大学工学部卒業
 平成 5年 3月 東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程修了
 平成 5年 3月 博士（工学）（東北大学）
 平成 5年 4月 東北大学工学部助手
 平成 7年 4月 東京大学大学院工学系研究科助手
 平成10年 4月 東北大学大学院工学研究科助教授
 平成19年 4月 東北大学大学院工学研究科准教授
 平成24年 4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
 平成31年 4月 北海道大学大学院情報科学研究院教授
 令和 2年 4月 } 北海道大学大学院情報科学研究院副研究院長
 令和 6年 3月 }
 令和 6年 4月 北海道大学大学院情報科学研究院長・情報科学院長

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に



山崎 幹根 教授

令和6年3月31日限りで空井 護大学院公共政策学連携研究部・教育部長が辞任したため、その後任として山崎幹根教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和42年7月13日
 平成 2年 3月 北海道大学法学部卒業
 平成 7年 3月 北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了
 平成10年 9月 法学博士（北海道大学）
 平成 9年 4月 釧路公立大学専任講師
 平成12年 4月 釧路公立大学助教授
 平成13年 4月 北海道大学大学院法学研究科助教授
 平成14年 4月 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教授
 平成17年 4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部助教授
 平成19年 4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
 平成25年 4月 } 北海道大学大学院公共政策学連携研究部長
 平成27年 3月 }
 平成27年 4月 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
 平成31年 4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
 令和 2年10月 } 総長補佐
 令和 6年 3月 }
 令和 6年 4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長

スラブ・ユーラシア研究センター長に



長縄 宣博 教授

令和6年3月31日限りで野町素己スラブ・ユーラシア研究センター長が任期満了となり、その後任として長縄宣博教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和52年2月7日
 平成11年 3月 東京大学文学部卒業
 平成13年 3月 東京大学大学院総合文化研究科研究科修士課程修了
 平成19年 6月 博士（学術）（東京大学）
 平成19年 8月 北海道大学スラブ研究センター准教授
 平成29年10月 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授
 令和 6年 4月 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター長

アイヌ・先住民研究センター長に



山崎 幸治 教授

令和6年3月31日限りで加藤博文アイヌ・先住民研究センター長が任期満了となり、その後任として山崎幸治教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和50年4月11日
 平成10年 3月 三重大学人文学部卒業
 平成12年 3月 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士前期課程修了
 平成19年 4月 北海道大学アイヌ・先住民研究センター助教
 平成22年10月 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授
 令和 3年 4月 北海道大学国際連携研究教育局及びアイヌ・先住民研究センター准教授
 令和 5年 6月 北海道大学国際連携研究教育局及びアイヌ・先住民研究センター教授
 令和 6年 4月 北海道大学アイヌ・先住民研究センター長

広域複合災害研究センター長に



さ さ き たかのぶ
佐々木 貴信 教授

令和6年3月31日限りで山田 孝広域複合災害研究センター長が任期満了となり、その後任として佐々木貴信教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和45年5月29日
平成 5年 3月	秋田大学鉱山学部卒業
平成 7年 3月	秋田大学大学院鉱山学研究科修士課程修了
平成 7年 4月	秋田県立農業短期大学木材高度加工研究所助手
平成11年 4月	秋田県立大学木材高度加工研究所助手
平成12年 3月	博士（工学）（秋田大学）
平成12年 4月	秋田県立大学木材高度加工研究所講師
平成17年 4月	秋田県立大学木材高度加工研究所准教授
平成24年 4月	秋田県立大学木材高度加工研究所教授
平成31年 4月	北海道大学大学院農学研究院教授
令和 6年 4月	北海道大学広域複合災害研究センター長

脳科学研究教育センター長に



みなみ まさぶみ
南 雅文 教授

令和6年3月31日限りで田中真樹脳科学研究教育センター長が任期満了となり、その後任として南 雅文教授が発令されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日	昭和38年7月20日
昭和62年 3月	京都大学薬学部卒業
平成元年 3月	京都大学大学院薬学研究科修士課程修了
平成 4年 3月	京都大学大学院薬学研究科博士後期課程単位取得退学
平成 4年 4月	京都大学薬学部助手
平成 5年 5月	博士（薬学）（京都大学）
平成 9年 4月	京都大学薬学研究科助手
平成 9年 9月	京都大学薬学研究科助教授
平成17年 4月	北海道大学大学院薬学研究科教授
平成18年 4月	北海道大学大学院薬学研究院教授
平成24年 4月	北海道大学教育研究評議会評議員
平成25年 3月	北海道大学大学院薬学研究院副研究院長
平成25年 4月	北海道大学大学院薬学研究院院長・薬学部長
平成29年 3月	北海道大学総長補佐
令和 2年 9月	北海道大学脳科学研究教育センター長
令和 6年 4月	北海道大学脳科学研究教育センター長

部局長等（再任）紹介

令和6年4月1日付

水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長に

たかぎ やすあき
都木 靖彰 教授

都木靖彰教授は、令和4年4月1日から水産科学研究院長・水産科学院長・水産学部長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

低温科学研究所長に

わたなべ なおき
渡部 直樹 教授

渡部直樹教授は、令和4年4月1日から低温科学研究所長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

触媒科学研究所長に

しみず けんいち
清水 研一 教授

清水研一教授は、令和4年4月1日から触媒科学研究所長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

北方生物圏フィールド科学センター長に

みやした かずし
宮下 和士 教授

宮下和士教授は、令和4年4月1日から北方生物圏フィールド科学センター長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

歯学研究院長・歯学院長・歯学部長に

あみづか のりお
網塚 憲生 教授

網塚憲生教授は、令和4年4月1日から歯学研究院長・歯学院長・歯学部長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

遺伝子病制御研究所長に

むらかみ まさあき
村上 正晃 教授

村上正晃教授は、令和4年4月1日から遺伝子病制御研究所長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

量子集積エレクトロニクス研究センター長に

もとひさ じゅんいち
本久 順一 教授

本久順一教授は、令和4年4月1日から量子集積エレクトロニクス研究センター長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

環境健康科学研究教育センター長に

やまうち たろう
山内 太郎 教授

山内太郎教授は、令和4年4月1日から環境健康科学研究教育センター長を務め、令和6年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和8年3月31日までです。

新任部課長等紹介

令和6年4月1日付



企画調整役（兼）監査室長（兼）
監事支援室長に

は ざ わ あ き ふ み
羽澤 明文 氏



総務企画部長に

ひ ら ま つ と お り
平松 亨 氏

- 昭和40年 7月生
- 昭和59年 3月 北海道札幌啓成高校卒
- 昭和62年 4月 北海道大学
- 平成15年 4月 北見工業大会計課総務係長
- 平成16年 4月 北見工業大学財務課総務係長
- 平成18年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課専門職員
- 平成19年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課係長
- 平成19年 7月 日高少年自然の家事業支援課管理係長
- 平成21年 4月 北海道大学工学系事務部経理課係長
- 平成24年 7月 北海道大学財務部調達課係長
- 平成25年 7月 室蘭工業大学財務グループコーディネーター
- 平成27年 7月 北海道大学研究推進部研究支援課課長補佐
- 平成28年10月 北海道大学国際部国際企画課課長補佐
- 令和元年 7月 北海道大学国際部国際企画課長
- 令和 4年 4月 北海道大学獣医学系事務部事務長
- 令和 6年 4月 北海道大学企画調整役（兼）監査室長（兼）監事支援室長

- 昭和39年12月10日生
- 昭和58年 4月 北海道大学
- 平成15年 4月 北海道大学総務部人事課専門職員（定員管理・運用担当）
- 平成16年 4月 北海道大学総務部人事課任用計画係長
- 平成18年 4月 北海道大学企画部企画調整課企画調整係長
- 平成19年 4月 北海道大学企画部企画調整課係長（企画調整担当）
- 平成22年 4月 北海道大学総務部人事課課長補佐
- 平成23年 4月 北海道大学総務企画部企画課課長補佐
- 平成26年 4月 北海道大学総務企画部人事課課長補佐
- 平成28年 4月 北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
- 平成30年 4月 北海道大学総務企画部企画課長
- 令和 3年 4月 北海道大学総務企画部総務課長
- 令和 4年 4月 北海道大学総務企画部次長（兼）総務課長
- 令和 6年 4月 北海道大学総務企画部長



研究推進部長に

つ じ や ま た か し
辻山 隆 氏



施設部長に

ひ ら の ま さ ゆ き
平野 正幸 氏

- 昭和46年 5月生
- 横浜市立大学文理学部卒業
- 平成10年10月 島根大学教育学部
- 平成12年 4月 文部省学術国際局研究助成課
- 平成15年 4月 日本学術振興会企画課専門職員
- 平成15年10月 （独）日本学術振興会学術システム研究センター調査課調査係長
- 平成17年 4月 （独）日本学術振興会研究者養成課養成第4係長
- 平成18年 4月 文部科学省研究振興局学術研究助成課企画室調査・普及係長
- 平成18年 8月 文部科学省研究振興局学術研究助成課企画室調査・普及係長（兼）研究推進係長
- 平成22年 4月 長崎大学研究企画課長
- 平成25年 4月 （独）日本学術振興会研究事業部研究助成第二課長
- 平成27年 4月 文部科学省研究振興局振興企画課専門官（研究休職（大阪医科大学））
- 平成30年 4月 文部科学省研究振興局学術研究助成課補佐
- 令和 2年 4月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学専門官
- 令和 4年 4月 横浜国立大学研究・学術情報部長
- 令和 6年 4月 北海道大学研究推進部長

- 昭和41年 7月28日生
- 平成 2年 3月 北海学園大学工学部卒業
- 平成 2年 4月 北海道大学
- 平成 8年 4月 文部省大臣官房会計課
- 平成10年 4月 文部省大臣官房文教施設部技術課
- 平成11年 4月 文部省大臣官房文教施設部技術課専門職員
- 平成12年 4月 文部省大臣官房文教施設部技術課企画係長
- 平成14年 9月 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地震・火山対策担当）付システム第一担当主査
- 平成16年10月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室整備計画第二係長
- 平成17年 1月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室整備計画第一係長（併）第二係長
- 平成18年 7月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室整備計画第一係長
- 平成21年 4月 三重大学計画推進チームリーダー
- 平成21年10月 三重大学計画推進課長（名称変更）
- 平成24年 4月 防衛省経理装備局施設整備課整備企画室防衛部員
- 平成26年 4月 文部科学省高等局私学助成課専門官
- 平成28年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課課長補佐
- 平成30年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室室長補佐
- 平成30年10月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室室長補佐
- 令和 2年 4月 山形大学施設部長
- 令和 5年 4月 九州大学施設部長
- 令和 6年 4月 北海道大学施設部長



社会共創部長に

つじ けんじ 氏
辻 賢司 氏

昭和59年 6月 北見工業大学
昭和60年 4月 北海道大学
平成16年 4月 小樽商科大学財務課予算係長
平成18年 9月 北海道大学主計課予算第三係長
平成19年 4月 北海道大学主計課係長
平成22年 4月 北海道大学病院経営企画課課長補佐
平成28年 4月 室蘭工業大学財務グループマネージャー
平成28年 7月 室蘭工業大学経営企画課長
平成30年 4月 北海道大学工学系事務部経理課長
令和 4年 4月 北海道大学社会共創部社会連携課長
令和 6年 4月 北海道大学社会共創部長



社会共創部次長（兼）産学連携課長に

まつはし かず や
松橋 和哉 氏

昭和40年 4月 2日生
平成元年 3月 北海学園大学法学部卒業
平成元年11月 小樽商科大学
平成15年 4月 北海道大学経理部経理課
平成17年 4月 苫小牧工業高等専門学校会計課年度係長
平成17年10月 苫小牧工業高等専門学校会計課総務係長（併）出納係長
平成19年 4月 苫小牧工業高等専門学校総務課財務係長
平成20年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課係長
平成22年 7月 北海道大学学術部研究協力課係長
平成23年 4月 北海道大学医学系事務部会計課係長
平成26年 4月 室蘭工業大学地域連携推進グループコーディネーター
平成28年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐
平成31年 4月 苫小牧工業高等専門学校総務課長
令和 3年 4月 北海道大学工学系事務部総務課長
令和 4年 4月 北海道大学工学系事務部経理課長
令和 6年 4月 北海道大学社会共創部次長（兼）産学連携課長



附属図書館事務部長に

くぼた そうかつ
久保田 壮活 氏

昭和42年 7月 5日生
平成 2年 4月 東京大学
平成16年 4月 東京大学附属図書館情報サービス課柏図書館情報サービス係長
平成18年 4月 東京大学附属図書館総務課柏図書館情報サービス係長
平成18年 7月 東京大学医学部・医学系研究科情報サービス係長
平成20年 4月 文部科学省大臣官房政策課資料係長
平成23年 4月 東京大学附属図書館総務課主査（図書担当）
平成25年 4月 小樽商科大学学術情報課長
平成27年 4月 東京大学教養学部等図書課長
平成30年 4月 北海道大学附属図書館管理課長
令和 2年 4月 東京大学附属図書館情報管理課長
令和 3年 4月 東京大学附属図書館総務課長
令和 6年 4月 北海道大学附属図書館事務部長



医学系事務部長に

まの しげき
眞野 茂樹 氏

昭和41年11月10日生
昭和60年 3月 北海道倶知安高等学校卒業
昭和60年 4月 北海道大学医学部附属病院医事課
平成17年 4月 北海道大学財務部主計課専門職員
平成19年 4月 北海道大学財務部主計課係長
平成20年 4月 北海道大学医学系事務部会計課係長
平成22年 7月 北海道大学財務部主計課係長
平成23年 4月 北海道教育大学事務局財務部経理課主査
平成24年 4月 北海道教育大学事務局財務部経理課副課長
平成25年 7月 北海道大学財務部主計課課長補佐
平成29年 4月 北海道大学メディア・観光学事務部事務長
平成29年10月 北海道大学研究推進部研究振興企画課WPI対策室長
平成30年 4月 北海道大学政策調整室室長代理（兼）
平成30年10月 北海道大学 ♪（兼）研究推進部研究支援課
化学反応創成研究拠点事務室長
平成31年 4月 北海道大学研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長
令和 3年 4月 北海道大学財務部経理課長
令和 6年 4月 北海道大学医学系事務部長



学務部学務企画課
大学院教育改革推進室長に
よしおか ひろし
芳岡 洋 氏

昭和46年10月 9日生
平成 7年 3月 北海学園大学法学部卒業
平成 7年 4月 北海道大学
平成20年10月 理学・生命科学事務部事務課係長
平成23年 4月 学務部教務課係長
平成26年 4月 学務部学務企画課係長
平成27年 4月 学務部学務企画課専門員
平成28年 4月 学務部学務企画課課長補佐
平成29年 4月 総務企画部総務課課長補佐
令和 2年10月 政策調整室室長補佐
令和 2年10月 総務企画部秘書室室長補佐
令和 4年 4月 学務部教育推進課課長補佐
令和 6年 4月 学務部学務企画課大学院教育改革推進室長



研究推進部研究支援課長に
いしだ いずる
石田 出 氏

昭和47年 3月生
平成 2年 4月 北海道大学
平成19年 4月 帯広畜産大学企画総務部財務課予算担当専門職員
平成21年 4月 北海道大学財務部主計課財務管理室係長
平成23年 7月 北海道大学財務部主計課係長
平成28年 4月 北海道大学財務部主計課専門員
平成30年 7月 北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 2年 4月 北海道大学財務部主計課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学研究推進部研究支援課長



施設部施設整備課長に
おしだ さとし
押田 聡 氏

昭和44年 4月25日生
平成 6年 3月 同志社大学工学部卒業
平成 6年 4月 北海道大学
平成13年 4月 北海道教育大学
平成16年 4月 北海道大学
平成19年 4月 旭川工業高等専門学校総務課施設係長
平成21年 4月 北海道大学施設部施設企画課係長
平成26年 4月 北海道大学施設部環境配慮促進課係長
平成27年 4月 北海道大学施設部施設整備課課長補佐
平成30年 4月 旭川医科大学施設課長
令和 4年 4月 室蘭工業大学施設課長
令和 6年 4月 北海道大学施設部施設整備課長



社会共創部広報課長に
のぐち あきひろ
野口 明広 氏

昭和46年 5月18日生
平成 7年 3月 北海道大学法学部卒業
平成 7年 4月 北海道大学
平成12年 4月 人事院北海道事務局第二課
平成13年 4月 人事院北海道事務局総務課
平成14年 4月 北海道大学
平成18年 4月 室蘭工業大学総務課企画調査係長
平成19年 4月 室蘭工業大学企画・評価室企画調査係長
平成21年 4月 北海道大学企画部調査分析課係長（点検評価担当）
平成23年 4月 北海道大学総務企画部総務課係長（企画担当）
平成27年 4月 北海道大学医学系事務部総務課係長（庶務担当）
平成29年 4月 北海道大学総務企画部広報課係長（卒業生・基金事務担当）
平成29年 7月 北海道大学総務企画部広報課係長（広報・渉外担当）
平成31年 4月 北海道大学総務企画部広報課課長補佐
令和 4年 4月 北海道大学社会共創部社会連携課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学社会共創部広報課長



社会共創部広報課卒業生・基金室長に

ささはら さとる
笹原 聡 氏

昭和49年11月生

平成 9年11月 北海道大学
平成23年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部係長（庶務担当）
平成26年 4月 北海道大学総務企画部人事課係長（人事総括担当）
平成28年 4月 北海道大学総務企画部企画課係長（企画担当）
令和 2年 4月 小樽商科大学総務課課長代理
令和 4年 4月 北海道大学社会共創部広報課課長補佐
令和 5年 4月 北海道大学社会共創部広報課卒業生・基金室室長補佐
令和 6年 4月 北海道大学社会共創部広報課卒業生・基金室長



工学系事務部総務課長に

おかむら こうじ
岡村 康司 氏

昭和47年 3月23日生

平成 8年 3月 新潟大学法学部卒業
平成 8年10月 北海道大学
平成19年 4月 旭川医科大学総務部総務課研究協力係長
平成21年 4月 北海道大学学術国際部産学連携・研究推進課係長
平成22年 7月 北海道大学学術部産学連携・研究推進課係長
平成23年 4月 北海道大学研究推進部産学連携課係長
平成24年 4月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課係長
平成25年 4月 北海道大学学務部教務課係長
平成26年 4月 北海道大学学務部学務企画課係長
平成27年 4月 北海道大学総務企画部総務課安全衛生室係長
平成31年 4月 北海道大学工学系事務部総務課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学工学系事務部総務課長



工学系事務部経理課長に

ちようなん としゆき
長南 敏幸 氏

昭和47年12月 1日生

平成 8年 3月 北海学園大学法学部卒業
平成 8年 4月 国立日高少年自然の家
平成11年 4月 北海道大学
平成22年 4月 北海道大学函館キャンパス事務部係長
平成24年 7月 北海道大学施設部施設企画課係長
平成27年 7月 北海道大学北キャンパス合同事務部係長
平成30年 7月 北海道大学財務部資産運用管理課係長
令和 2年10月 旭川医科大学会計課課長補佐
令和 4年 7月 北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学工学系事務部経理課長



北海道大学病院管理課長に

こんた ゆうじ
今田 有治 氏

昭和45年10月生

平成 3年 5月 北海道大学
平成18年 4月 北見工業大学財務課財務企画係長
平成21年 4月 北海道大学学術国際部研究協力課係長
平成23年 7月 北海道大学財務部主計課係長
平成25年10月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課係長
平成27年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課係長
平成28年 4月 北海道大学研究推進部研究振興企画課課長補佐
令和元年 7月 北海道大学病院経営企画課課長補佐
令和 4年 7月 北海道大学病院総務課課長補佐
令和 5年 4月 北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐
令和 6年 4月 北海道大学病院管理課長



北海道大学病院新病院デザイン課長に

こいずみ まさや
小泉 雅也 氏

昭和52年10月30日生

- 平成12年 3月 東京理科大学工学部卒業
- 平成12年 4月 北海道大学医学部附属病院管理課
- 平成15年 4月 北海道大学農学部
- 平成17年 4月 北海道大学施設部施設整備課
- 平成20年 4月 独立行政法人国立大学財務経営センター施設助成課
- 平成24年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課専門職
- 平成25年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部
施設企画課防災推進室災害復旧係長
- 平成27年 4月 文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官付機械係長
- 平成27年10月 独立行政法人日本スポーツ振興センター
新国立競技場設置本部主任専門職
- 平成29年10月 独立行政法人日本スポーツ振興センター
国立代々木競技場建築課長補佐
- 令和 2年10月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課
施設マネジメント係長（併）PFI推進係長
- 令和 4年11月 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部
計画課整備計画室管理調整係長
- 令和 6年 4月 北海道大学病院新病院デザイン課長

新任教授紹介

令和6年4月1日付



法学研究科教授に

徐 行 氏

法学政治学専攻基礎法学講座

最終学歴

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学（平成22年3月）
博士（法学）（北海道大学）

専門分野

比較法、中国法



水産科学研究院教授に

笠井 久会 氏

海洋応用生命科学部門
海洋生物工学分野

最終学歴

北海道大学大学院水産科学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野

魚病学



水産科学研究院教授に

上野 洋路 氏

海洋生物資源科学部門
海洋環境科学分野

生年月日

昭和50年5月19日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（平成15年3月）
博士（理学）（東京大学）

専門分野

海洋物理学



水産科学研究院教授に

藤本 貴史 氏

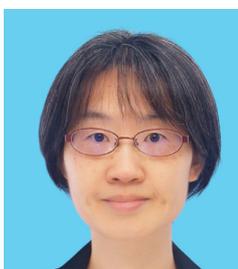
海洋応用生命科学部門
育種生物学分野

最終学歴

北海道大学大学院水産科学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野

魚類育種遺伝学、魚類発生工学



地球環境科学研究院教授に

三輪 京子 氏

環境生物科学部門
環境分子生物学分野

生年月日

昭和54年8月28日

最終学歴

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了（平成19年3月）
博士（農学）（東京大学）

専門分野

植物科学、分子生物学



理学研究院教授に

阿部 一啓 氏

化学部門有機・生命科学分野

生年月日

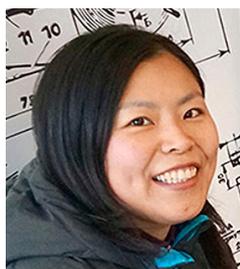
昭和50年9月11日

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（北海道大学）

専門分野

生化学、構造生物学、能動輸送体



理学研究院附属地震火山
研究観測センター教授に

おおぞの まこ
大園 真子 氏

理学研究院附属
地震火山研究観測センター

最終学歴

東北大学大学院理学研究科博士後期3年の課程修了（平成23年3月）
博士（理学）（東北大学）

専門分野

固体地球物理学



理学研究院教授に

こばやし しんぺい
小林 真平 氏

数学部門数学分野

最終学歴

神戸大学大学院自然科学研究科博士課程後期課程修了（平成17年3月）
博士（理学）（神戸大学）

専門分野

微分幾何学



理学研究院教授に

ちば ゆかこ
千葉 由佳子 氏

生物科学部門形態機能学分野

生年月日

昭和47年3月28日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

植物分子生物学



理学研究院教授に

そうま まさよ
相馬 雅代 氏

生物科学部門
行動神経生物学分野

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（平成19年3月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

行動生態学・比較認知科学



薬学研究院教授に

くろき きみこ
黒木 喜美子 氏

創薬科学部門創薬化学分野

生年月日

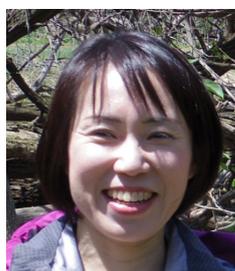
昭和50年10月1日

最終学歴

東京大学大学院医学系研究科博士課程修了（平成16年3月）
博士（保健学）（東京大学）

専門分野

構造免疫学、人類遺伝学



農学研究院教授に

もりもと じゆんこ
森本 淳子 氏

基盤研究部門森林科学分野

最終学歴

京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成12年3月）
博士（農学）（京都大学）

専門分野

生態系管理学、緑化学



農学研究院教授に

かさい みお 氏

基盤研究部門森林科学分野

最終学歴

マッコーリー大学環境生命学部自然地理学科博士課程修了（平成17年9月）
博士（環境科学）（マッコーリー大学）

専門分野

砂防、地形



農学研究院教授に

かとう ともみち 氏

連携研究部門連携推進分野

生年月日

昭51年11月23日

最終学歴

筑波大学大学院生物科学研究科博士課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（筑波大学）

専門分野

植物生態学、農業気象学



農学研究院教授に

さきはま やすこ 氏

基盤研究部門応用生命科学分野

最終学歴

琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（理学）（琉球大学）

専門分野

植物生理学、植物環境応答



農学研究院教授に

しむら はなこ 氏

基盤研究部門生物資源科学分野

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

植物生理学、園芸学、植物微生物相互作用



農学研究院教授に

わかまつ じゅんいち 氏

基盤研究部門畜産科学分野

生年月日

昭和42年8月29日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科修士課程修了（平成6年3月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

食肉科学、食肉生化学、食肉利用学



教育学研究院教授に

あべ まさき 氏

健康体育学分野

生年月日

昭和47年6月9日

最終学歴

北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了（平成15年3月）
博士（教育学）（北海道大学）

専門分野

身体運動支援システム論



教育学研究院教授に

こまがわ ともこ
駒川 智子 氏

教育社会科学分野

生年月日

昭和47年1月27日

最終学歴

一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学（平成19年3月）

専門分野

職業能力形成論



メディア・コミュニケーション研究院教授に

さいとう たくや
齋藤 拓也 氏

メディア・コミュニケーション部門
公共ジャーナリズム論分野

生年月日

昭和55年9月9日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科 博士後期課程 単位修得退学（平成25年9月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

政治思想史、社会思想史

メディア・コミュニケーション研究院教授に

はら ゆりえ
原 由理枝 氏

メディア・コミュニケーション部門
言語コミュニケーション論分野

最終学歴

University of Delaware, Department of Linguistics 博士課程修了（平成18年2月）
Ph. D. (Linguistics)（デラウェア大学）

専門分野

形式意味論



メディア・コミュニケーション研究院教授に

バイチャゼ スヴェトラナ
PAICHADZE SVETLANA 氏

メディア・コミュニケーション部門
国際地域文化論分野

最終学歴

北海道大学大学院国際広報メディア研究科 博士課程単位修得退学（平成19年6月）
博士（国際広報メディア）（北海道大学）

専門分野

移民研究



メディア・コミュニケーション研究院教授に

ふじの ようへい
藤野 陽平 氏

メディア・コミュニケーション部門
メディア文化論分野

生年月日

昭和53年1月30日

最終学歴

慶應義塾大学大学院社会学研究科 博士課程単位修得退学（平成18年3月）
博士（社会学）（慶應義塾大学）

専門分野

文化人類学



保健科学研究院教授に

さむかわ みな
寒川 美奈 氏

リハビリテーション科学分野

最終学歴

札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程後期終了（平成19年3月）
博士（理学療法学）（札幌医科大学）

専門分野

スポーツ理学療法学



工学研究院教授に

あさの やすひろ
浅野 泰寛 氏

応用物理学部門
量子物性工学分野

最終学歴

名古屋大学大学院工学研究科応用物理学専攻博士課程修了（平成7年3月）
博士（工学）（名古屋大学）

専門分野

物性理論物理学/ 超伝導、磁性



工学研究院教授に

なかしま かずのり
中島 一紀 氏

環境循環システム部門
地圏循環工学分野

最終学歴

九州大学大学院工学府化学システム工学専攻博士後期課程修了（平成19年3月）
博士（工学）（九州大学）

専門分野

生物反応工学



工学研究院教授に

はまな いくお
濱 幸雄 氏

建築都市部門先端空間性能分野

生年月日

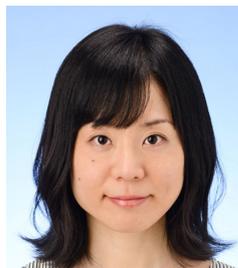
昭和36年11月28日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程（昭和61年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

建築コンクリート構造・材料学



工学研究院教授に

さるわたり あゆみ
猿渡 亜由未 氏

土木工学部門自然災害適応分野

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科環境フィールド工学専攻博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

海岸工学



工学研究院教授に

ふじむら なお
藤村 奈央 氏

機械・宇宙航空工学部門
機械材料システム分野

最終学歴

北海道大学大学院工学院機械宇宙工学専攻博士後期課程修了（平成26年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

材料強度学



工学研究院教授に

よしい としお
吉井 稔雄 氏

土木工学部門先端社会システム分野

生年月日

昭和39年6月4日

最終学歴

東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了（平成6年3月）
博士（工学）（東京大学）

専門分野

交通工学



経済学研究院教授に

あべ ともかず
阿部 智和 氏

経営分析分野

最終学歴

一橋大学大学院商学研究科博士課程単位修得退学（平成19年3月）
博士（商学）（一橋大学）

専門分野

組織イノベーション論



経済学研究院教授に

まつむら しほ
松村 史穂 氏

社会経済・歴史分析分野

最終学歴

東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了（平成24年3月）
博士（文学）（東京大学）

専門分野

アジア経済史



歯学研究院教授に

くろしま しんいちろう
黒嶋 伸一郎 氏

口腔医学部門口腔機能学分野

生年月日

昭和51年10月6日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成18年3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

歯科補綴学、口腔インプラント学、
分子生物学・組織形態学



歯学研究院教授に

さかぐち きわむ
坂口 究 氏

口腔医学部門口腔機能学分野

生年月日

昭和42年8月30日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成11年3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

歯科補綴学



歯学研究院教授に

たかはし しげる
高橋 茂 氏

口腔医学部門口腔機能学分野

生年月日

昭和37年12月27日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成4年3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

口腔解剖学



歯学研究院教授に

みやもと いくや
宮本 郁也 氏

口腔医学部門口腔病態学分野

生年月日

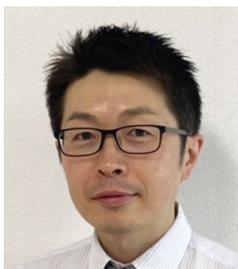
昭和46年10月5日

最終学歴

京都大学大学院医学研究科外科系専攻認定退学（平成17年3月）
博士（医学）（京都大学）

専門分野

骨造成手術、歯科インプラント、口腔粘膜疾患



獣医学研究院教授に

いちい おさむ
市居 修 氏

基礎獣医科学分野解剖学教室

生年月日

昭和56年12月14日

最終学歴

北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了（平成21年3月）
博士（獣医学）（北海道大学）

専門分野

獣医解剖学、腎泌尿器学



文学研究院教授に

さの かつひこ
佐野 勝彦 氏

人文学部門哲学宗教学分野

最終学歴

京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了（平成22年1月）
博士（文学）（京都大学）

専門分野

論理学

文学研究院教授に

ひぐち まり
樋口 麻里 氏

人間科学部門社会学分野

最終学歴

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了（平成27年3月）
博士（人間科学）（大阪大学）

専門分野

社会的排除論、福祉社会学、医療社会学、
家族社会学、ジェンダー



文学研究院教授に

やまぐち みかこ
山口 未花子 氏

人文学部門文化多様性論分野

最終学歴

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（文学）（北海道大学）

専門分野

人類学、動物研究、狩猟採集文化研究



情報科学研究院教授に

まつばら たかし
松原 崇 氏

情報理工学部門数理科学分野

生年月日

昭和63年7月24日

最終学歴

大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻博士後期課程修了（平成27年3月）
博士（工学）（大阪大学）

専門分野

深層学習、科学技術機械学習、AIの信頼性、
コンピュータビジョン



情報科学研究院教授に

まるかめ たかお
丸亀 孝生 氏

情報エレクトロニクス部門
集積システム分野

生年月日

昭和53年10月2日

最終学歴

北海道大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了（平成19年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

AI/DX向けハードウェア、脳型コンピュータに
関する電子デバイス/回路と集積アーキテクチャ、
半導体メモリ応用、スピントロニクス



公共政策学連携研究部教授に

池 炫周 氏

経営分析分野

生年月日

昭和51年3月6日

最終学歴

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了（平成18年6月）
法学博士（北海道大学）

専門分野

東アジア現代政治



公共政策学連携研究部教授に

村上 裕一 氏

公共政策学分野

生年月日

昭和56年10月8日

最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了（平成24年3月）
博士（法学）（東京大学）

専門分野

行政学



北海道大学病院教授に

小野 尚子 氏

光学医療診療部

生年月日

昭和47年10月25日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成18年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

消化器内科



北海道大学病院教授に

榊原 純 氏

地域医療連携福祉センター

生年月日

昭和46年6月11日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成12年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

呼吸器内科、胸部腫瘍



北海道大学病院教授に

田中 佐織 氏

口腔ケア連携センター

生年月日

昭和38年7月9日

最終学歴

北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成12年3月）
博士（歯学）（北海道大学）

専門分野

歯周病学、歯内療法学、総合歯科学



北海道大学病院教授に

長 祐子 氏

小児成人移行期医療支援センター

生年月日

昭和40年8月4日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成11年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

小児科学、小児腫瘍学、小児緩和医療学



北海道大学病院教授に

にしお きおり
西尾 妙織 氏

血液浄化部

生年月日

昭和45年11月3日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成16年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

腎臓内科学、透析



低温科学研究所教授に

あおき しげる
青木 茂 氏

水・物質循環部門
大気海洋相互作用分野

最終学歴

九州大学大学院総合理工学研究科博士課程修了（平成7年3月）
博士（理学）（九州大学）

専門分野

海洋物理学、極域海洋学



電子科学研究所教授に

こばやし かや
小林 夏野 氏

物質科学研究部門
電子物性材料創成研究分野

生年月日

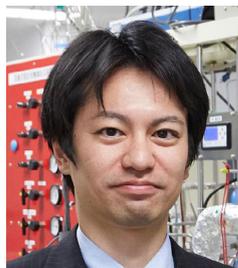
昭和51年7月16日

最終学歴

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（平成16年4月）
博士（工学）（東京大学）

専門分野

物性物理



触媒科学研究所教授に

むらやま とおる
村山 徹 氏

物質変換研究部門

生年月日

昭和56年7月22日

最終学歴

東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成22年3月）
博士（工学）（東京工業大学）

専門分野

物理化学、触媒化学、化学工学、表面化学、
無機材料化学



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

あおしま ようこ
青島 陽子 氏

ロシア部門

生年月日

昭和48年9月8日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（平成19年3月）
博士（文学）（東京大学）

専門分野

中東欧・ロシア近現代史



スラブ・ユーラシア研究センター教授に

のだ じん
野田 仁 氏

地域比較部門

生年月日

昭和49年12月22日

最終学歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（平成21年2月）
博士（文学）（東京大学）

専門分野

中央アジア史



人間知・脳・AI研究教育センター教授に

よしだ まさとし
吉田 正俊 氏

生年月日

昭和43年5月21日

最終学歴

東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了（平成7年3月）
博士（医学）（東京大学）

専門分野

神経生理学



高等教育推進機構教授に

あおき まいこ
青木 麻衣子 氏

生年月日

昭和51年3月14日

最終学歴

北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士後期課程修了（平成18年6月）
博士（国際広報メディア）（北海道大学）

専門分野

比較教育学



安全衛生本部教授に

こじま やすあき
小島 康明 氏

生年月日

昭和46年7月16日

最終学歴

名古屋大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成10年11月）
博士（工学）（名古屋大学）

専門分野

放射線管理学、応用原子核物理学

訃報

名誉教授 黒川 一哉 氏
(享年71歳)



名誉教授 黒川一哉 先生が令和6年3月2日に逝去されました。黒川先生は、昭和51年3月北海道大学工学部原子工学科、引き続き昭和53年3月には同学部金属工学科をご卒業後、昭和58年3月には同大学院工学研究科金属工学専攻博士課程を修了し工学博士の学位を授与されております。その後、北海道大学工学部助手、助教授を経て、平成15年4月には現在の工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターの前身である北海道大学エ

ネルギー先端工学研究センターの教授に昇任されました。平成26年3月に退職されるまで、約25年間にわたり現在の工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターならびにその前身である工学部附属金属化学研究施設及びエネルギー先端工学研究センターの発展に尽力されております。その間、平成19年4月からはエネルギー変換マテリアル研究センター長、平成22年4月からは工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センターのセンター長を務め、変革の過渡期にあった同センターの新組織構築のため運営及び発展に尽力されております。また、平成25年6月には、北海道大学工学部同窓会理事長も務めておられます。さらに、平成26年4月からは、国立高等専門学校機構理事兼苫小牧工業高等専門学校の校長として5年間勤務されております。

先生の研究のご専門は、耐酸化性に優れた超高温材料の創製開発で有名です。特に、材料開発法としてパルス通

電焼結法の適用が有効であることを見出し、これまでに新たなセラミック金属複合材料の開発や複層材料の開発を行っております。これらの研究成果に基づき、(社)日本金属学会第9回学術貢献賞(平成23年度)、ものづくり地域貢献賞(経済産業省北海道経済産業局)(平成24年2月)、火力原子力発電技術協会論文賞(平成25年度)、腐食防食学会からは貢献賞(平成28年度)ならびに功績賞(平成30年度)などの数々の受賞をされております。その間、腐食防食協会理事、表面技術協会理事、日本金属学会理事など複数の金属関係の学会活動および高温酸化・高温腐食に関する国際会議実行委員長なども務め、学術の国際化に広く貢献されております。

これまでの先生の長年にわたるご貢献に改めて感謝し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

資料

令和6年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		一般・フロンティア・国際総合入試（備考）								その他		
				人数		比率		人数		比率				
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	R5年度卒業	過年度卒業	R5年度卒業	過年度卒業	人数	比率	
総合入試文系	95	98	30	13	83	13.3%	84.7%	76	20	77.6%	20.4%	2	2.0%	
国際総合入試	5	2	2	0	1	0.0%	50.0%	1	0	50.0%	0.0%	1	50.0%	
計	100	100	32	13	84	13.0%	84.0%	77	20	77.0%	20.0%	3	3.0%	
総合入試理系	133	134	15	32	101	23.9%	75.4%	101	32	75.4%	23.9%	1	0.7%	
数学重点選抜群	239	243	24	70	172	28.8%	70.8%	165	77	67.9%	31.7%	1	0.4%	
物理重点選抜群	240	243	60	82	160	33.7%	65.8%	167	75	68.7%	30.9%	1	0.4%	
化学重点選抜群	169	172	74	32	140	18.6%	81.4%	133	39	77.3%	22.7%	0	0.0%	
総合科学選抜群	253	255	83	86	169	33.7%	66.3%	194	61	76.1%	23.9%	0	0.0%	
国際総合入試	10	5	3	0	5	0.0%	100.0%	5	0	100.0%	0.0%	0	0.0%	
計	1,044	1,052	259	302	747	28.7%	71.0%	765	284	72.7%	27.0%	3	0.3%	
文学部	155	165	67	59	102	35.8%	61.8%	130	31	78.8%	18.8%	4	2.4%	
教育学部	30	31	13	14	16	45.2%	51.6%	19	11	61.3%	35.5%	1	3.2%	
法学部	180	184	79	70	113	38.0%	61.4%	133	50	72.3%	27.2%	1	0.5%	
経済学部	160	169	43	84	85	49.7%	50.3%	123	46	72.8%	27.2%	0	0.0%	
理学部	数学科	23	24	0	8	15	33.3%	62.5%	17	6	70.8%	25.0%	1	4.2%
	物理学科	17	18	2	5	11	27.8%	61.1%	10	6	55.6%	33.3%	2	11.1%
	化学科	31	31	5	10	21	32.3%	67.7%	24	7	77.4%	22.6%	0	0.0%
	生物科学科	10	10	5	0	9	0.0%	90.0%	5	4	50.0%	40.0%	1	10.0%
	生物学専修分野	5	5	0	1	4	20.0%	80.0%	3	2	60.0%	40.0%	0	0.0%
	高分子機能学専修分野	15	15	5	1	13	6.7%	86.7%	8	6	53.3%	40.0%	1	6.7%
	小計	10	10	1	1	9	10.0%	90.0%	8	2	80.0%	20.0%	0	0.0%
	計	96	98	13	25	69	25.5%	70.4%	67	27	68.4%	27.6%	4	4.1%
地球惑星科学科	10	10	1	1	9	10.0%	90.0%	8	2	80.0%	20.0%	0	0.0%	
医学部	90	90	17	34	56	37.8%	62.2%	54	36	60.0%	40.0%	0	0.0%	
保健学科	看護学専攻	67	67	57	50	16	74.6%	23.9%	57	9	85.1%	13.4%	1	1.5%
	放射線技術科学専攻	35	36	15	30	6	83.3%	16.7%	27	9	75.0%	25.0%	0	0.0%
	検査技術科学専攻	35	35	26	28	6	80.0%	17.1%	25	9	71.4%	25.7%	1	2.9%
	理学療法専攻	17	18	5	5	13	27.8%	72.2%	16	2	88.9%	11.1%	0	0.0%
	作業療法専攻	17	17	7	12	4	70.6%	23.5%	11	5	64.7%	29.4%	1	5.9%
	小計	171	173	110	125	45	72.3%	26.0%	136	34	78.6%	19.7%	3	1.7%
	計	261	263	127	159	101	60.5%	38.4%	190	70	72.2%	26.6%	3	1.1%
歯学部	43	43	18	11	32	25.6%	74.4%	23	20	53.5%	46.5%	0	0.0%	
薬学部	24	29	11	3	26	10.3%	89.7%	21	8	72.4%	27.6%	0	0.0%	
工学部	応用理工系学科	48	48	6	7	41	14.6%	85.4%	33	15	68.8%	31.3%	0	0.0%
	情報エレクトロニクス学科	38	41	4	3	35	7.3%	85.4%	25	13	61.0%	31.7%	3	7.3%
	機械知能工学科	30	31	2	1	28	3.2%	90.3%	16	13	51.6%	41.9%	2	6.5%
	環境社会工学科	56	56	7	7	49	12.5%	87.5%	37	19	66.1%	33.9%	0	0.0%
	計	172	176	19	18	153	10.2%	86.9%	111	60	63.1%	34.1%	5	2.8%
農学部	53	53	12	2	50	3.8%	94.3%	40	12	75.5%	22.6%	1	1.9%	
獣医学部	35	37	22	3	34	8.1%	91.9%	32	5	86.5%	13.5%	0	0.0%	
水産学部	175	183	37	34	147	18.6%	80.3%	135	46	73.8%	25.1%	2	1.1%	
現代日本学プログラム	-	13	5	-	-	-	-	-	-	-	-	13	100.0%	
合計	2,528	2,596	757	797	1,759	30.7%	67.8%	1,866	690	71.9%	26.6%	40	1.5%	

備考：「一般・フロンティア・国際総合入試」の欄には、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、外国の学校等卒業業者、帰国生徒選抜による入学者及び外国人留学生は含まれない。これらの入学者は、「その他」の欄に計上している。

(学務部入試課)

令和6年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	797	520	277	30.7%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	96	65	31	3.7%
----	----	----	----	------

青森県	12	8	4
-----	----	---	---

岩手県	13	10	3
-----	----	----	---

宮城県	35	29	6
-----	----	----	---

秋田県	16	8	8
-----	----	---	---

山形県	13	6	7
-----	----	---	---

福島県	7	4	3
-----	---	---	---

関東	768	572	196	29.6%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	53	43	10
-----	----	----	----

栃木県	30	24	6
-----	----	----	---

群馬県	28	20	8
-----	----	----	---

埼玉県	104	77	27
-----	-----	----	----

千葉県	83	65	18
-----	----	----	----

東京都	311	231	80
-----	-----	-----	----

神奈川県	159	112	47
------	-----	-----	----

北陸・中部	375	277	98	14.4%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	45	32	13
-----	----	----	----

富山県	23	17	6
-----	----	----	---

石川県	36	28	8
-----	----	----	---

福井県	19	12	7
-----	----	----	---

山梨県	9	7	2
-----	---	---	---

長野県	21	19	2
-----	----	----	---

岐阜県	10	7	3
-----	----	---	---

静岡県	63	49	14
-----	----	----	----

愛知県	149	106	43
-----	-----	-----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	353	269	84	13.6%
----	-----	-----	----	-------

三重県	20	14	6
-----	----	----	---

滋賀県	13	12	1
-----	----	----	---

京都府	62	50	12
-----	----	----	----

大阪府	121	86	35
-----	-----	----	----

兵庫県	95	78	17
-----	----	----	----

奈良県	33	22	11
-----	----	----	----

和歌山県	9	7	2
------	---	---	---

中国・四国	92	64	28	3.5%
-------	----	----	----	------

鳥取県	2	1	1
-----	---	---	---

島根県	5	2	3
-----	---	---	---

岡山県	17	11	6
-----	----	----	---

広島県	28	21	7
-----	----	----	---

山口県	7	6	1
-----	---	---	---

徳島県	7	5	2
-----	---	---	---

香川県	6	4	2
-----	---	---	---

愛媛県	14	10	4
-----	----	----	---

高知県	6	4	2
-----	---	---	---

九州・沖縄	75	47	28	2.9%
-------	----	----	----	------

福岡県	29	18	11
-----	----	----	----

佐賀県	0	0	0
-----	---	---	---

長崎県	11	9	2
-----	----	---	---

熊本県	2	2	0
-----	---	---	---

大分県	4	2	2
-----	---	---	---

宮崎県	4	2	2
-----	---	---	---

鹿児島県	7	5	2
------	---	---	---

沖縄県	18	9	9
-----	----	---	---

その他	40	25	15	1.5%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	12	8	4
---------------	----	---	---

帰国生徒選抜	6	2	4
--------	---	---	---

外国人留学生	22	15	7
--------	----	----	---

入学者数合計	2,596	1,839	757
--------	-------	-------	-----

地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

編集メモ

- 広報誌「リテラポプリ」。3月末に最新号Vol.72を発行しました。今回の特集は、「北大が育む食文化」をテーマに、ワイン、北大短角牛、北大ラズベリーを取り上げました。デジタル版も掲載していますので、ぜひご覧ください。
<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>



- 4月16日（火）から、本学公式クラウドファンディングプロジェクト第6弾が新たに始まりました。詳細は、QRコードからご覧ください！

北海道大学クラウドファンディング
<https://readyfor.jp/pp/hokudai>



裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は正門です。撮影日はちょうど入学式当日でした。正門の前では新入生とご家族と一緒に記念撮影をしている様子が見られ、これからの大学生活への期待に目を輝かせる姿が印象的でした。新入生の皆様が本学で過ごす日々が、実り多きものとなることを心から願っています。

キャンパス風景 49 正門（北8条西5丁目）



北大時報 ④ No.841 令和6年4月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>